

第2章 意識調査

2-1. 調査概要

1) 調査の目的

令和3年3月に市が策定した「第3次上尾市環境基本計画」の中間見直しにあたり、市民・事業者等の住んでいる地域の環境の満足度や環境活動の取組み状況、環境の取組みを推進するにあたっての課題などを把握し、計画見直しの基礎資料とすることを目的に実施しました。

2) 調査の対象、調査方法

調査の対象者、調査期間、配布・回収方法、回収率は以下の通りです。

●市民アンケート調査

調査対象	上尾市内に在住する満18歳以上の1,500名を住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和6(2024)年9月18日～10月4日
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及びWEB回答
配布数	1,500
回収数	565 (郵送：464、WEB：101)
有効回答数/回収率	564/37.6%

●事業者アンケート調査

調査対象	上尾市内に所在する500事業者を商工会議所名簿から無作為抽出
調査期間	令和6(2024)年9月18日～10月4日
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及びWEB回答
配布数	500
回収数	194 (郵送：156、WEB：38)
有効回答数/回収率	194/38.8%

●小中学生アンケート調査

調査対象	上尾市内の公立小中学に通学する小学3年生、小学5年生、中学2年生
調査期間	令和6(2024)年11月15日～11月28日
調査方法	配布方法：各校から案内 回収方法：各家庭からWEB回答
有効回答数	789 (小学3年生：277、小学5年生：272、中学2年生：240)

3) 調査項目

市民	1) 回答者属性 (問 1～問 6) 2) 住んでいる周辺の環境について (問 7～問 9) 3) 環境への関心や取組みについて (問 10～問 13) 4) 気候変動問題について (問 14～問 17) 5) 市の環境への取組みについて (問 18～問 20)
事業者	1) 回答者属性 (問 1～問 5) 2) 環境への関心や取組みについて (問 6～問 11) 3) 気候変動対策について (問 12～問 14) 4) 市の環境への取組みについて (問 15～問 18)
小中学生	1) 回答者属性 (問 1) 2) 自分の住んでいる場所や地球の環境を守るためにやっていること (問 2～問 3) 3) 環境を守るために大切だと思うこと (問 4) 4) 将来の上尾市の環境について (問 5) 5) 地球温暖化について (問 6)

4) 結果の記載にあたっての留意点

●集計にあたっての留意点

- ・ 回答結果は、小数点第 2 位を四捨五入のうえ割合を示しているため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式。該当する設問に【複数回答】と表記。）の設問の場合、全体の回答数に対する割合を示しているため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数（有効回答数）を示しています。グラフは「n」をもととした百分率（%）で示します。市民・事業者・小中学生それぞれの有効回答数と同じ場合は「n」数は記載せず、異なる場合のみ「n」数を記載しています。
- ・ 各設問において、回答の記入がないもの、回答が識別できないものについては、「不明」としています。
- ・ 図表中の選択肢の表記について、語句などを一部簡略化している場合があります。

●前回調査との比較について

- ・ 本調査結果の分析を行うにあたり、平成 31 年度に実施された「第 3 次上尾市環境基本計画」策定時のアンケート調査結果を前回調査結果として比較を行っています。

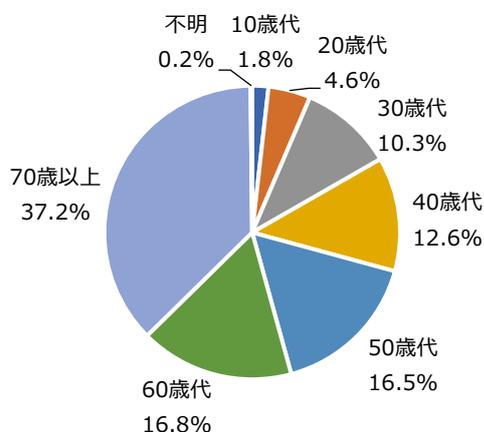
●クロス集計について

- ・ 本調査結果の分析を行うにあたり、市民アンケートについては地区や年齢、その他設問間のクロス集計を、事業者アンケートについては業種や従業員規模、その他設問間のクロス集計を行いました。

2-2. 市民アンケート調査結果

1) 回答者属性

(1) 年齢



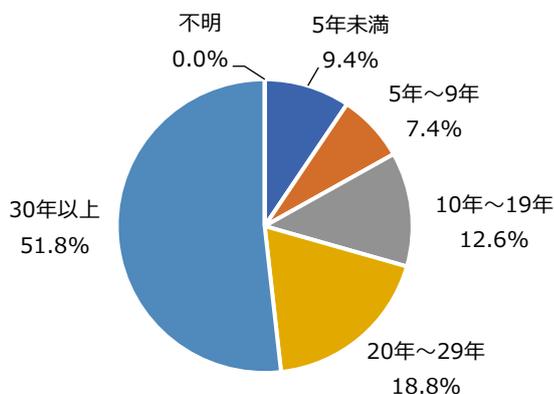
●年代別回答率

年代	配布数 ^{※1}		有効回答数		
	配布数	構成比	回答数	構成比	年代別回答率 ^{※2}
10歳代	36	2.4%	10	1.8%	27.8%
20歳代	170	11.3%	26	4.6%	15.3%
30歳代	193	12.9%	58	10.3%	30.1%
40歳代	233	15.5%	71	12.6%	30.5%
50歳代	264	17.6%	93	16.5%	35.2%
60歳代	202	13.5%	95	16.8%	47.0%
70歳以上	402	26.8%	210	37.2%	52.2%
不明	-	-	1	0.2%	-
全体	1,500	100.0%	564	100.0%	-

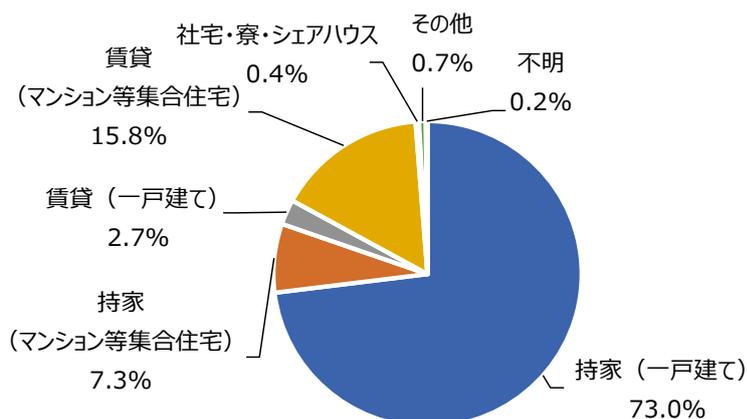
※1 配布数は人口比率に応じて設定

※2 年代別回答率 = 有効回答数 ÷ 配布数 × 100

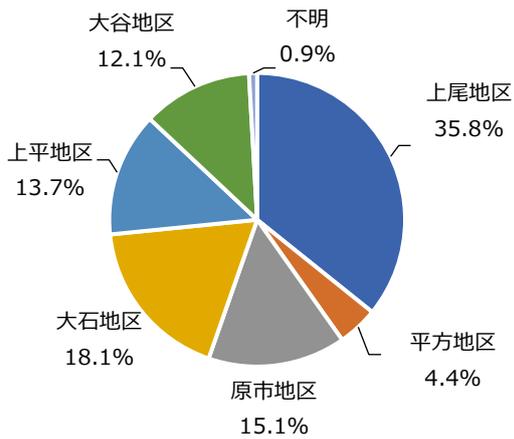
(2) 居住年数



(3) 住居形態



(4) 居住地域



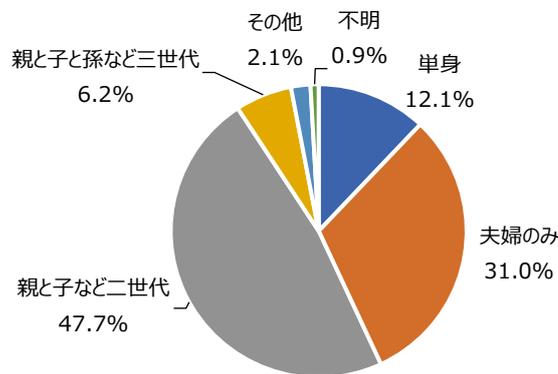
●地区別回答率

地区	配布数 ^{※1}		有効回答数		
	配布数	構成比	回答数	構成比	地区別回答率 ^{※2}
上尾地区	360	24.0%	202	35.8%	56.1%
平方地区	130	8.7%	25	4.4%	19.2%
原市地区	250	16.7%	85	15.1%	34.0%
大石地区	310	20.7%	102	18.1%	32.9%
上平地区	220	14.7%	77	13.7%	35.0%
大谷地区	230	15.3%	68	12.1%	29.6%
不明	-	-	5	0.9%	-
全体	1,500	100.0%	564	100.0%	-

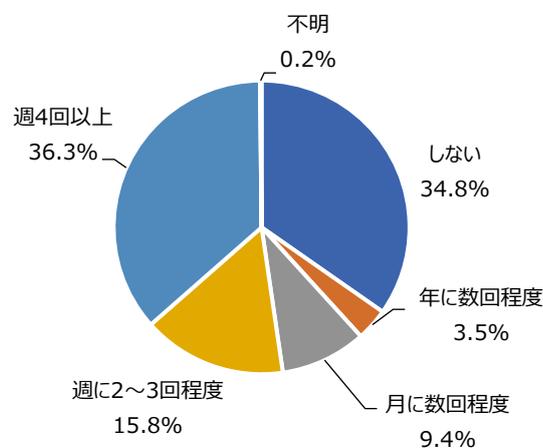
※1 配布数は人口比率に応じて設定

※2 地区別回答率 = 有効回答数 ÷ 配布数 × 100

(5) 世帯構成



(6) 自動車の運転



2) 住んでいる周辺の環境について

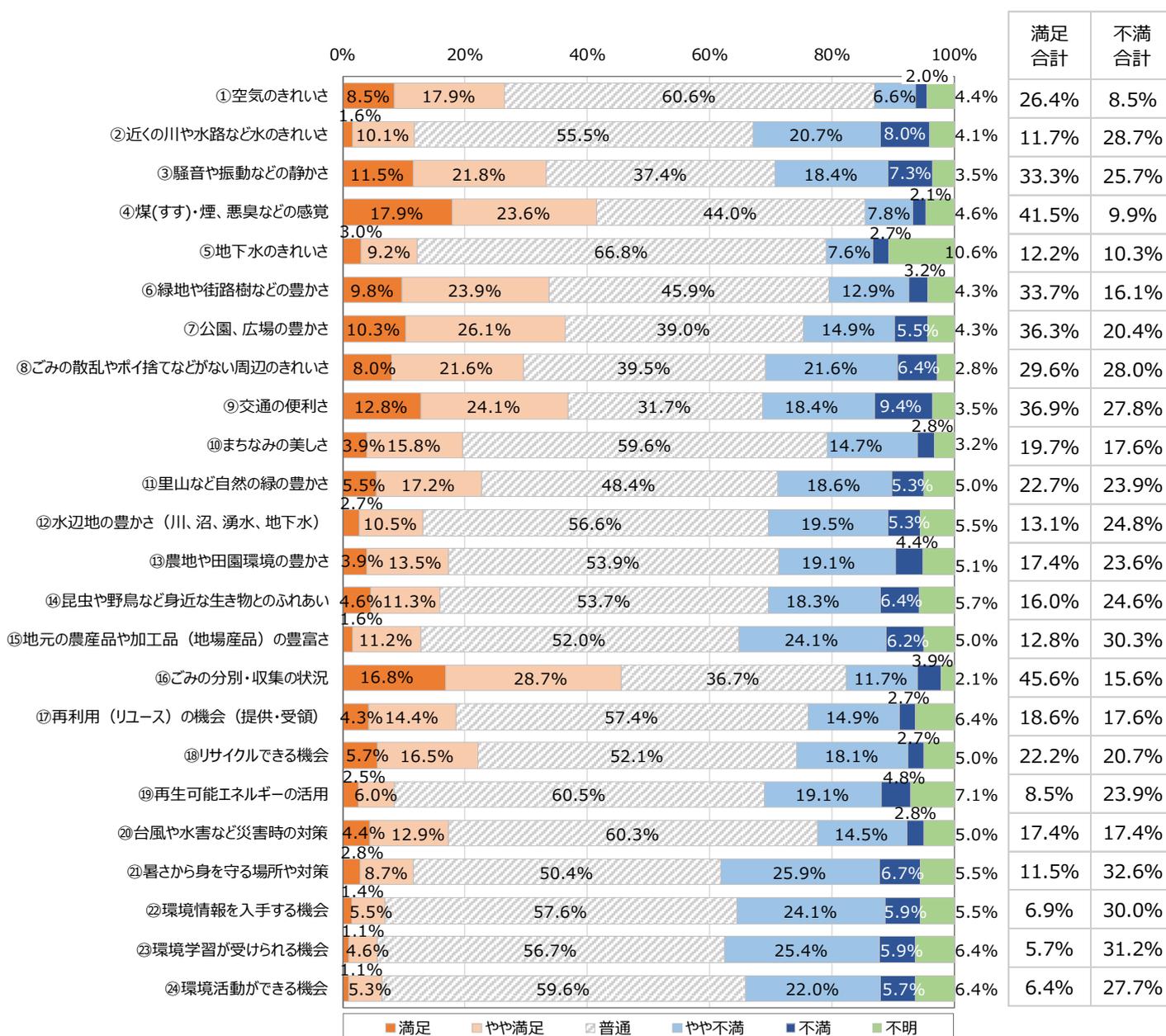
(1) 住んでいる周辺の環境に対する満足度

問 7 あなたが住んでいる周辺の環境について、日ごろどのように感じていますか。それぞれの項目について、1～5の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●周辺の環境に対する日頃の感じ方

周辺の環境に対する日頃の感じ方について、『満足合計』（「満足」「やや満足」の合計）の割合は、「⑯ごみの分別・収集の状況（45.6%）」が最も多く、次いで「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚（41.5%）」、「⑨交通の便利さ（36.9%）」、「⑦公園、広場の豊かさ（36.3%）」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ（33.7%）」が多くなっています。

一方、『不満合計』（「やや不満」「不満」の合計）の割合は、「⑳暑さから身を守る場所や対策（32.6%）」が最も多く、次いで「㉓環境学習が受けられる機会（31.2%）」、「⑮地元産の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ（30.3%）」、「㉑環境情報を入手する機会（30.0%）」、「㉒近くの川や水路など水のきれいさ（28.7%）」が多くなっています。



※小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が合わないことがあります。

●周辺の環境に対する満足度

『満足合計』と『不満合計』の両方が多いケースなどでは一概に満足度が高いと判断できないため、すべての回答に配慮した指標を『満足度点』として以下の方法で算出しました。

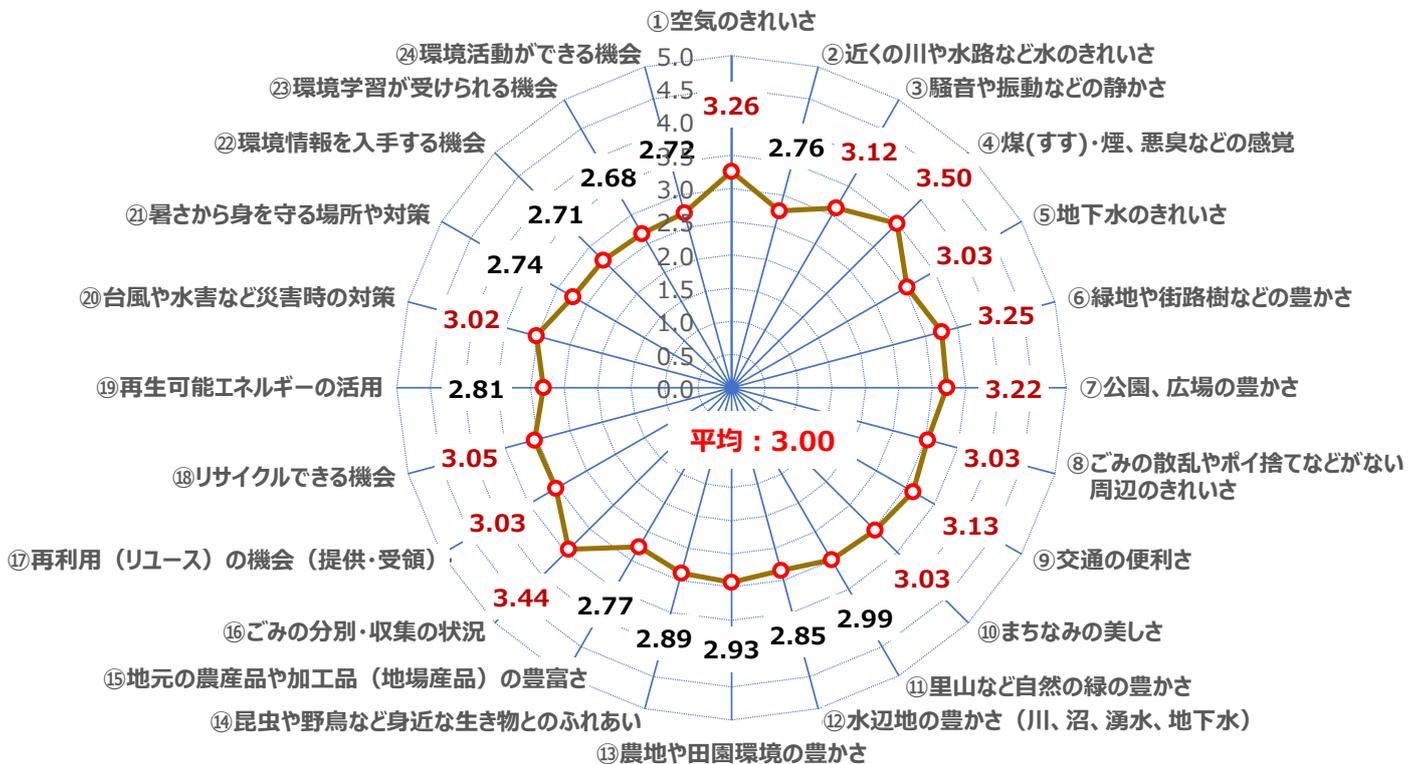
「周辺の環境に対する満足度点」

$$= \frac{\text{「満足」回答数} \times 5 + \text{「やや満足」回答数} \times 4 + \text{「普通」回答数} \times 3 + \text{「やや不満」回答数} \times 2 + \text{「不満」回答数} \times 1}{\text{回答者数 (不明除く)}}$$

周辺環境に対する満足度点は、全体の平均が3.00となりました。

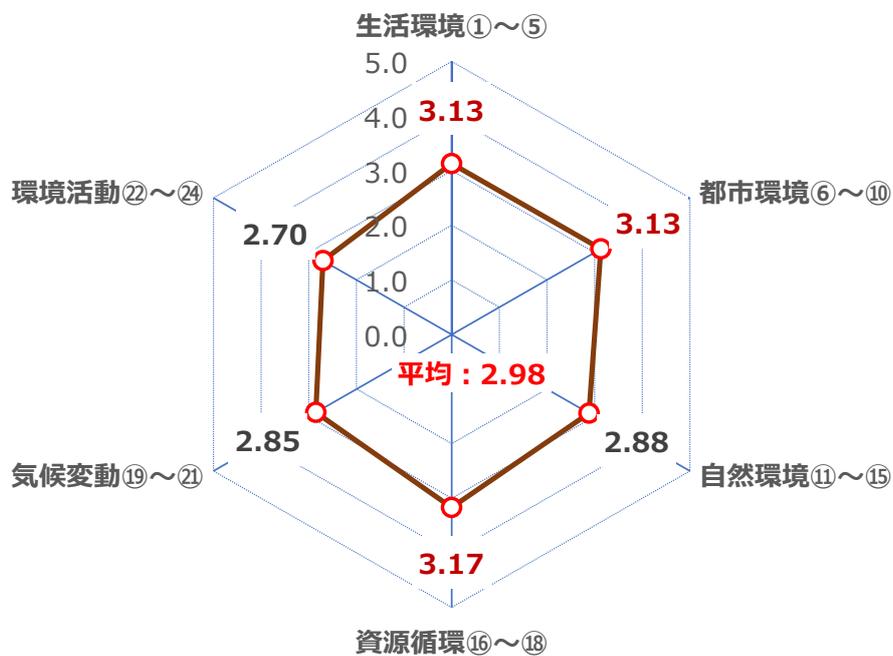
満足度点が高い項目は、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.50)」が最も高く、次いで「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.44)」、「①空気のきれいさ (3.26)」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ (3.25)」、「⑦公園、広場の豊かさ (3.22)」となっています。『満足合計』が多い5項目に入っていなかった「①空気のきれいさ」が満足度点では上位に入りました。

満足度点が高い項目は、「②環境学習が受けられる機会 (2.68)」が最も低く、次いで「②環境情報を入手する機会 (2.71)」、「②環境活動ができる機会 (2.72)」、「②暑さから身を守る場所や対策 (2.74)」、「②近くの川や水路など水のきれいさ (2.76)」となっています。『不満合計』が多い5項目に入っていなかった「②環境活動ができる機会」が満足度点では特に低い項目として入っています。



●周辺の環境に対する満足度（分野別）

周辺環境に対する満足度点を分野別で見ると、「資源循環」、「生活環境」、「都市環境」の分野が平均より満足度点が高くなっています。「環境活動」の分野は満足度点が特に低くなっています。



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について、『満足合計』、『不満合計』、『満足度』の変化の状況を整理しました。

「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚」は『満足合計』と『満足度点』が、「②近くの川や水路など水のきれいさ」は『不満合計』と『満足度点』が、「⑦公園、広場の豊かさ」は『満足度点』が、他と比較して改善傾向への変化量が大きく、満足度が向上していることがうかがえます。

一方、「⑧ごみの散乱やポイ捨てなどがない周辺のきれいさ」については、『満足合計』、『不満合計』、『満足度』すべてが悪化しています。

【満足合計・不満合計の比較】

(%)

項目	令和6年度調査		平成31年度調査		変化量	
	満足合計	不満合計	満足合計	不満合計	満足合計	不満合計
①空気のきれいさ	26.4	8.5	25.5	11.5	0.9	▲ 3.0
②近くの川や水路など水のきれいさ	11.7	28.7	12.7	36.6	▲ 1.0	▲ 7.9
③騒音や振動などの静かさ	33.3	25.7	35.1	26.7	▲ 1.8	▲ 1.0
④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚	41.5	9.9	39.0	10.9	2.5	▲ 1.0
⑤地下水のきれいさ※	12.2	10.3	21.6	8.4	▲ 9.4	1.9
⑥緑地や街路樹などの豊かさ	33.7	16.1	33.5	21.1	0.2	▲ 5.0
⑦公園、広場の豊かさ	36.3	20.4	34.5	24.2	1.8	▲ 3.8
⑧ごみの散乱やポイ捨てなどがない周辺のきれいさ	29.6	28.0	37.0	20.3	▲ 7.4	7.7
⑨交通の便利さ※	36.9	27.8	42.1	25.9	▲ 5.2	1.9
⑩まちなみの美しさ	19.7	17.6	17.9	19.5	1.8	▲ 1.9
⑪里山など自然の緑の豊かさ	22.7	23.9	20.5	25.1	2.2	▲ 1.2
⑫水辺地の豊かさ(川、沼、湧水、地下水)	13.1	24.8	12.3	26.3	0.8	▲ 1.5
⑬農地や田園環境の豊かさ	17.4	23.6	17.2	20.9	0.2	2.7
⑭昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	16.0	24.6	18.5	26.9	▲ 2.5	▲ 2.3
⑮地元の農産品や加工品(地場産品)の豊富さ	12.8	30.3	13.8	33.5	▲ 1.0	▲ 3.2

【満足度点の比較】

項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
①空気のきれいさ	3.26	3.23	0.03
②近くの川や水路など水のきれいさ	2.76	2.69	0.07
③騒音や振動などの静かさ	3.12	3.13	▲ 0.01
④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚	3.50	3.41	0.09
⑤地下水のきれいさ※	3.03	3.21	▲ 0.18
⑥緑地や街路樹などの豊かさ	3.25	3.21	0.04
⑦公園、広場の豊かさ	3.22	3.14	0.08
⑧ごみの散乱やポイ捨てなどがない周辺のきれいさ	3.03	3.24	▲ 0.20
⑨交通の便利さ※	3.13	3.25	▲ 0.13
⑩まちなみの美しさ	3.03	2.98	0.05
⑪里山など自然の緑の豊かさ	2.99	2.95	0.04
⑫水辺地の豊かさ(川、沼、湧水、地下水)	2.85	2.83	0.01
⑬農地や田園環境の豊かさ	2.93	2.98	▲ 0.05
⑭昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	2.89	2.90	▲ 0.01
⑮地元の農産品や加工品(地場産品)の豊富さ	2.77	2.77	▲ 0.00
平均	3.05	3.06	▲ 0.01

※の項目は、項目の表現の変更により比較が難しいことから、変化量は参考として扱います。

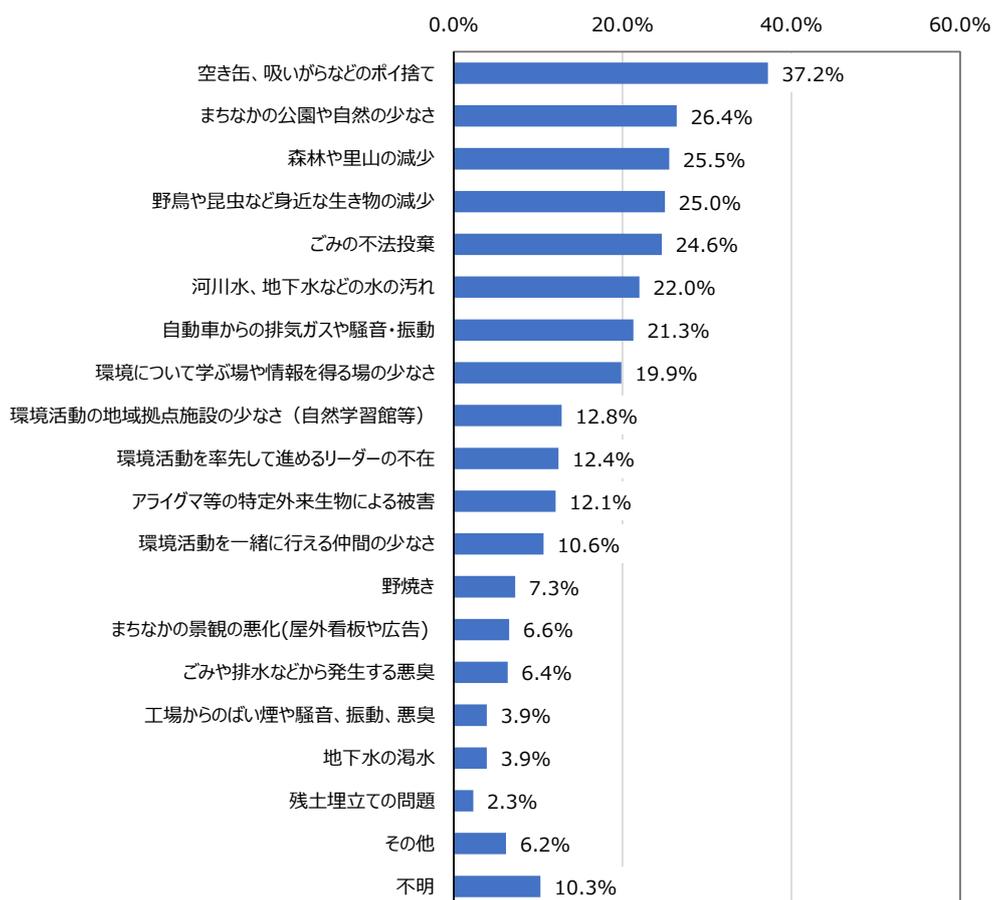
(2) 住んでいる周辺の環境で改善すべき、取組むべき環境の課題

問8 あなたが住んでいる周辺の環境について、改善すべき、また取組むべき環境の課題は、どのようなものが考えられますか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

●身近な環境課題

住んでいる周辺の環境で改善すべき、取組むべき環境の課題については、「空き缶、吸い殻などのポイ捨て (37.2%)」が最も多く、次いで「まちなかの公園や自然の少なさ (26.4%)」、「森林や里山の減少 (25.5%)」、「野鳥や昆虫など身近な生き物の減少 (25.0%)」、「ごみの不法投棄 (24.6%)」となっています。ポイ捨てや不法投棄などまちのきれいさに関連するものと、みどりや自然・生物多様性に関連するものが、上位に集中しています。

また、その他の回答として、河川や道路横等の草木の管理、ペットの汚物放棄対策、ゴミ捨て場の利用状況、住宅、道路の冠水対策などが挙げられていました。



◆その他の回答 (抜粋)

- 河川や道路横等の草木の剪定、手入れ。民家の樹木の管理。
- ハクビシン。
- ムクドリのおん被害。
- 猫の放し飼いによる糞尿・庭荒しの被害。ペットの糞害。
- ゴミ捨て場のゴミの分別がされておらず、汚れている。カラスの被害。
- 近隣飲食店等からの悪臭、騒音、排ガス。
- 公共交通機関の不便さ。バス便が少なく、バス停が遠い。
- 道路整備、拡張。舗装がこわれやすい。
- 公園は沢山あるが、樹木・日除けが無い。ベンチがあれば助かる。
- 住宅、道路の冠水対策などゲリラ豪雨への対策。

など

● 前回調査との比較

前回調査と比較を行ったところ、上位4項目の順位に変化はありませんでしたが、「空き缶、吸い殻などのポイ捨て」を課題として考える人が4.1ポイント増えた一方、「まちなかの公園や自然の少なさ」を課題として考える人が5ポイント減少し、1位と2位の差が大きく広がりました。満足度においても、「㊸ごみの散乱やポイ捨てなどがない周辺のきれいさ」が前回調査から悪化しており、ポイ捨て対策の強化が必要と考えられます。

このほか、「まちなかの景観の悪化(屋外看板や広告)」、「自動車からの排気ガスや騒音・振動」を課題として考える人の減少幅が大きく、改善傾向にあることがうかがえます。

(%)

項目	令和6年度 調査	平成31年度 調査	変化量
空き缶、吸い殻などのポイ捨て	37.2	33.1	4.1
まちなかの公園や自然の少なさ	26.4	31.4	▲ 5.0
森林や里山の減少	25.5	27.7	▲ 2.2
野鳥や昆虫など身近な生き物の減少	25.0	26.3	▲ 1.3
ごみの不法投棄	24.6	24.2	0.4
河川水、地下水などの水の汚れ	22.0	25.1	▲ 3.1
自動車からの排気ガスや騒音・振動	21.3	26.1	▲ 4.8
環境について学ぶ場や情報を得る場の少なさ	19.9	22.2	▲ 2.3
環境活動の地域拠点施設の少なさ(自然学習館等)	12.8	14.8	▲ 2.0
環境活動を率先して進めるリーダーの不在	12.4	15.0	▲ 2.6
アライグマ等の特定外来生物による被害	12.1		
環境活動を一緒に行える仲間の少なさ	10.6	10.3	0.3
野焼き	7.3	6.8	0.5
まちなかの景観の悪化(屋外看板や広告)	6.6	11.9	▲ 5.3
ごみや排水などから発生する悪臭	6.4	6.8	▲ 0.4
工場からのばい煙や騒音、振動、悪臭	3.9	5.7	▲ 1.8
地下水の濁水	3.9	2.1	1.8
残土埋立ての問題	2.3	2.3	0.0

(3) 居住地区別住んでいる周辺的环境に対する満足度と課題(クロス集計)

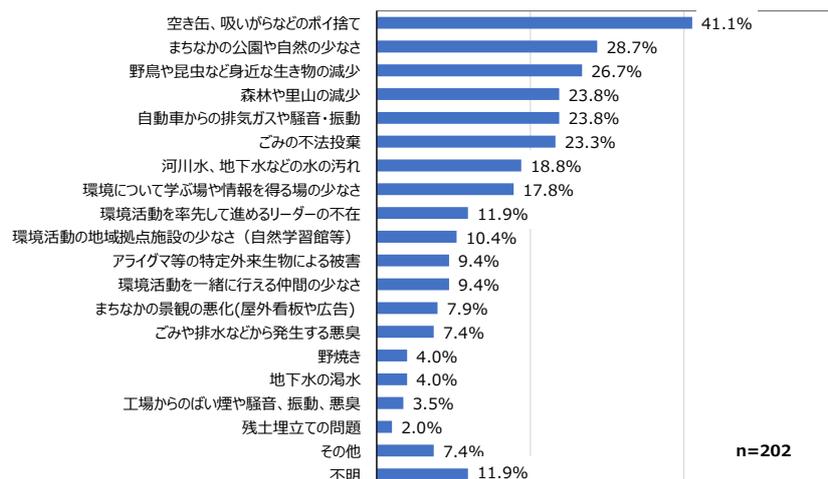
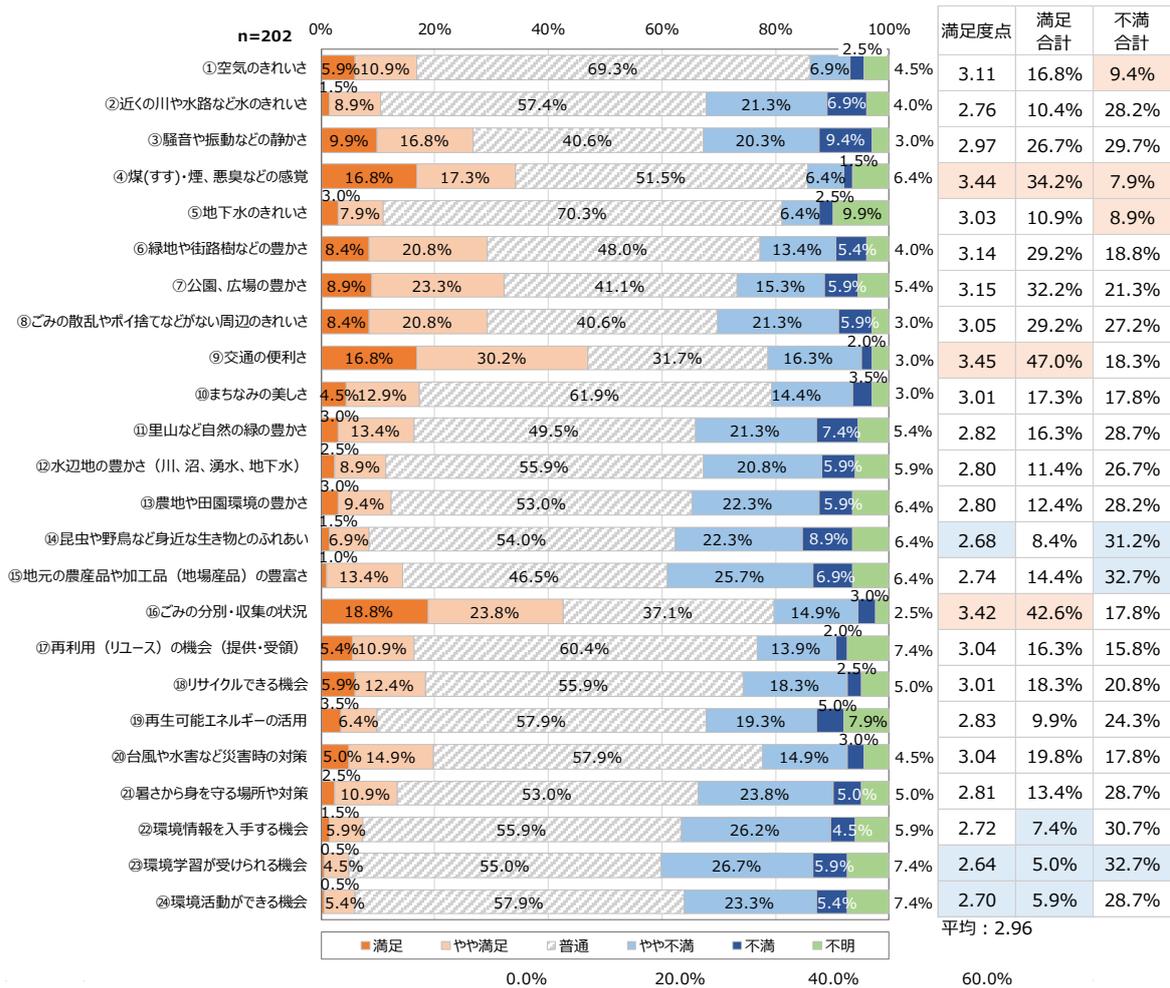
問7、問8について、居住地区別でのクロス集計を実施しました。

●上尾地区

満足度点が高い項目は、「⑨交通の便利さ(3.45)」、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚(3.44)」、「⑩ごみの分別・収集の状況(3.42)」で、『満足合計』も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「②④環境活動ができる機会(2.70)」、「④昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい(2.68)」、「②環境学習が受けられる機会(2.64)」でした。『不満合計』では、「②環境学習が受けられる機会」と「⑤地元の農産品や加工品(地場産品)の豊富さ」が最も多くなっています。

環境の課題については、「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が最も多くなっています。全地区と比較すると、「自動車からの排気ガスや騒音・振動」が上位に入っています。

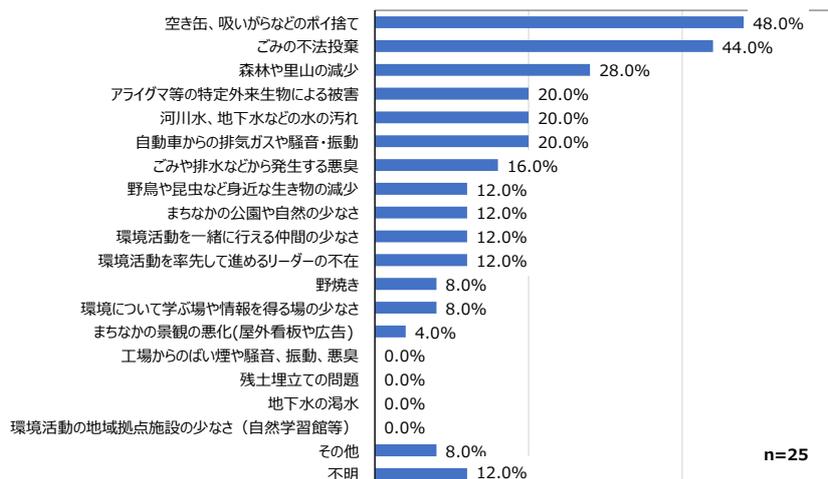
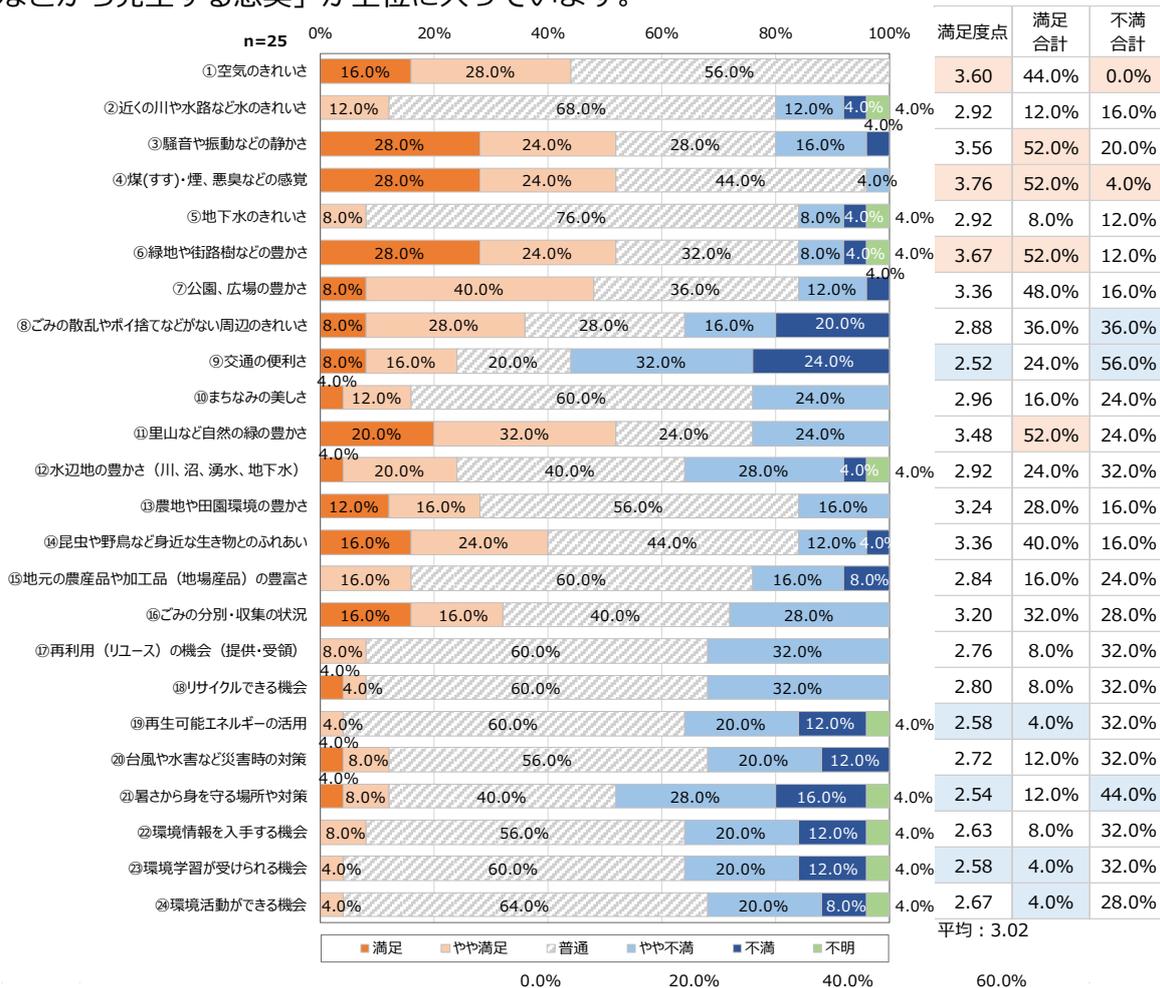


●平方地区

満足度点が高い項目は、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.76)」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ (3.67)」、「①空気のきれいさ (3.60)」でした。「①空気のきれいさ」については『不満合計』がゼロとなっています。『満足合計』では、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ」、「③騒音や振動などの静かさ」、「⑪里山など自然の緑の豊かさ」が最も多くなっています。

満足度点が高い項目は、「⑨交通の便利さ (2.52)」、「⑳暑さから身を守る場所や対策 (2.54)」、「㉑再生可能エネルギーの活用 (2.58)」、「㉒環境学習が受けられる機会 (2.58)」でした。『不満合計』の上位2項目も同じ項目となっています。

環境の課題については、「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が最も多くなっています。全地区と比較すると、「ごみの不法投棄」、「アライグマ等の特定外来生物による被害」、「ごみや排水などから発生する悪臭」が上位に入っています。

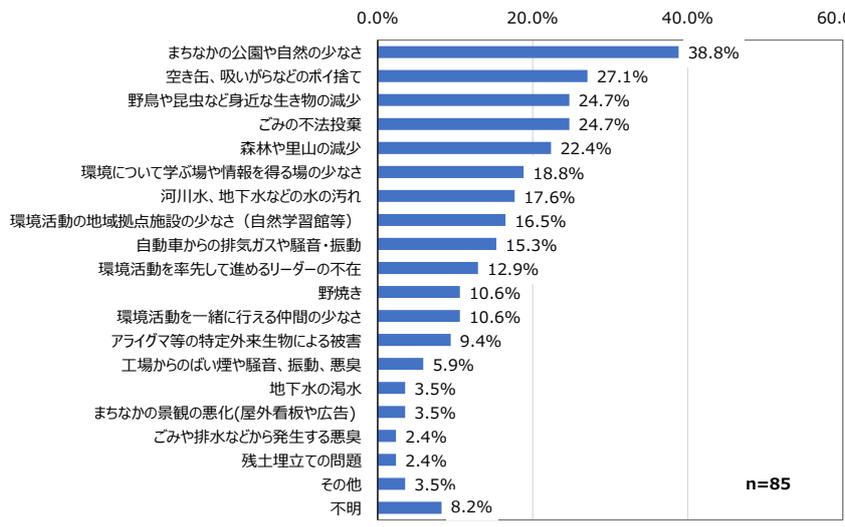
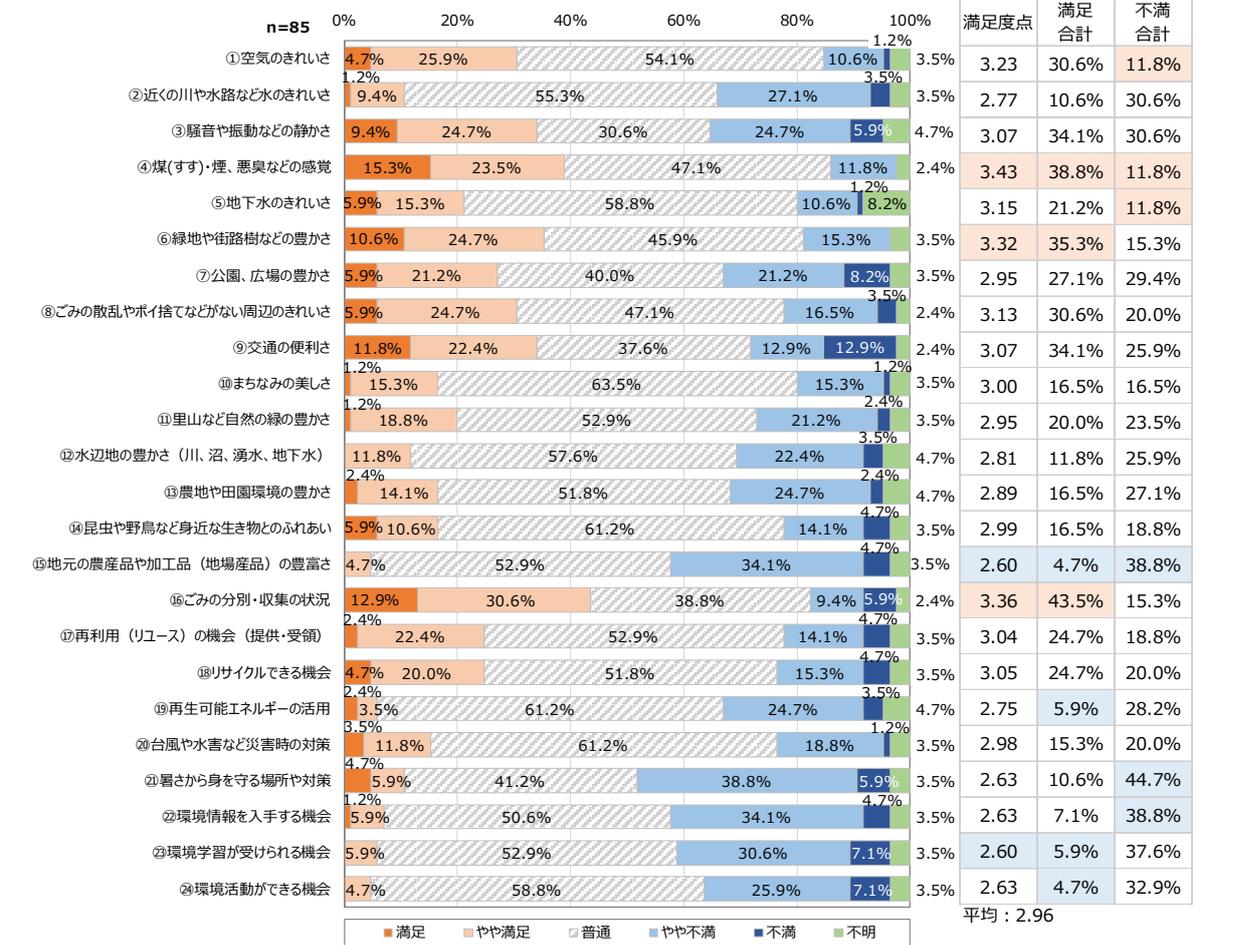


●原市地区

満足度点が高い項目は、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.43)」、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.36)」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ (3.32)」で、『満足合計』も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.36)」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ (3.32)」で、『満足合計』も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.36)」、「⑥緑地や街路樹などの豊かさ (3.32)」で、『満足合計』も同じ項目となっています。

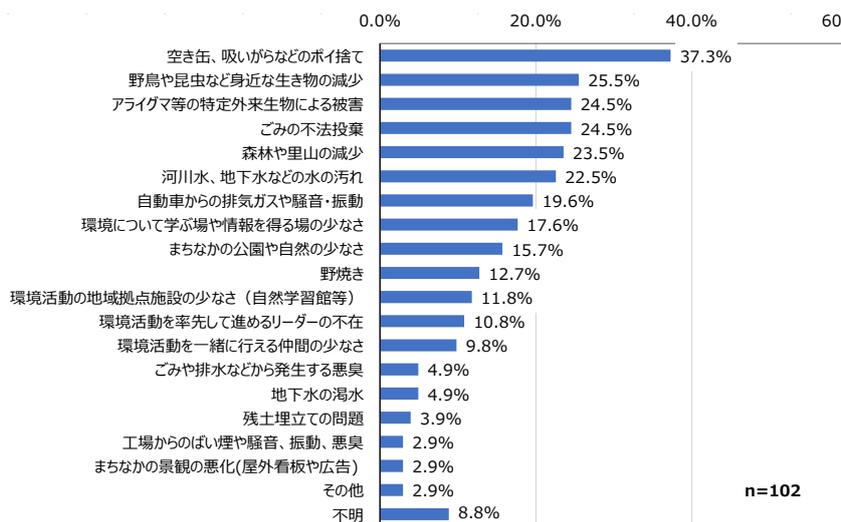
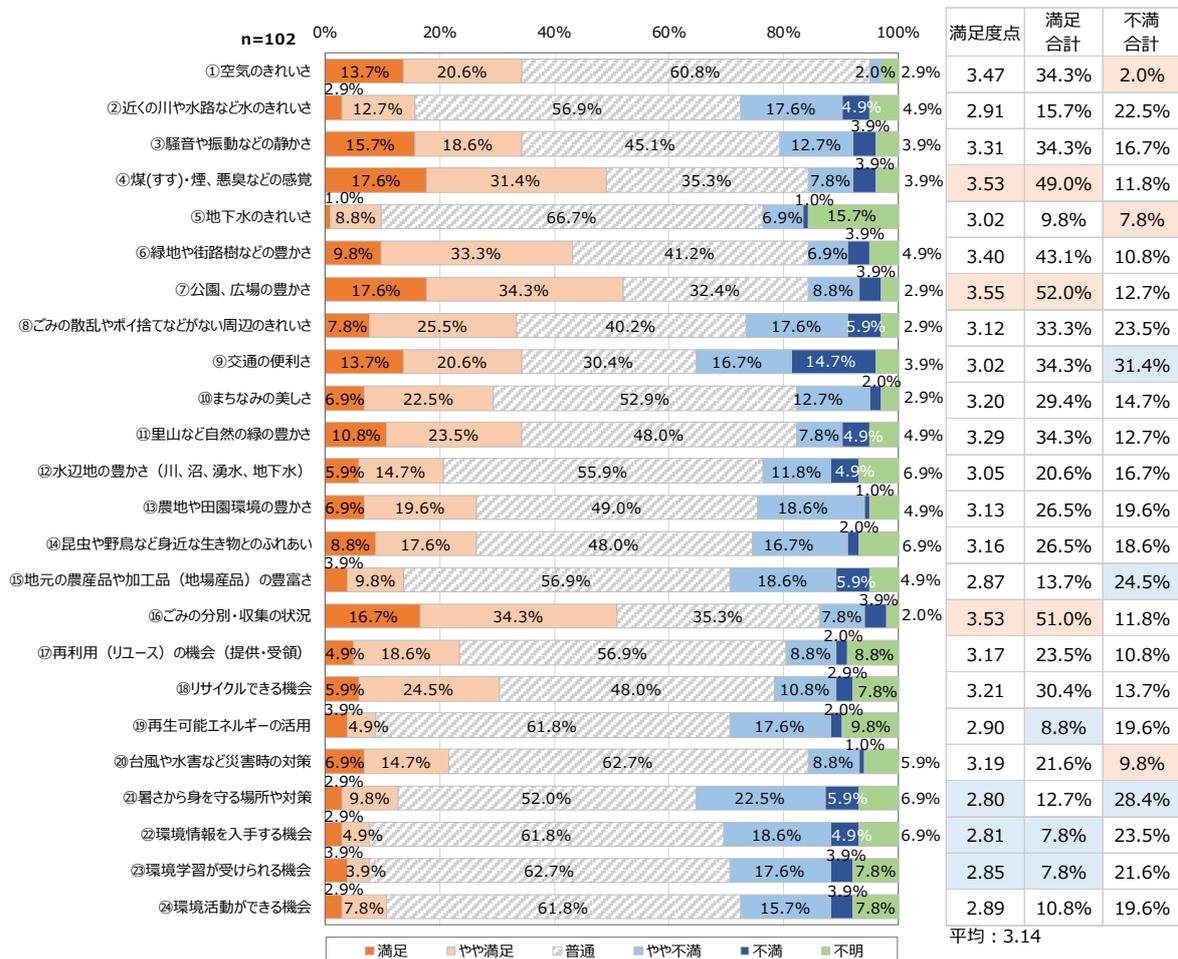


●大石地区

満足度点が高い項目は、「⑦公園、広場の豊かさ (3.55)」、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.53)」、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.53)」で、『満足合計』も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「②暑さから身を守る場所や対策 (2.80)」、「②環境情報を入手する機会 (2.81)」、「③環境学習が受けられる機会 (2.85)」でした。『不満合計』では、「⑨交通の便利さ」が最も多くなっています。

環境の課題については、「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が最も多くなっています。全地区と比較すると、「アライグマ等の特定外来生物による被害」が上位に入っている一方、「まちなかの公園や自然の少なさ」の順位が低くなっています。

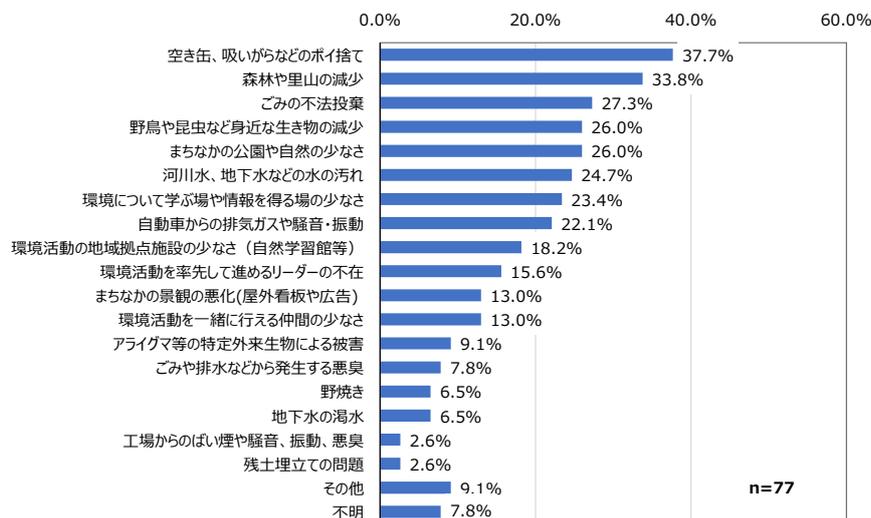
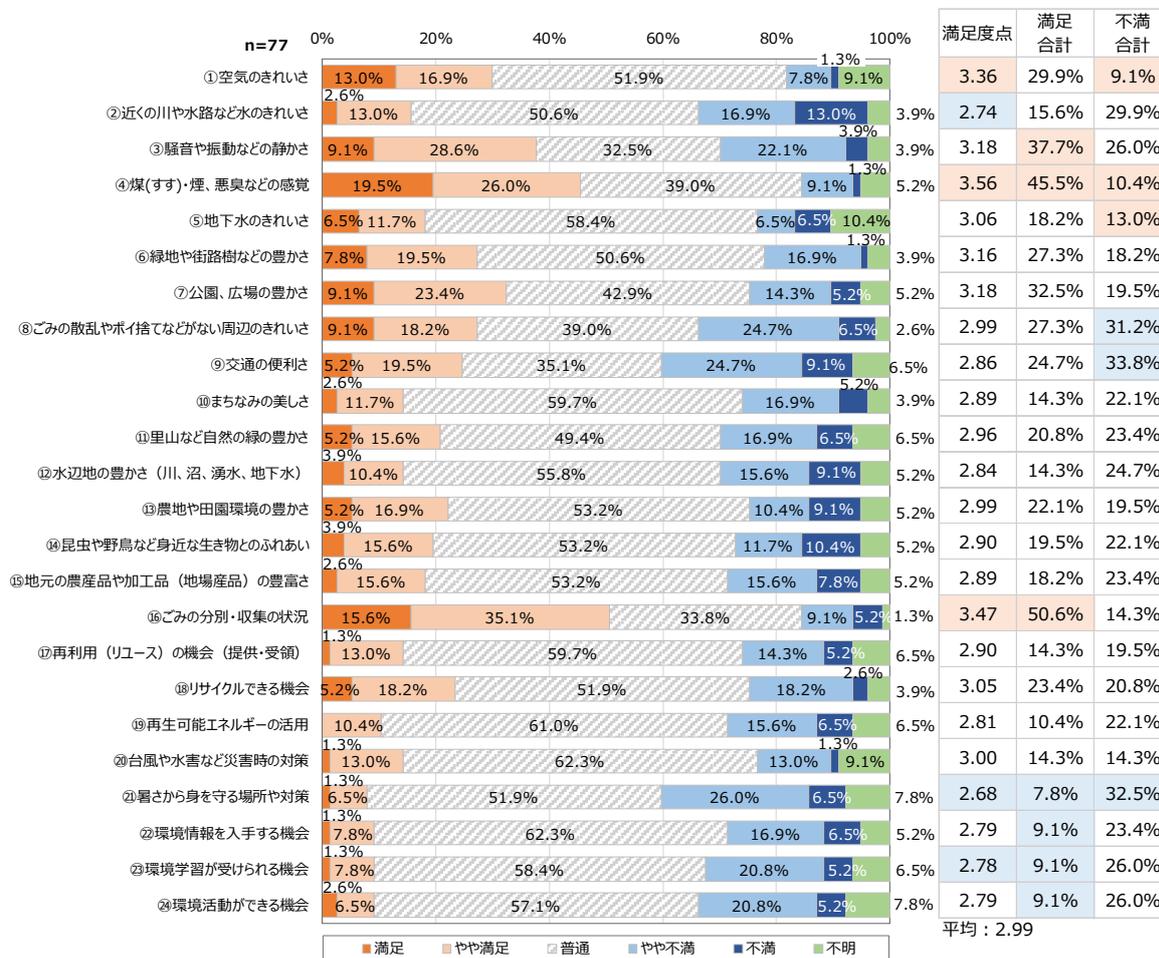


●上平地区

満足度点が高い項目は、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.56)」、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.47)」、「①空気のきれいさ (3.36)」でした。『満足合計』の上位2項目も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「②暑さから身を守る場所や対策 (2.68)」、「②近くの川や水路など水のきれいさ (2.74)」、「②環境学習が受けられる機会 (2.78)」でした。『不満合計』では、「⑨交通の便利さ」が最も多くなっています。

環境の課題については、「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が最も多くなっています。全地区と比較すると、「ごみの不法投棄」が上位に入っています。

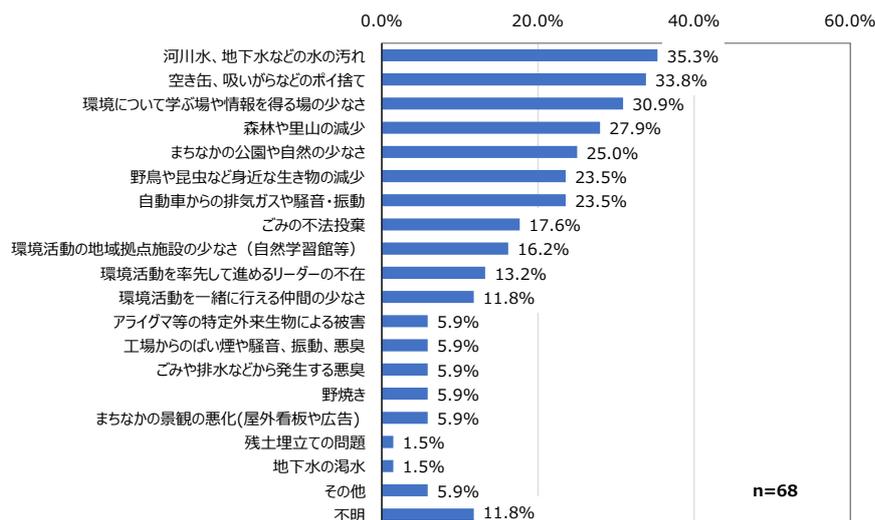
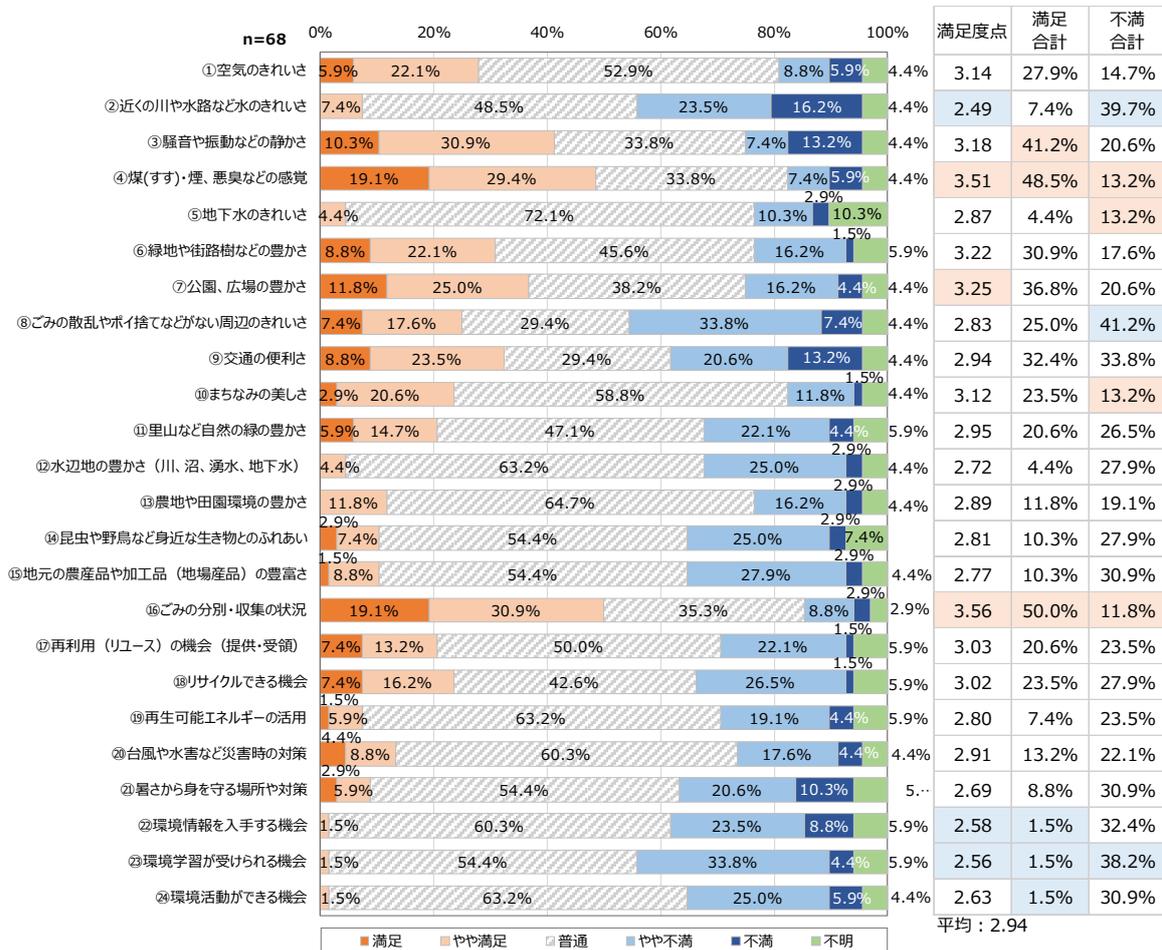


●大谷地区

満足度点が高い項目は、「⑩ごみの分別・収集の状況 (3.56)」、「④煤(すす)・煙、悪臭などの感覚 (3.51)」、「⑦公園、広場の豊かさ (3.25)」でした。『満足合計』の上位2項目も同じ項目となっています。

満足度点が高い項目は、「②近くの川や水路など水のきれいさ (2.49)」、「②環境学習が受けられる機会 (2.56)」、「②環境情報を入手する機会 (2.58)」でした。『不満合計』では、「⑧ごみの散乱やポイ捨てなどがない周辺のきれいさ」が最も多くなっています。

環境の課題については、全地区とは異なり、「河川水、地下水などの水の汚れ」が最も多くなっています。このほか、全地区と比較すると、「環境について学ぶ場や情報を得る場の少なさ」が上位に入っています。



(4) 将来に向けて残したい身近な自然や環境

問9 市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所がありますか。ある場合は、具体的な地名とその理由を2つまでご記入ください。

市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所を聞いたところ、178人(31.6%)、延べ182件の回答がありました。

最も回答が多かったものは「上尾丸山公園」で、約3割の人が回答しています。その他『公園』として「上平公園」、「さいたま水上公園」といった回答が多くみられました。また、「原市沼(蓮池)」についても回答が多くなっています。

地名	件数	理由(抜粋)
上尾丸山公園 (周辺の雑木林も含む)	57	立派な木々や自然が残されている。四季折々のお花等、心を和ませ、癒やされる。多数の生物が生息している。自然を学ぶ貴重な場所。
上平公園 (緑地、ふれあいの里)	19	桜の木、花や樹木が多い。夏場でも木陰が涼しく、犬の散歩やジョギングのしやすい環境。子供達が自然に触れながらのびのびと遊べる。
さいたま水上公園 (緑地、巨木、森)	15	樹林がたくさんあり、夏涼しく、散歩するには最高。カブトムシなどの昆虫採集ができる。緑の中の散歩道、多様な植物・生物。
原市沼(蓮池、古代ハス)	12	毎夏美しい花を咲かせる蓮の群生地。季節を感じられる。古代へのロマン。身近に自然にふれあえる。周辺が散歩道になるとよい。
鴨川、富士見親水公園、 大石地区の水田・里山	9	川沿いの散歩道が整備され、きれいになった。春には桜、川にはカルガモ等自然豊か。周辺に住む人たちの憩いの場。
田んぼ、畑、田園風景全般	7	田や畑、自然の風景がなつかしい。美観、しらすぎに居てほしい。自給自足を高めるため。食糧確保や生物多様性の観点から維持が必要。
上尾運動公園	5	樹木がよく手入れされており、鳥の鳴き声も聞かれ心が休まる。大木の多さ。たくさんの人々が楽しんでいる。
原市ふるさと緑の景観地	5	手入れがされた樹林が残されており、多様な生物が見られる。
平方地区(森林、沼地、田んぼ)	4	昔は冬しらすぎが来てキレイだった。近年、伐採が進み鳥や樹木が少なくなり、自然が感じられなくなった。
見沼代用水路・ヘルシーロード	4	自然環境が残され、遊歩道等整備されている。散歩等に良い。
藤波・中分ふるさとのみどりの 景観地	4	自然林として樹木の種類も多い。生物も多い。秋になると、ドングリなどの木の実を観察し、楽しむことが出来る。
西宮下 (ふれあいの森、畑や雑木林)	3	身近な緑、涼しい木陰。相続で住宅になったとしても、自然と共存するような土地活用が良い。
ふれあいの森	3	近くのふれあいの森が宅地開発でなくなってしまったのでこれ以上森を減らさないでほしい。
すべての森林(全域)	3	昆虫等の生物が昔に比べ少なく感じるので、これ以上減少しないよう、せめて現在の緑を残して欲しい。
市内の公園・緑地、線路沿いにある 小さな公園	3	自然と触れ合う機会が年齢層関係なくあることが住み続ける住民にとって重要。緑中心でよい。季節のお花も咲いている。
榎本牧場	3	町の中の牧場で動物とふれ合える。
上野・上野本郷	2	相続などで、森林や神社が亡くなった。保護が必要であった。
谷津公園・谷津観音	2	町内のボランティアにより緑が守られ、植樹、花が手入れされている。
二ツ宮地区・氷川神社と周辺の 森	2	地域活動の拠点や地域住民(子ども含む)が植物、樹林、生物に触れられる場としての役割を今後も担ってほしい。
文化センター前の桜並木、芝川	2	春のサクラ、菜ノ花と川の流れがきれいな景色。
平塚公園	2	木があってよい。広く、市民が楽しめる場所。
市全体	2	上尾市はみどりが多くて良い。手入れされた森林がある。
各1件		花の丘公園、緑丘広場、戸崎公園、上原公園、ニューシャトル周辺の自然、江川の流域、荒川の土手の自然、畔吉周辺、瓦葺掛樋跡、新幹線高架下、上尾市児童館こどもの城と雑木林、上尾市自然学習館、もうすでに無くなった、無線山・KDDの森(市外)

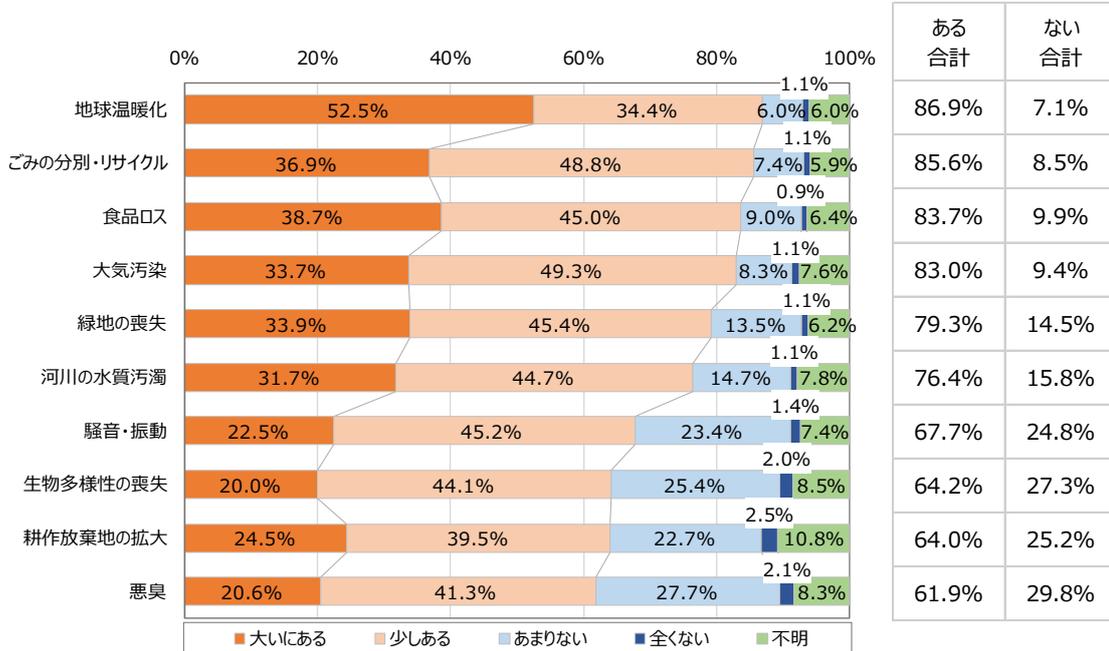
3) 環境への関心や取り組みについて

(1) 「環境問題」への関心度

問10 下記の「環境問題」について、どの程度関心がありますか。それぞれの項目について、1～4の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

「環境問題」への関心度について、『ある合計』（関心が「大いにある」「少しある」の合計）で見ると、「地球温暖化（86.9%）」が最も多く、次いで「ごみの分別・リサイクル（85.6%）」、「食品ロス（83.7%）」、「大気汚染（83.0%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、空き家の管理、ペットの汚物放棄対策、耕作地の住宅転用による農地の減少などが挙げられていました。



(2) 取組んでいる環境行動

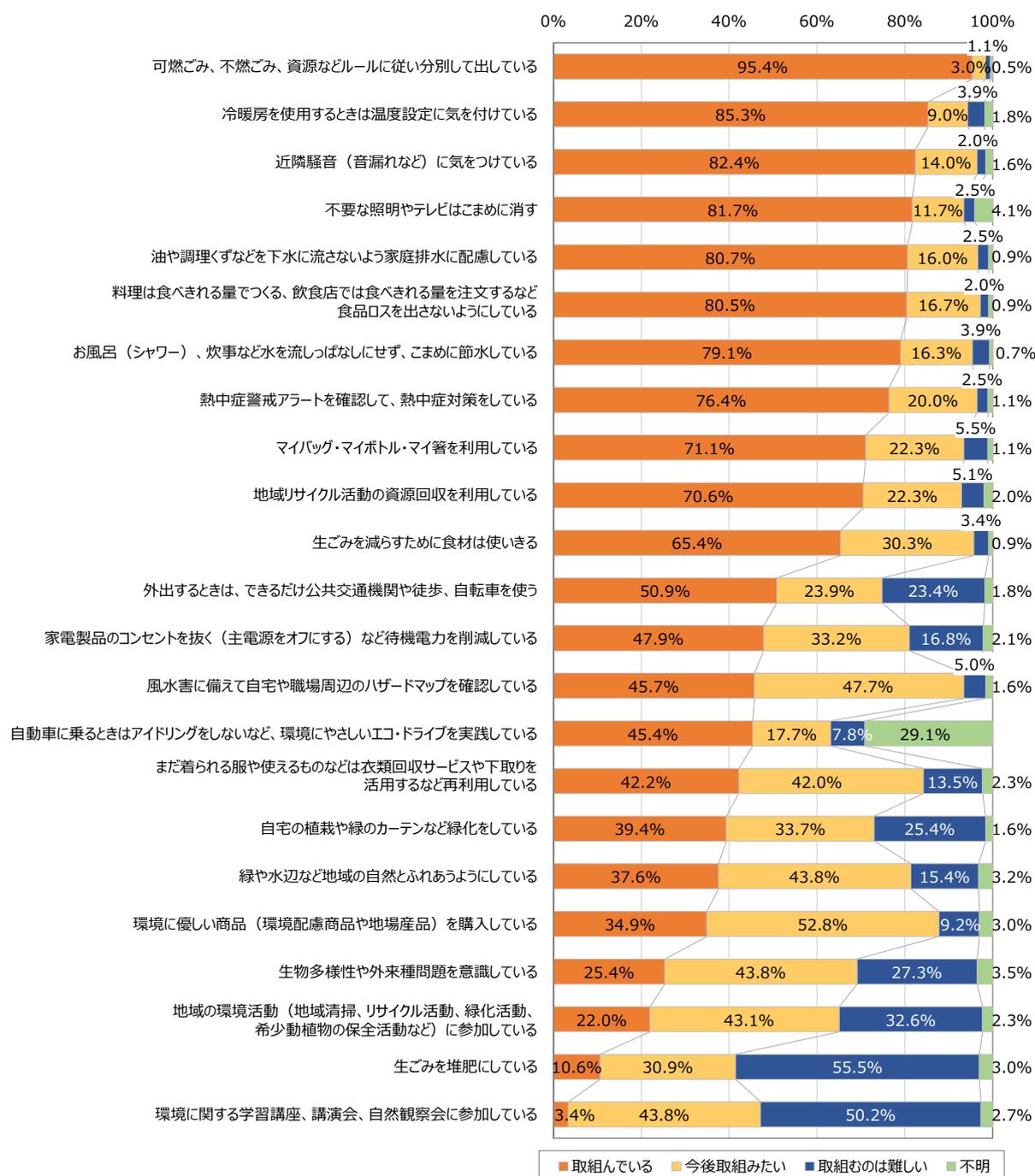
問 1 1 環境に関して、普段あなたが取組んでいることを教えてください。それぞれの項目について、1～3の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●環境行動の取組み状況と今後の意向

普段取組んでいる環境行動について、取組んでいる行動は、「可燃ごみ、不燃ごみ、資源などルールに従い分別して出している（95.4%）」が最も多く、次いで「冷暖房を使用するときは温度設定に気を付けている（85.3%）」、「近隣騒音（音漏れなど）に気を付けている（82.4%）」、「不要な照明やテレビはこまめに消す（81.7%）」が多くなっています。

今後取組みたい行動は、「環境に優しい商品（環境配慮商品や地場産品）を購入している（52.8%）」と「風水害に備えて自宅や職場周辺のハザードマップを確認している（47.7%）」が多く、5割前後の回答となりました。

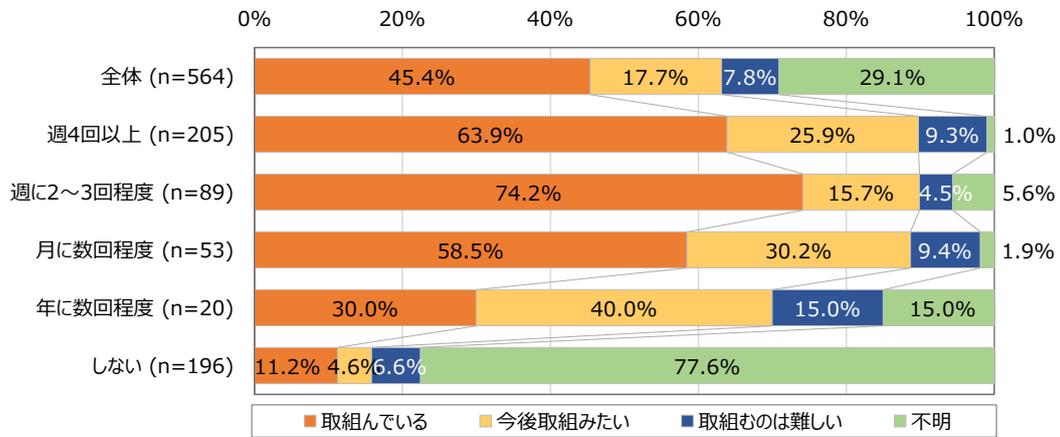
一方、取組むのは難しい行動は、「生ごみを堆肥にしている」と「環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している」が突出して多く、5割以上の回答となっています。



● 運転頻度別のエコ・ドライブの実施状況（クロス集計）

自動車の運転頻度ごとに「自動車に乗るときはアイドリングをしないなど、環境にやさしいエコ・ドライブを実践している」をみると、『取組んでいる』と回答した人は、全体では45.4%ですが、「月に数回以上」運転する人ではおおよそ6割以上の回答となっています。

『取組んでいる』と『今後取組みたい』を合わせると、全体では63.1%ですが、「月に数回以上」運転する人ではおおよそ9割近くの回答となりました。



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について、『取組んでいる』の回答割合の変化を整理しました。

大幅に実施率が低下したものはなく、全体的に実施率が上昇しています。特に「マイバッグ・マイボトル・マイ箸の利用」、「環境に優しい商品（環境配慮商品や地場産品）の購入」、「自宅の植栽や緑のカーテンなど緑化」については、10ポイント以上実施率が上昇しました。

【取組んでいる割合※比較可能な項目のみ抜粋】

(%)

項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
可燃ごみ、不燃ごみ、資源などルールに従い分別して出している	95.4	89.5	5.9
冷暖房を使用するときは温度設定に気を付けている	85.3	83.0	2.3
不要な照明やテレビはこまめに消す	81.7	81.9	▲ 0.2
油や調理くずなどを下水に流さないよう家庭排水に配慮している	80.7	74.1	6.6
お風呂（シャワー）、炊事など水を流しっぱなしにせず、こまめに節水している	79.1	78.0	1.1
マイバッグ・マイボトル・マイ箸を利用している	71.1	56.3	14.8
外出するときは、できるだけ公共交通機関や徒歩、自転車を使う	50.9	46.4	4.5
家電製品のコンセントを抜く（主電源をオフにする）など待機電力を削減している	47.9	39.8	8.1
自動車に乗るときはアイドリングをしないなど、環境にやさしいエコ・ドライブを実践している	45.4	46.0	▲ 0.6
自宅の植栽や緑のカーテンなど緑化をしている	39.4	26.7	12.7
緑や水辺など地域の自然とふれあうようにしている	37.6	35.3	2.3
環境に優しい商品（環境配慮商品や地場産品）を購入している	34.9	20.3	14.6
生ごみを堆肥にしている	10.6	7.0	3.6

●年代別の環境行動の取組み状況（クロス集計）

『取組んでいる』について、年代別でのクロス集計を実施しました。

項目	(%)							
	全体 (n=564)	10歳代 (n=10)	20歳代 (n=26)	30歳代 (n=58)	40歳代 (n=71)	50歳代 (n=93)	60歳代 (n=95)	70歳以上 (n=210)
可燃ごみ、不燃ごみ、資源などルールに従い分別して出している	95.4	70.0	96.2	91.4	95.8	98.9	93.7	96.7
冷暖房を使用するときは温度設定に気を付けている	85.3	60.0	88.5	74.1	87.3	81.7	87.4	89.5
近隣騒音（音漏れなど）に気を付けている	82.4	80.0	73.1	72.4	78.9	83.9	85.3	86.2
不要な照明やテレビはこまめに消す	81.7	70.0	84.6	82.8	88.7	84.9	78.9	79.5
油や調理くずなどを下水に流さないよう家庭排水に配慮している	80.7	80.0	69.2	67.2	84.5	80.6	80.0	85.2
料理は食べられる量でつくる、飲食店では食べられる量を注文するなど食品ロスを出さないようにしている	80.5	80.0	80.8	77.6	85.9	88.2	76.8	78.1
お風呂（シャワー）、炊事など水を流しっぱなしにせず、こまめに節水している	79.1	60.0	76.9	67.2	76.1	81.7	82.1	82.4
熱中症警戒アラートを確認して、熱中症対策をしている	76.4	70.0	65.4	62.1	73.2	76.3	75.8	83.8
マイバッグ・マイボトル・マイ箸を利用している	71.1	50.0	50.0	70.7	71.8	68.8	71.6	75.7
地域リサイクル活動の資源回収を利用している	70.6	40.0	53.8	46.6	66.2	81.7	68.4	78.6
生ごみを減らすために食材は使いきる	65.4	50.0	73.1	62.1	77.5	71.0	60.0	62.4
外出するときは、できるだけ公共交通機関や徒歩、自転車を使う	50.9	70.0	65.4	39.7	38.0	43.0	48.4	60.5
家電製品のコンセントを抜く（主電源をオフにする）など待機電力を削減している	47.9	30.0	42.3	44.8	62.0	47.3	49.5	45.2
風水害に備えて自宅や職場周辺のハザードマップを確認している	45.7	30.0	53.8	43.1	57.7	51.6	48.4	38.6
自動車に乗るときはアイドリングをしないなど、環境にやさしいエコドライブを実践している	45.4	20.0	53.8	39.7	56.3	54.8	53.7	35.7
まだ着られる服や使えるものなどは衣類回収サービスや下取りを活用するなど再利用している	42.2	50.0	50.0	43.1	42.3	48.4	42.1	38.1
自宅の植栽や緑のカーテンなど緑化をしている	39.4	40.0	23.1	27.6	21.1	31.2	45.3	51.9
緑や水辺など地域の自然とふれあうようにしている	37.6	60.0	23.1	27.6	38.0	36.6	42.1	39.5
環境に優しい商品（環境配慮商品や地場産品）を購入している	34.9	30.0	19.2	22.4	31.0	40.9	36.8	38.6
生物多様性や外来種問題を意識している	25.4	30.0	23.1	20.7	22.5	32.3	18.9	27.1
地域の環境活動（地域清掃、リサイクル活動、緑化活動、希少動植物の保全活動など）に参加している	22.0	10.0	15.4	13.8	14.1	20.4	24.2	28.1
生ごみを堆肥にしている	10.6	0.0	7.7	1.7	8.5	7.5	10.5	16.2
環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している	3.4	10.0	3.8	3.4	1.4	6.5	3.2	2.4

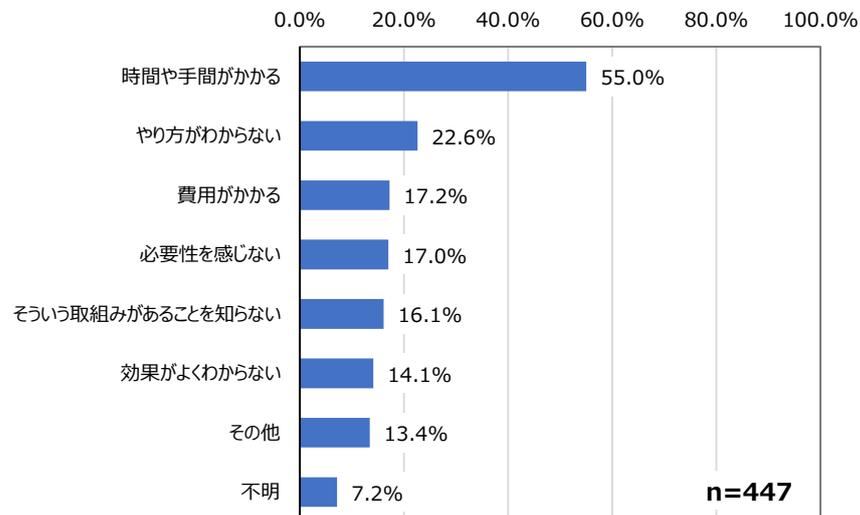
※「全体値」よりも回答割合が高いものに網掛けをしています。

(3) 環境行動に取り組まない理由

問1 2 問1 1で1つでも「取組むのは難しい」と回答した方にご質問します。理由としてあてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

環境行動に取り組まない理由については、「時間や手間がかかる（55.0%）」が最も多く、半数以上が回答しています。次いで「やり方がわからない（22.6%）」、「費用がかかる（17.2%）」、「必要性を感じない（17.0%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、関心がない、情報が入ってこない、仕事が忙しい、高齢のため体力的にむずかしい、誰でも参加できる場が無い、などが挙げられていました。



◆その他の回答（抜粋）

- 関心がない。
 - 情報が入ってこない。
 - 自分で出来る範囲で行なえるものをしている。
 - 家族内の意向もあることなので。
 - 仕事が忙しい。共働きで時間に余裕がない。
 - 高齢になると習慣を変えることはむずかしい。
 - 高齢のため体力的にむずかしい。体調がよくない。体が不自由な為。
 - 交通の便が悪い。車で仕事の為。子供が小さいため車移動が中心。【公共交通機関の利用】
 - 家電製品のコンセントを抜くは、全商品は難しい。【待機電力の削減】
 - きちんと再利用されるか不安。他人が使用した衣類は着用したくない。【衣類の再利用】
 - 緑を増やすとハチがよってきて巣を作られるので。集合住宅なので。庭がない。【自宅の緑化】
 - 庭が狭い上に臭いが近所へ行かないか心配。取組むには敷居が高い。【生ごみの堆肥化】
 - 取組む為の人間関係がわずらわしい。【地域の環境活動】
 - 身近に環境学習できる場がない。【環境講座等】
 - 子が小さいためイベントに参加しにくい。機会が無い。誰でも参加できる場が無い。参加する場所への交通手段が難しい。【地域の環境活動・環境講座等】
- など

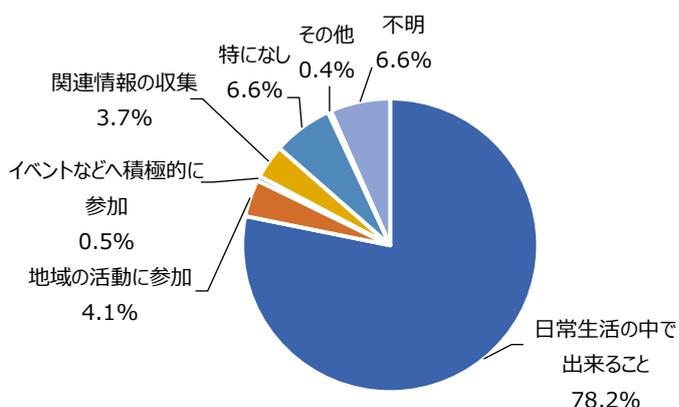
(4) 環境を良くするために取組みたいこと

問13 環境を良くするために、どのようなことに取組みたいと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを選び、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

環境を良くするために取組みたいことについては、「日常生活の中で出来ること（78.2%）」が最も多く、8割近くの人が回答しました。次いで「特になし（6.6%）」が多くなっています。

最も回答が少なかったのは、「イベントなどへ積極的に参加（0.5%）」でした。

年齢別の回答をみると、「地域の活動に参加」は70歳以上で特に多く、「イベントなどへ積極的に参加」は10歳代から50歳代はゼロでした。「関連情報」の収集は、10歳代、50歳代、40歳代で多くなっています。



●年代別の環境を良くするために取組みたいこと (クロス集計)

(%)

項目	全体 (n=564)	10歳代 (n=10)	20歳代 (n=26)	30歳代 (n=58)	40歳代 (n=71)	50歳代 (n=93)	60歳代 (n=95)	70歳以上 (n=210)
日常生活の中で出来ること	78.2	70.0	84.6	82.8	81.7	77.4	82.1	74.3
地域の活動に参加	4.1	0.0	3.8	1.7	1.4	2.2	3.2	7.1
イベントなどへ積極的に参加	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.0
関連情報の収集	3.7	10.0	0.0	0.0	4.2	8.6	3.2	1.9
特になし	6.6	0.0	7.7	0.0	5.6	5.4	5.3	7.6

※「全体値」よりも回答割合が高いものに網掛けをしています。

4) 気候変動問題について

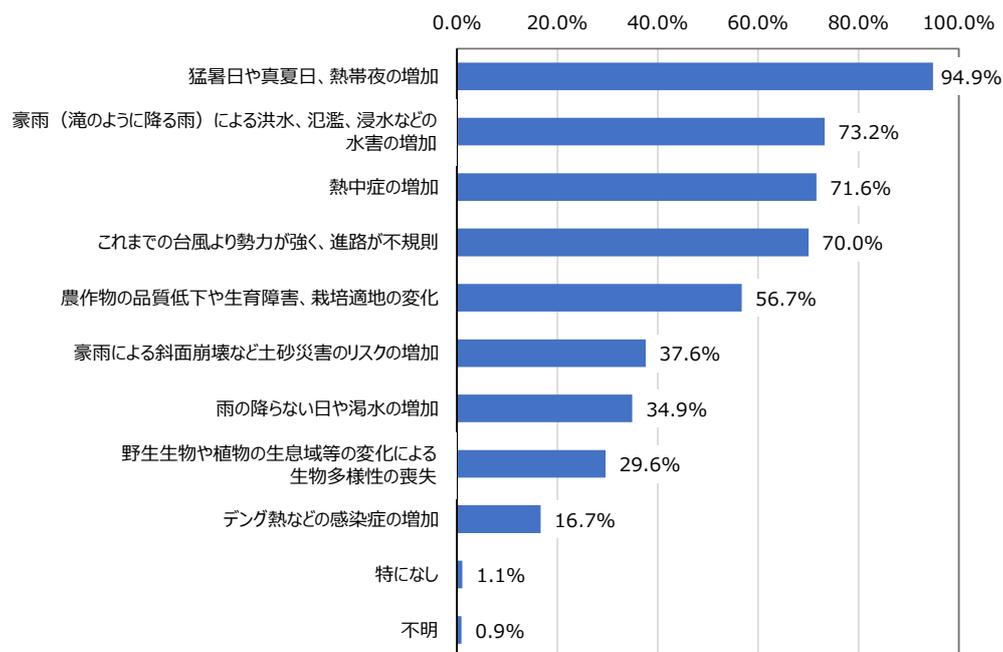
(1) 身近に感じている気候変動の影響（リスク）

問14 すでに日本でも地球温暖化による気候変動が観測されており、将来にわたって様々な影響を与えることが予測されています。あなたが身近に感じている気候変動の影響（リスク）についてあてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

身近に感じている気候変動の影響（リスク）については、「猛暑日や真夏日、熱帯夜の増加（94.9%）」が最も多く、9割以上の回答率となりました。

次いで「豪雨（滝のように降る雨）による洪水、氾濫、浸水などの水害の増加（73.2%）」、「熱中症の増加（71.6%）」、「これまでの台風より勢力が強く、進路が不規則（70.0%）」が多くなっており、おおよそ7割の回答率となっています。

「特になし（1.1%）」の回答率は低く、ほとんどの人が地球温暖化による気候変動の影響を身近に感じていることがうかがえます。



(2) 地球温暖化防止の取組みの実施状況

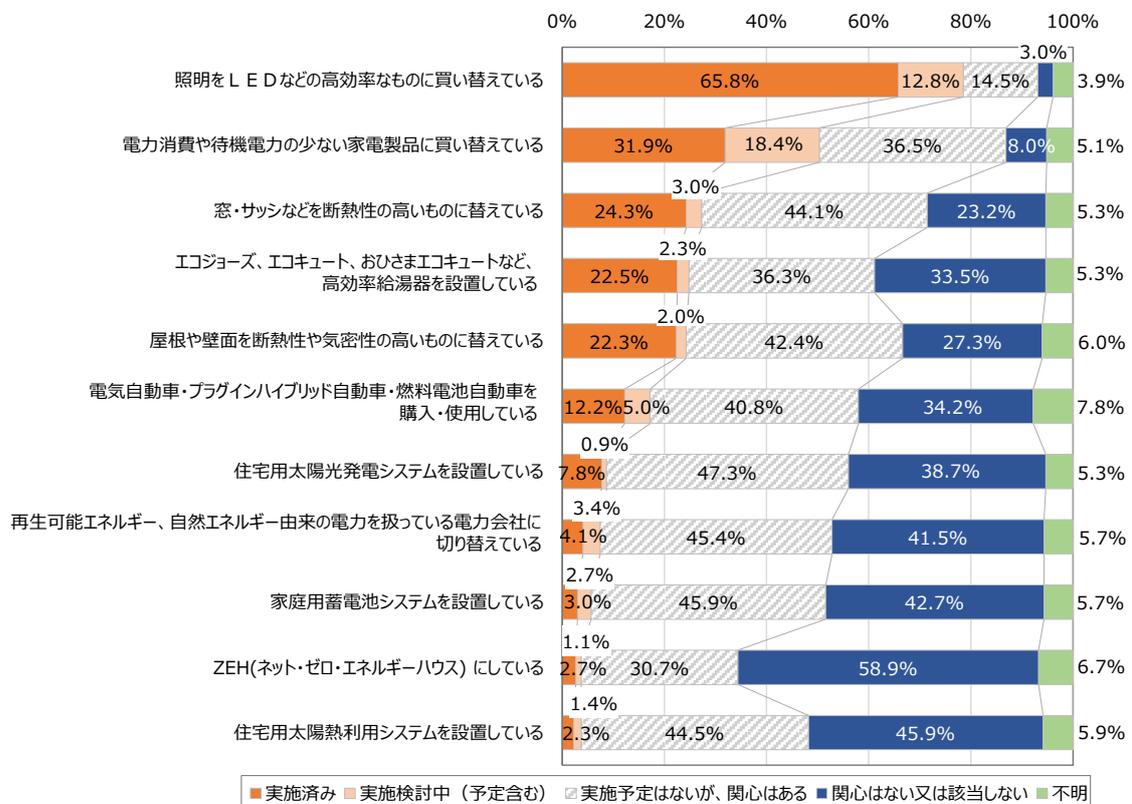
問 1 5 以下の取組みや設備機器は、地球温暖化の防止につながるだけでなく、光熱水費の削減や住宅の快適性の向上などにつながるものです。これらについて、実施しているものがありますか。それぞれの項目について、1～4の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●地球温暖化防止の取組みの実施状況と関心度

地球温暖化防止の取組みについて、『実施済み』は、「照明をLEDなどの高効率なものに買い替えている（65.8%）」が突出して多く、『実施検討中（予定含む）』と合わせると8割近くになっています。次いで「電力消費や待機電力の少ない家電製品に買い替えている（31.9%）」が多くなっており、『実施検討中（予定含む）』と合わせると5割となりました。住宅形態に関係がなく比較的取組みやすい項目の実施率が高くなっています。

このほか、『実施済み』の取組みとして「窓・サッシなどを断熱性の高いものに替えている（24.3%）」、「エコジョーズ、エコキュート、おひさまエコキュートなど、高効率給湯器を設置している（22.5%）」、「屋根や壁面を断熱性や気密性の高いものに替えている（22.3%）」の回答が多くなっており、2割以上の実施率となっています。

『実施予定はないが、関心はある』は、実施率の高い「LEDなどの高効率照明」を除いてすべての項目で3割以上となっており、「住宅用太陽光発電システム（47.3%）」、「家庭用蓄電池システム（45.9%）」、「再生可能エネルギー、自然エネルギー由来の電力（45.4%）」の順に多くなっています。



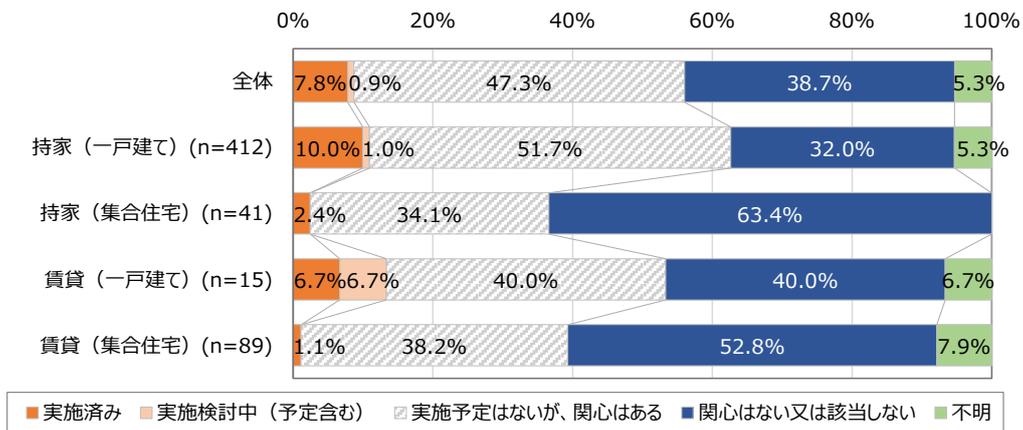
●居住形態別の再エネ関連設備等導入状況と関心度（クロス集計）

居住形態別に「住宅用太陽光発電システム」の設置状況をみると、『実施済み』と回答した人は、全体では7.8%ですが、「持家（一戸建て）」では10%でした。『実施検討中（予定含む）』を合わせると、持家・賃貸を問わず一戸建てにおいて全体より回答割合が高くなっています。

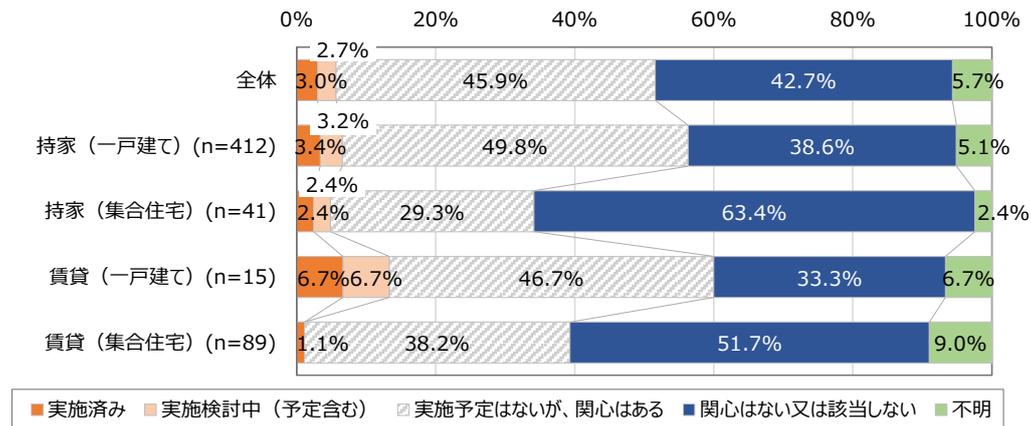
「家庭用蓄電池システム」についても、持家・賃貸を問わず一戸建てにおいて『実施済み』『実施検討中（予定含む）』を合わせた回答割合が全体より高くなっています。「持家（一戸建て）」では「住宅用太陽光発電システム」より導入率が低い状況です。

すべての項目において、集合住宅でも『実施済み』『実施検討中（予定含む）』の回答があり、集合住宅でも取組みが進んでいることがうかがえます。

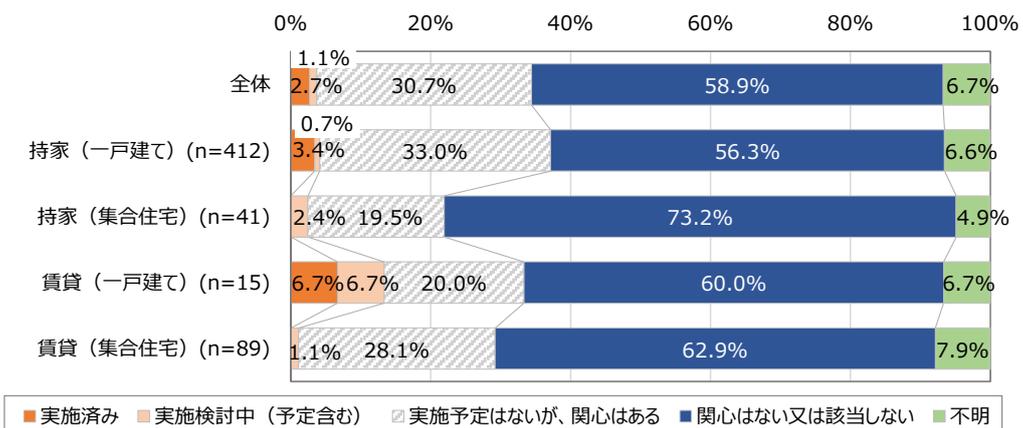
【住宅用太陽光発電システム】



【家庭用蓄電池システム】



【ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)】

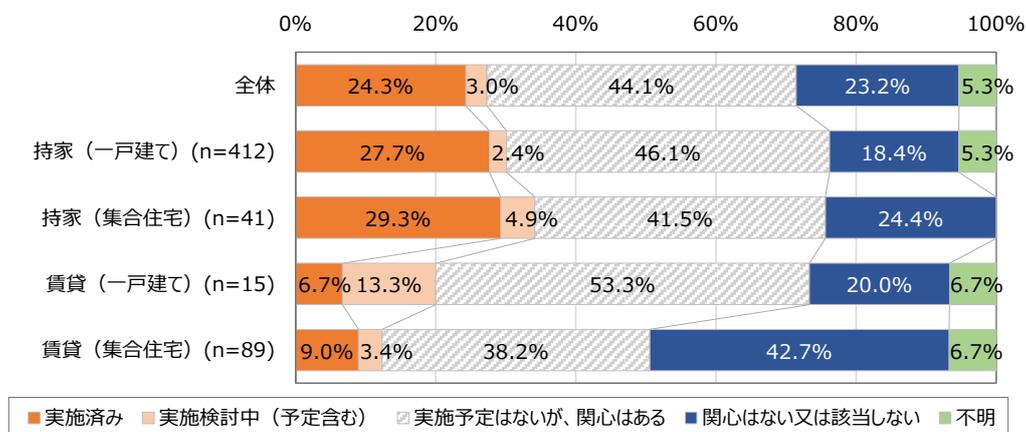


●居住形態別の省エネ関連設備等導入状況と関心度（クロス集計）

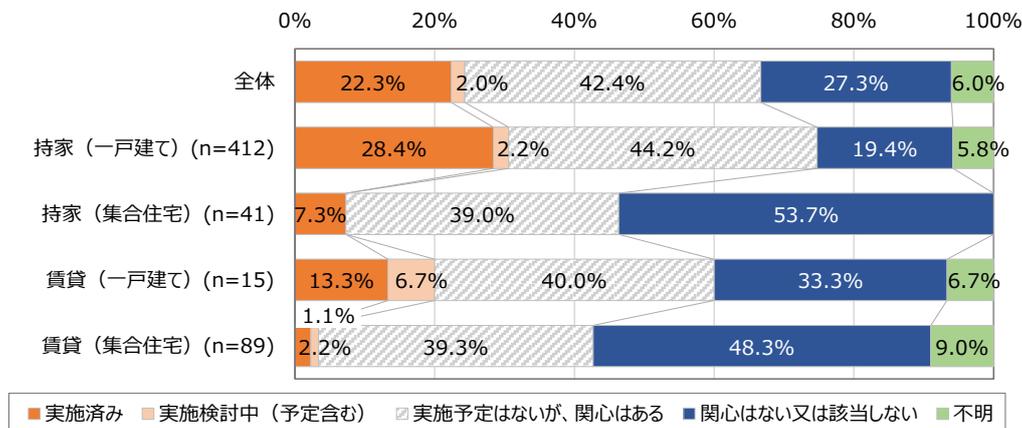
居住形態別に「断熱性の高い窓・サッシ」の設置状況をみると、『実施済み』と回答した人は、持家が一戸建て・集合住宅を問わず、全体より回答割合が高くなっています。

「断熱性や気密性の高い屋根や壁面」と「エコジョーズ、エコキュート、おひさまエコキュートなどの高効率給湯器」について、『実施済み』については「持ち家（一戸建て）」の回答割合が最も高く、『実施検討中（予定含む）』については「賃貸（一戸建て）」の回答割合が最も高くなりました。

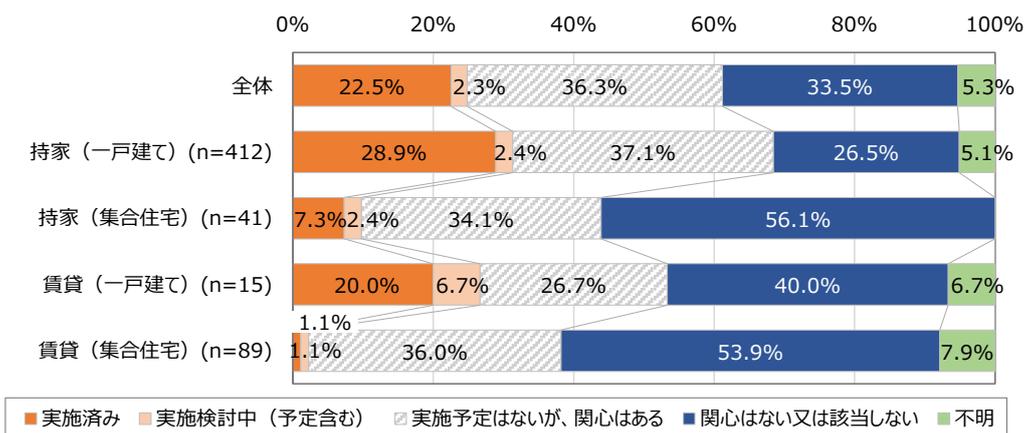
【断熱性の高い窓・サッシ】



【断熱性や気密性の高い屋根や壁面】



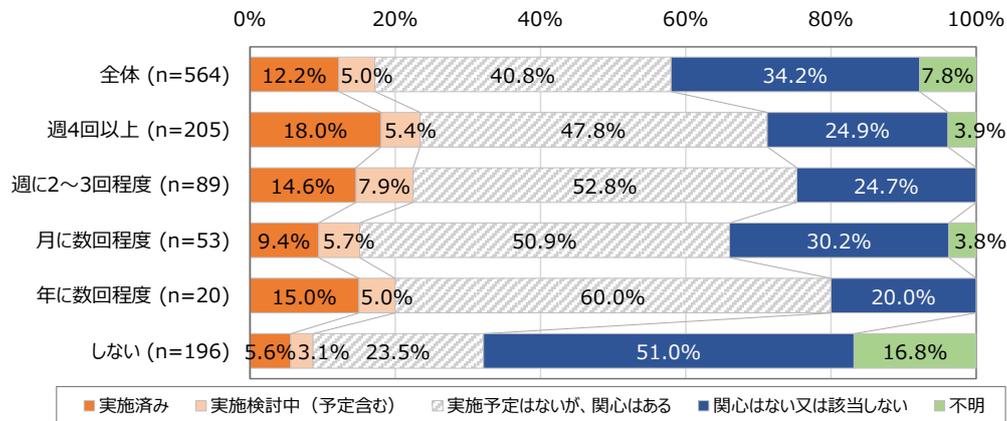
【エコジョーズ、エコキュート、おひさまエコキュートなどの高効率給湯器】



●次世代自動車の導入状況（クロス集計）

自動車の運転頻度ごとに「電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車を購入・使用している」をみると、『実施済み』と回答した人は、全体では12.2%ですが、「週に2～3回以上」運転する人と「年に数回程度」運転する人で、全体の回答より多くなりました。

『実施予定はないが、関心はある』と回答した人は、全体では40.8%ですが、運転する人では約5割～6割の回答と、全体の回答より多くなっています。



●前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について、『実施済み』の回答割合の変化を整理しました。

「LEDなどの高効率照明」は9.1ポイント、「電力消費や待機電力の少ない家電製品」は6.8ポイントと大きく上昇しています。

【実施済みの割合※比較可能な項目のみ抜粋】

(%)

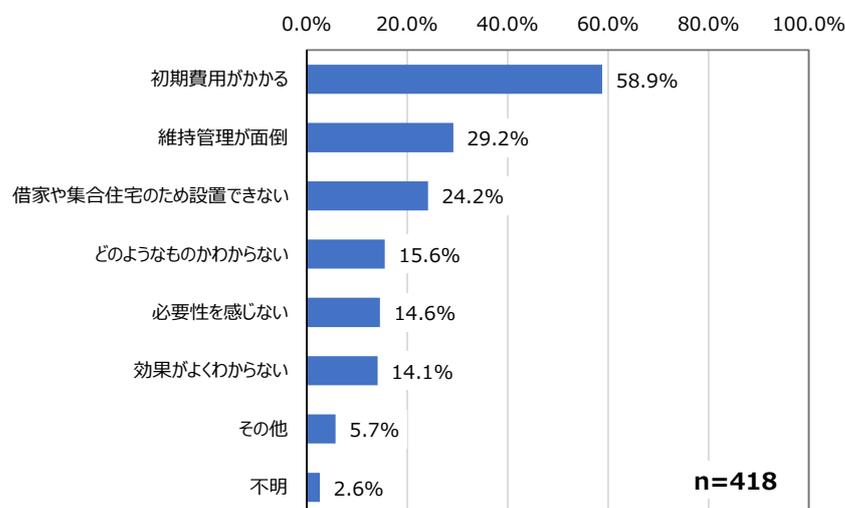
項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
照明をLEDなどの高効率なものに買い替えている	65.8	56.7	9.1
電力消費や待機電力の少ない家電製品に買い替えている	31.9	25.1	6.8
窓・サッシなどを断熱性の高いものに替えている	24.3	28.3	▲ 4.0
エコジョーズ、エコキュート、おひさまエコキュートなど、高効率給湯器を設置している	22.5	24.2	▲ 1.7
屋根や壁面を断熱性や気密性の高いものに替えている	22.3	22.2	0.1
住宅用太陽光発電システムを設置している	7.8	6.4	1.4
住宅用太陽熱利用システムを設置している	2.3	3.3	▲ 1.0

(3) 地球温暖化防止の取組みを実施しない理由

問16 問15で1つでも「関心はない、又は該当しない」と回答した方にご質問します。理由としてあてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

地球温暖化防止の取組みを実施しない理由については、「初期費用がかかる（58.9%）」が最も多く、半数以上が回答しています。次いで「維持管理が面倒（29.2%）」、「借家や集合住宅のため設置できない（24.2%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、投資をしても費用の回収に時間がかかる、太陽光パネルのリサイクル・処分方法に疑問があるなどが挙げられていました。



◆その他の回答（抜粋）

- 投資をしても費用の回収に時間がかかる。
 - 初期費用、耐用年数、撤去費用を考えるとメリットがない。見積でもあまりプラスにならない。
 - 太陽光発電は自然をこわす。
 - 太陽光パネルのリサイクル・処分方法に疑問がある。蓄電池のリサイクルも然り。
 - 太陽光発電は、屋根の向きやリサイクルも現在は難しいと言われているのでまだ設置する時期ではないと思う。EVも今はハイブリット自動車がいいと思う。
 - 陽当たりが悪く、効果が期待できない。【太陽光発電】
 - 家が古く瓦屋根の為無理かと思う。【太陽光発電】
- など

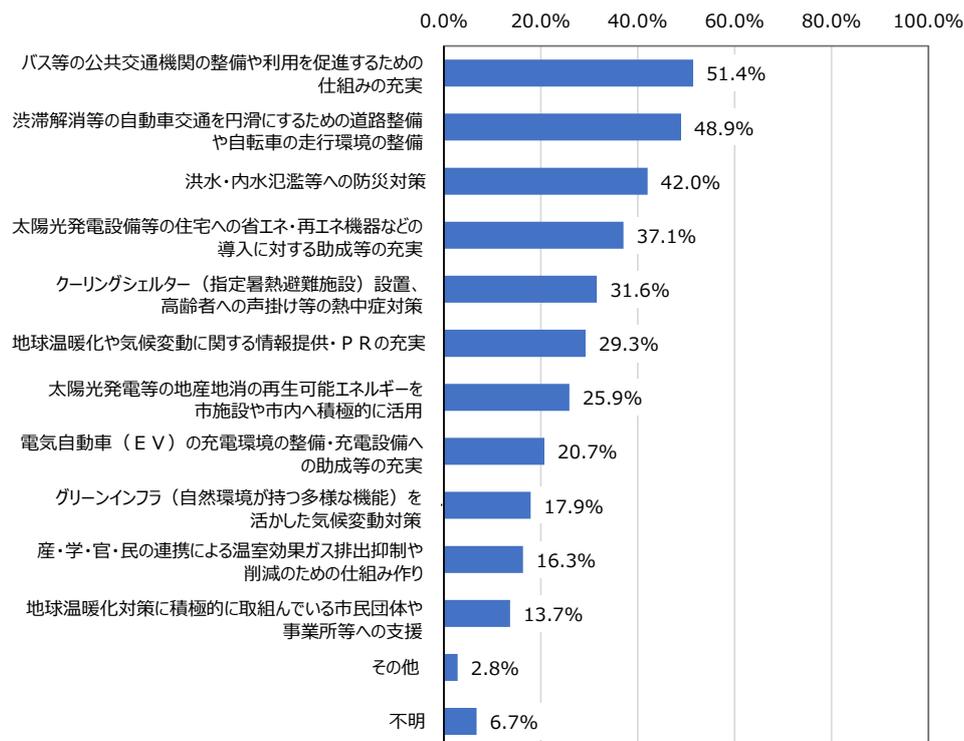
(4) 市が重点的に進めるべき気候変動対策

問17 気候変動対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策はどれですか。あてはまる番号を5つまで○で囲んでください。【複数回答】

市が重点的に進めるべき気候変動対策については、「バス等の公共交通機関の整備や利用を促進するための仕組みの充実（51.4%）」が最も多く、「渋滞解消等の自動車交通を円滑にするための道路整備や自転車の走行環境の整備（48.9%）」が続いており、日常生活に身近な交通の分野について5割程度の回答割合となりました。

次いで、「洪水・内水氾濫等への防災対策（42.0%）」、「太陽光発電設備等の住宅への省エネ・再エネ機器などの導入に対する助成等の充実（37.1%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、民間企業に対する環境規制強化、ヒートアイランド対策・緑地の保全などが挙げられていました。



◆その他の回答（抜粋）

- 民間企業に対する環境規制強化。
- ヒートアイランド対策・緑地の保全。
- 芝川、鴨川等の川床の掘り下げ。流水量の拡大のため。
- 温暖化対策の取組みに対応する工事業者への補助金支払い。
- 学校教育で取り組む。

など

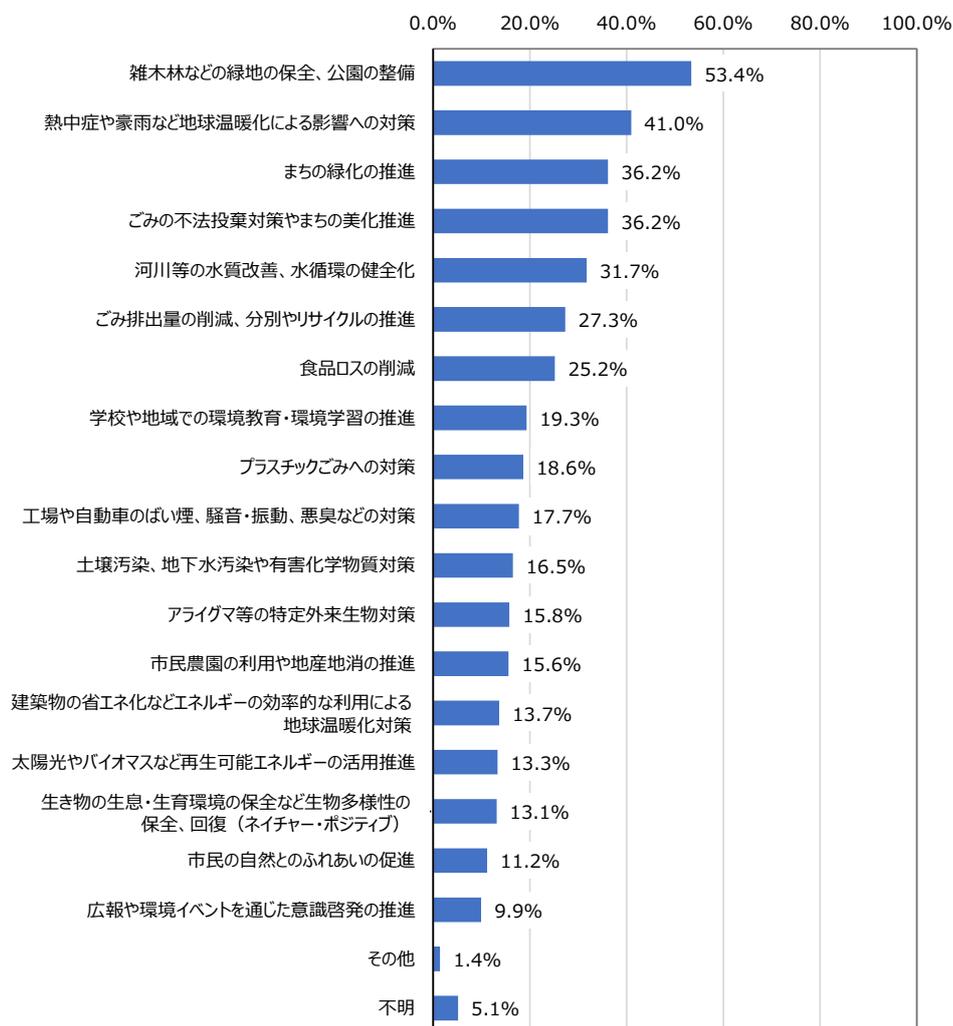
5) 市の環境への取組みについて

(1) 市が重点的に進めるべき環境対策

問18 市が取組む環境への対策について、重点的に進めるべきだと思うものはどれですか。あてはまる番号を5つまで○で囲んで下さい。【複数回答】

市が取組む環境への対策については、「雑木林などの緑地の保全、公園の整備（53.4%）」が最も多く、次いで「熱中症や豪雨など地球温暖化による影響への対策（41.0%）」、「まちの緑化の推進（36.2%）」、「ごみの不法投棄対策やまちの美化推進（36.2%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、騒音、悪臭に対する罰則取締りの強化推進、猫の放し飼いの規則などが挙げられていました。



◆その他の回答（抜粋）

- 騒音、悪臭に対する罰則取締りの強化推進。
- 犬のように猫の放し飼いの規則。
- 自転車道の整備。
- 温暖化対策の取組みに対応する工事業者への補助金支払い。
- ゴミ箱の設置。

など

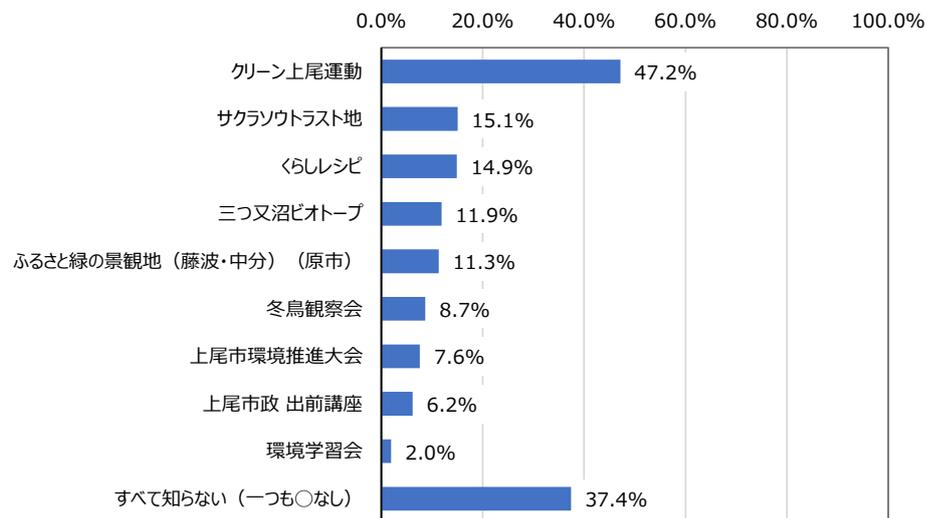
(2) 市の環境のイベントや取組み等の認知度

問19 次の項目について、目にしたことはありますか。それぞれのイベント・取組み・環境保全地について、知っているものを○で囲んでください。【複数回答】

市の環境のイベントや取組み等については、「クリーン上尾運動（47.2%）」の認知度が最も高く、約5割の回答率となりました。

一方、「すべて知らない（一つも○なし）（37.4%）」と回答した人の割合が2番目に多く、約4割の回答率となっています。

年齢別の回答をみると、すべてのイベントや取組み等について70歳以上が全体より高い割合となりました。一方、「すべて知らない（一つも○なし）」は10歳代から50歳代で全体より割合が高く、選択肢の中で最も多い回答となっています。



●年代別の市の環境のイベントや取組み等の認知度（クロス集計）

項目	認知率 (%)							
	全体 (n=564)	10歳代 (n=10)	20歳代 (n=26)	30歳代 (n=58)	40歳代 (n=71)	50歳代 (n=93)	60歳代 (n=95)	70歳以上 (n=210)
クリーン上尾運動	47.2	30.0	15.4	22.4	40.8	37.6	57.9	60.5
サクラソウトラスト地	15.1	10.0	0.0	1.7	4.2	12.9	20.0	23.3
くらしレシピ	14.9	10.0	11.5	17.2	15.5	12.9	9.5	18.1
三つ又沼ビオトープ	11.9	0.0	0.0	3.4	8.5	7.5	21.1	14.8
ふるさと緑の景観地 (藤波・中分)、(原市)	11.3	0.0	0.0	5.2	4.2	9.7	15.8	16.2
冬鳥観察会	8.7	0.0	0.0	3.4	4.2	11.8	6.3	12.9
上尾市環境推進大会	7.6	20.0	0.0	5.2	5.6	9.7	8.4	8.1
上尾市政 出前講座	6.2	10.0	3.8	0.0	4.2	6.5	6.3	8.6
環境学習会	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.1	3.8
すべて知らない	37.4	50.0	69.2	60.3	40.8	47.3	26.3	26.2

※「全体値」よりも回答割合が高いものに網掛けをしています。

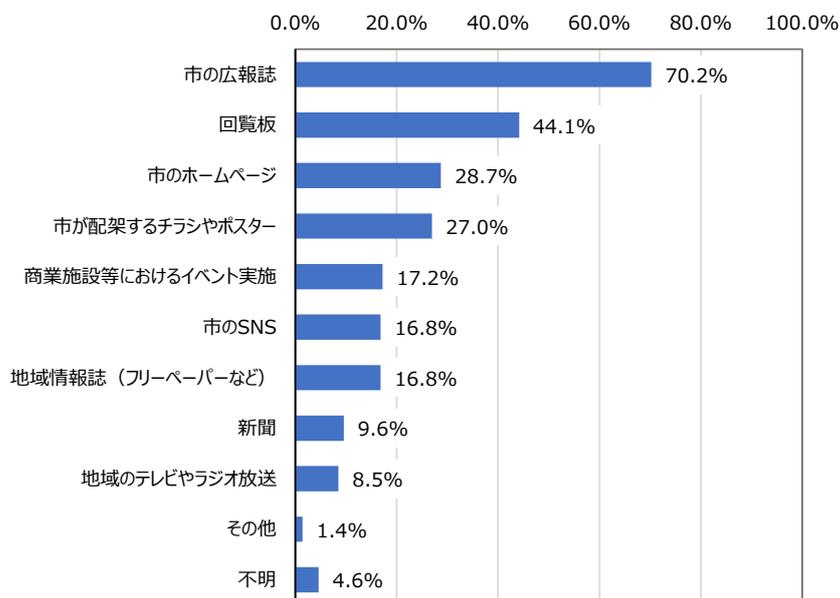
(3) 市の環境情報の有効な発信手法について

問20 市からあなたに環境に関するイベントや取組みについての情報を届けたいと思う場合、どの手段が有効と思いますか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。

市の環境情報の有効な発信手法については、「市の広報誌（70.2%）」が最も多く、次いで「回覧板（44.1%）」、「市のホームページ（28.7%）」、「市が配架するチラシやポスター（27.0%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、メールマガジン（ポイント付与等の工夫）、駅や大型スーパーでの掲示、学校から親への情報発信、芸能人と一緒に積極的にPRなどが挙げられていました。

年齢別の回答をみると、「市のSNS」については年代による回答差が大きく、10歳代は5割、20歳代から50歳代では2割から4割、60歳以上では1割以下の回答率となりました。



●年代別の市の環境情報の有効な発信手法（クロス集計）

(%)

項目	全体 (n=564)	10歳代 (n=10)	20歳代 (n=26)	30歳代 (n=58)	40歳代 (n=71)	50歳代 (n=93)	60歳代 (n=95)	70歳以上 (n=210)
市の広報誌	70.2	30.0	50.0	53.4	59.2	63.4	74.7	84.3
回覧板	44.1	60.0	30.8	25.9	36.6	37.6	44.2	55.7
市のホームページ	28.7	20.0	26.9	25.9	28.2	44.1	35.8	20.5
市が配架するチラシやポスター	27.0	20.0	26.9	20.7	28.2	28.0	18.9	31.9
商業施設等におけるイベント実施	17.2	20.0	23.1	25.9	31.0	19.4	15.8	9.0
市のSNS	16.8	50.0	30.8	41.4	26.8	23.7	9.5	3.8
地域情報誌（フリーペーパーなど）	16.8	20.0	7.7	22.4	21.1	19.4	13.7	15.2
新聞	9.6	10.0	11.5	1.7	7.0	7.5	4.2	15.7
地域のテレビやラジオ放送	8.5	10.0	11.5	3.4	11.3	18.3	6.3	5.2

※「全体値」よりも回答割合が高いものに網掛けをしています。

6) 自由意見

最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、128人(22.7%)の方から回答がありました。一人で複数の分野の意見を記入している場合は、それぞれ1件として数えているため、延べ件数は192件となりました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

分類	件数
総計	192
生活環境	(計) 70
公共交通、道路・歩道・自転車道の環境	22
空き家・耕作放棄地等の管理、道路等の雑草	21
公害防止(化学物質・騒音・振動・悪臭・水質汚濁)	9
美化、マナー(ポイ捨て・ペット・喫煙)	9
まちづくり	4
野焼き	3
景観	2
自然・生物多様性	(計) 28
自然・農地・いきもの	11
公園・緑地・街路樹	11
外来生物対策	3
河川・水辺	2
緑化活動	1
循環型社会	(計) 23
ごみの分別・収集、マナー、カラス対策	13
資源の有効利用(リユース・リサイクル)	8
食品ロス	2
気候変動対策	(計) 22
気候変動への適応	11
地球温暖化対策	10
再生可能エネルギー	1
普及啓発・環境活動	(計) 20
啓発・情報発信	10
住民参加、協働	5
環境教育・環境学習	3
広域・他都市との連携	2
環境全般	(計) 11
その他	(計) 18
公共行政	4
防犯・安全	3
アンケート	2
その他	9

◆主な意見（要約）

●生活環境について

- ぐるっとくんを小型の車にして、本数をふやせば、自家用車の利用が減る。自動運転バス・無人バスの導入。検討のうえ思い切って全国初のシステムを。
- 耕作放棄地の雑草の放置。有効活用すべき。
- 空屋対策。空き家前の道路には雑草が生え放題、家は荒れ放題になっている。美観も治安も悪い。市による点検や持主に注意喚起を！市報で取り上げて欲しい。
- 道路に草が伸びていたり、落葉で幅員が狭くなっており、車のすれ違い等困難な道路がある。
- 渋滞により車の排ガスが多く出されているので、渋滞箇所の解消を希望。（北上尾駅北のブリジストン通り、上尾市本町付近からの国道17号、16号、栗橋線など）
- 道路の舗装が傷んでいるところが多すぎる。雨天時に水がたまりやすく通りづらい。
- 水道水に発がん性が指摘されているPFASという物質が検出されているというニュースが報道されていますが、上尾市の水道水が安全だということを知りたい。
- 住民による騒音（夜の公園、夜の駅前など）に対して巡回指導してほしい。
- 空地に高い塀を建て残土やゴミなどを埋めているという噂を聞く。地下水の汚れも気になる。
- 上尾駅の西口と東口の喫煙所について、囲いの高さを高くする、完全に覆われたプレハブのような部屋にする等外に臭いが漏れないようにしてもらいたい。路上喫煙をしている人が多い。
- ゴミのポイ捨て対策。子どもの頃から教育を！
- ペットを飼っている人に対する注意喚起。放し飼い・野良ネコにエサを与えることへの注意喚起。花壇を荒らしたり、糞尿をしたり、車の下に入りこんでいて飛びだしてくる。
- 野焼き。年に数回なら我慢できるが、住宅近くで焼かれると、窓を全部閉めきったり、灰が降ってきたり、のどが痛くなったりと影響がある。困っている人もいることを周知して欲しい。
- まちなかの看板のサイズ・色彩や店の昇りばた等景観が美しくなればと願う。ブロック塀の高さを統一すると景観が良くなり、防犯対策（他人の目がある）、地震等での崩壊が防げる。

●自然・生物多様性について

- 自宅の窓から外を見ると、マンション・ビルで緑の少なさにがっかりする。田畑もここ何年かで住宅になり自然が少なくなっているのを感じる。前も後もコンクリートでは涼しくならない。このままだと未来を担う子供達がかわいそうだと感じている。
- 残り少ない林などが次々と住宅地になってゆくのは残念でならない。納税を考えての事であれば空き家の活用に力をいれていく方が良いのではと思う。
- 災害リスクの高い場所での宅地化が散見される。農地が減り、宅地が増え、空き家が増えている。景観の悪化、周辺環境の悪化につながるゆゆしき事態。土地利用規制をして欲しい。
- 鴨川の水を子どもたちが水遊びできるくらいに綺麗にしてほしい。市内のあちこちに小さくても木のある公園を作ってほしい。
- 散歩など戸外へ出た時にベンチ等、休める場所が多く欲しい。ベンチの周辺に落葉樹などがあり夏は木陰、冬は太陽光を受けられる場所が多く欲しい。
- 江川に外来生物アカミミガメが沢山生殖しているので対策を考えてほしい。

●循環型社会について

- カラスが出されたゴミ袋を破ってゴミが散乱して見苦しい箇所が多々ある。カラスの被害防止用のゴミネットに目が細かいものを追加し、2重に使用すれば被害も軽減されると思う。
- 風が強い地区の為、軽めのゴミが自宅付近まで転がってくる。全地区ごみ箱（フタがある物）の設置を統一して頂きたい。
- 各家庭から出るそれぞれの地域のゴミ収集場所の設置場所の改善。整備、修理、ゴミネット設置を市の予算で実施して欲しい。
- ゴミ捨てルールが守られていない。
- 廃油や消費期限が過ぎてしまった油を市で回収。エコに参加している気分になりうれしい。
- プラスチック回収はなぜペットボトルだけなのか。「プラ」マークのものすべて資源のはず。
- スーパーなどにも容器プラチック削減が必要だと思う。

●気候変動対策について

- 地球温暖化の防止はすぐに取り組まなければならない問題。私ひとりやってもまわりを見ているとそうでもありません。もっとみんなが真剣に取り組めるようにして下さい。
- 住宅街で個人が木を植えたりして少しでも緑をふやし、温暖化をおさえる活動を始めること。
- カーボンニュートラルは無意味だと思う。CO2 を減らしても温暖化は止まらない。本当にやる気もない環境運動を金儲けや政治に利用するのはやめてほしい。
- ゲリラ豪雨による住宅地の冠水が多く大雨のたびに心配。大雨で側溝があふれて学校の土が流れ出し、側溝や道路にたまってさらに増水している。側溝の土を取りのぞいてほしい。
- 治水対策（芝川、鴨川）。道路の排水効率を上げてほしい。

●普及啓発・環境活動について

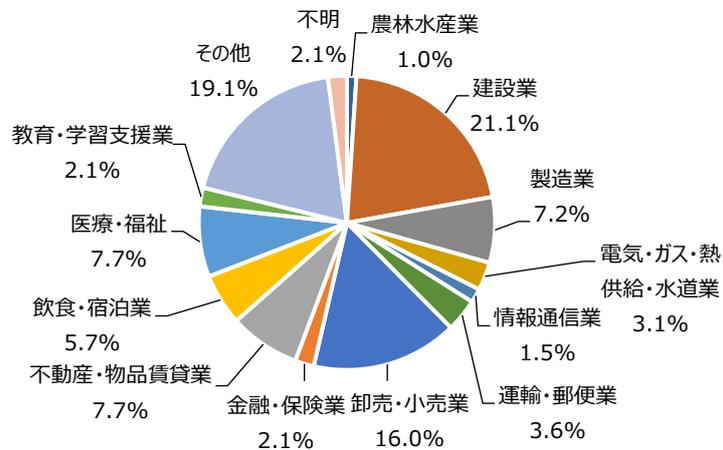
- 市の取組の情報は、今までの方法では60代以上には有効だと思うが、それ以下の年代には伝わりにくい気がする。
- “高齢者のリタイア後の趣味”といった印象がしみついてしまっていて、若い人の参加がしにくいイメージがある。
- SNS・ホームページ等に関心がなければ見ないと思うので(自分の体験上)地域のコミュニティ・公民館等の利用者が増えたら自然に目に入るのではないかと思う。
- 上尾市の形がアゲハチョウなのでアッピーとコラボしてグッズつくってほしい。環境問題はこのキャラで!
- ユーチューブチャンネルを作る。
- 市民の多くの人への参画が重要。メリットが感じられる取組みがポイントかと思う。
- 上尾市を大切にしてくれることも嬉しいが、もっと広範囲の地域、埼玉県や国と協力して環境、温暖化対策をすすめてほしい。

など

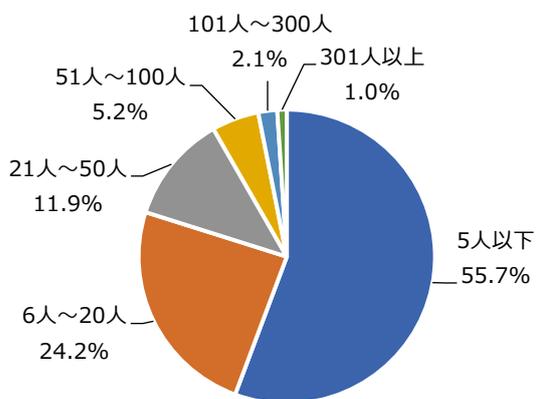
2-3. 事業者アンケート調査結果

1) 回答者属性

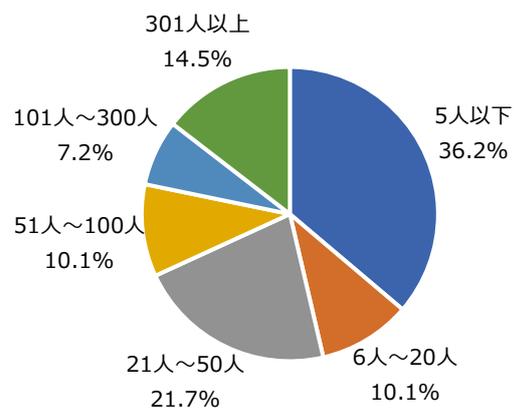
(1) 業種



(2) 従業員数



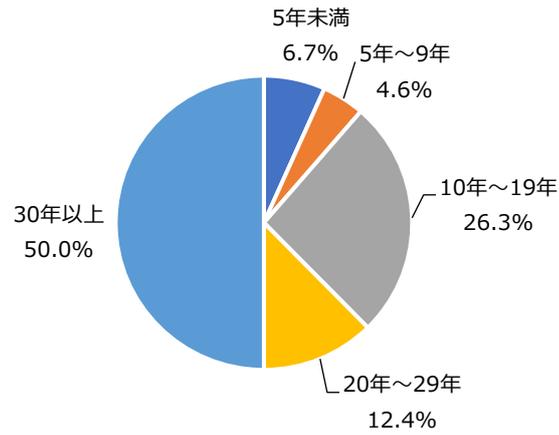
【市内事業所の従業員数】



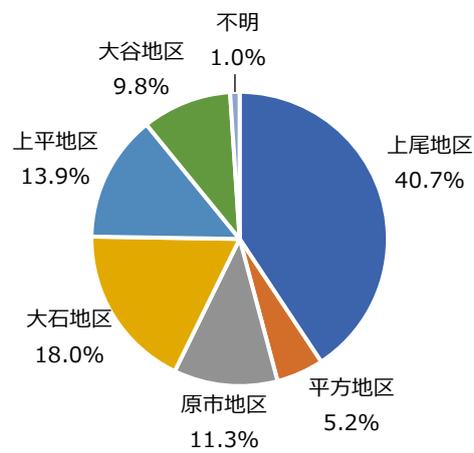
【他都市に本支店等のある企業の従業員規模】

n=69

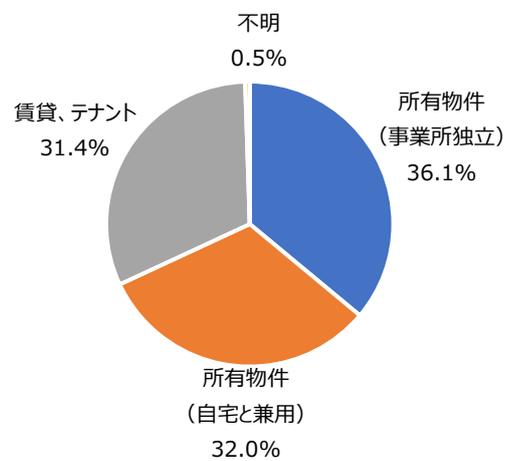
(3) 上尾市での事業年数



(4) 所在地



(5) 建物形態



2) 環境への関心や取り組みについて

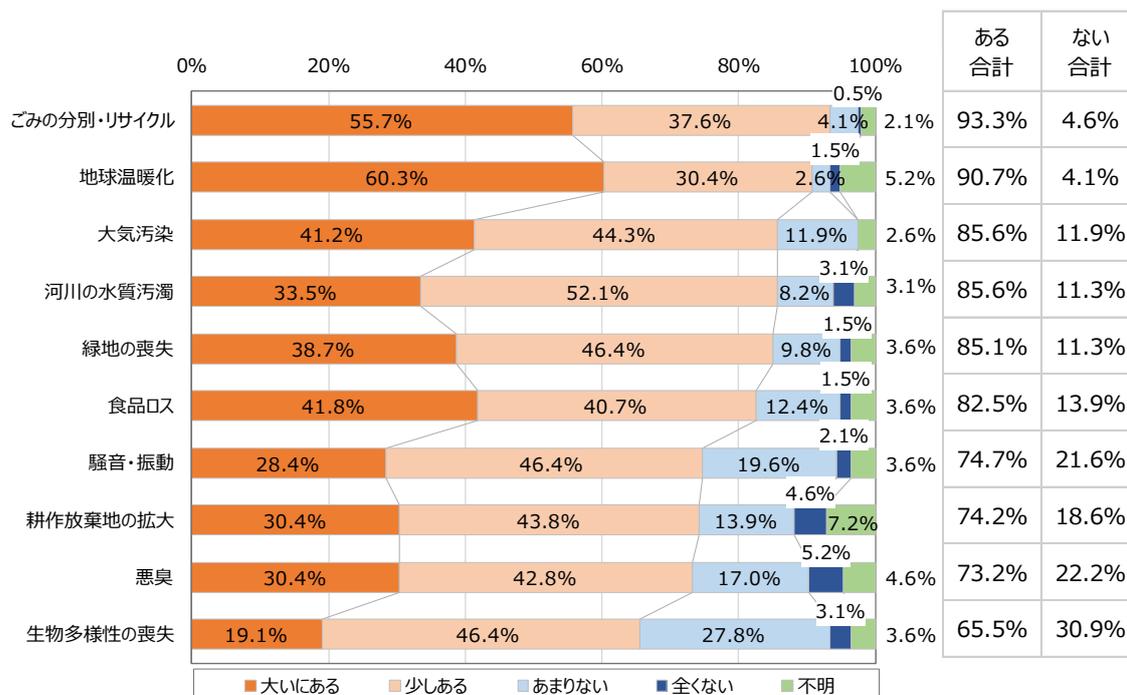
(1) 「環境問題」への関心度

問6 下記の「環境問題」について、どの程度関心がありますか。それぞれの項目について、1～4の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

● 「環境問題」への関心度

「環境問題」への関心度について、『ある合計』（関心が「大いにある」「少しある」の合計）で見ると、「ごみの分別・リサイクル（93.3%）」が最も多く、次いで「地球温暖化（90.7%）」、「大気汚染（85.6%）」、「河川の水質汚濁（85.6%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、農業使用による汚染（土壌・水・人体等）、プラスチックがもたらす環境問題、交通渋滞などが挙げられていました。

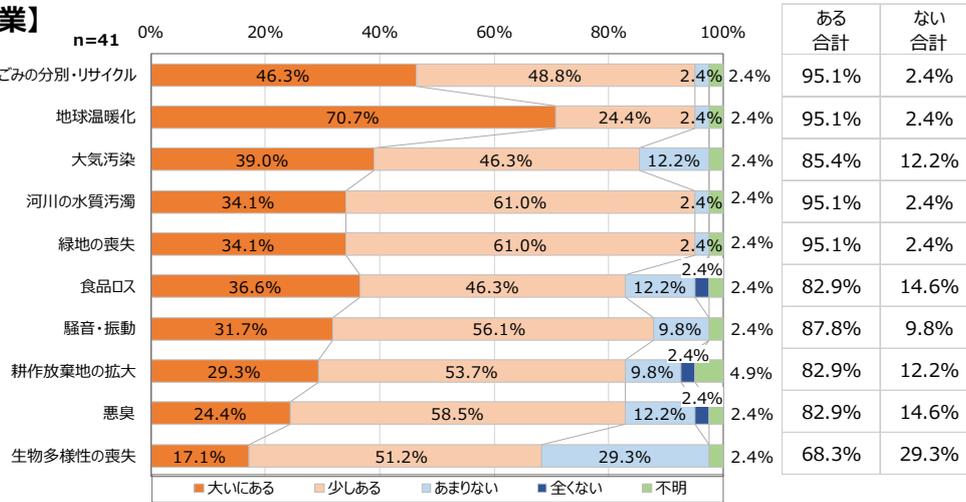


●業種別の「環境問題」への関心度（クロス集計）

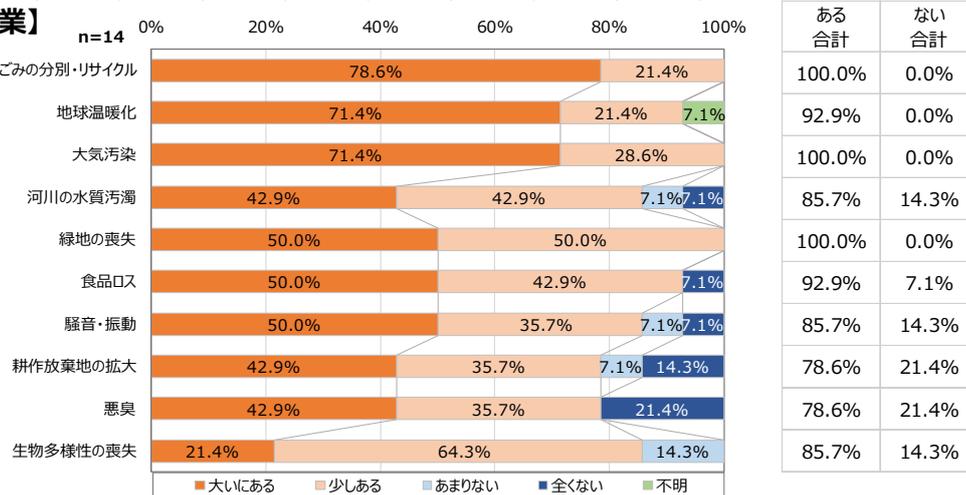
10 事業所以上の回答があった業種の業種別での「環境問題」への関心度について、『ある合計』をみたところ、「建設業」では、「ごみの分別・リサイクル」、「地球温暖化」、「河川の水質汚濁」、「緑地の喪失」が同率で最も高くなっています。

「製造業」では、「ごみの分別・リサイクル」、「大気汚染」、「緑地の喪失」が100%でした。「卸売・小売業」、「不動産・物品賃貸業」では、「ごみの分別・リサイクル」が最も高く、「飲食・宿泊業」では、「食品ロス」が、「医療・福祉」では、「ごみの分別・リサイクル」、「大気汚染」が100%でした。

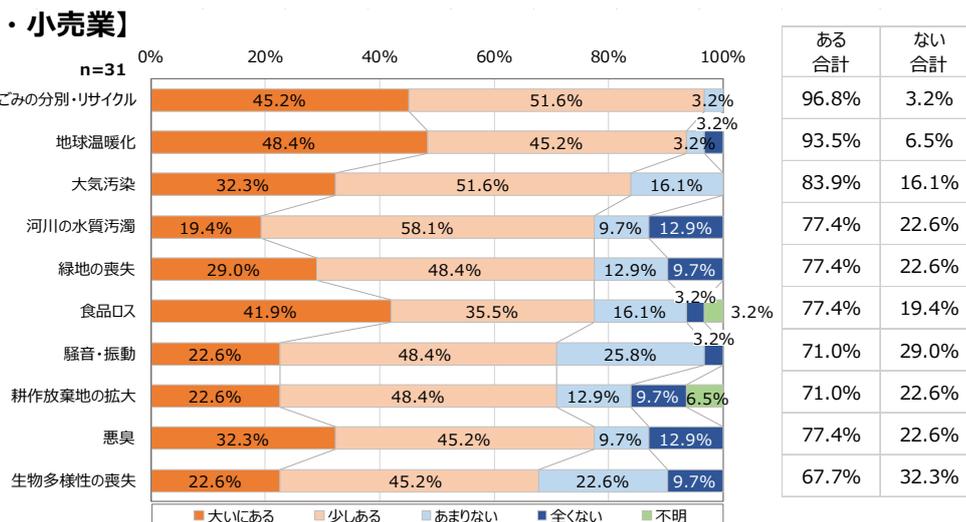
【建設業】



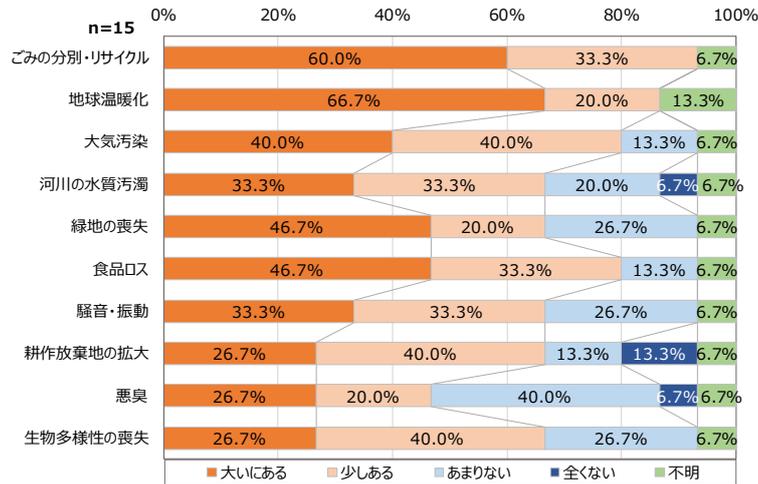
【製造業】



【卸売・小売業】

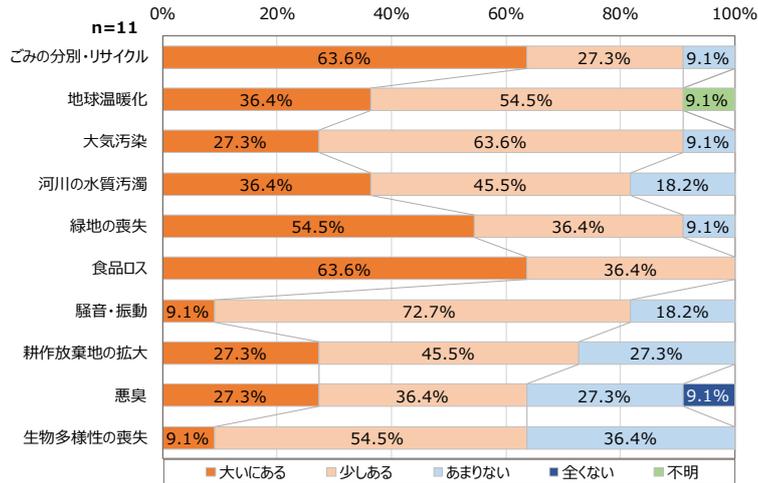


【不動産・物品賃貸業】



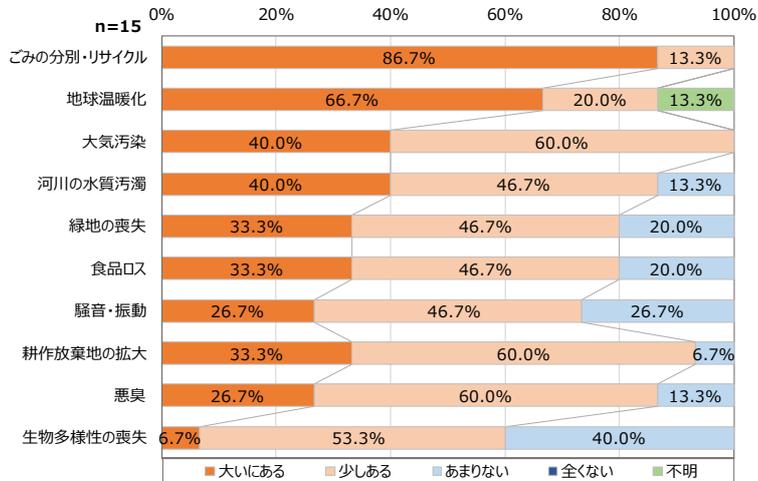
ある合計	ない合計
93.3%	0.0%
86.7%	0.0%
80.0%	13.3%
66.7%	26.7%
66.7%	26.7%
80.0%	13.3%
66.7%	26.7%
66.7%	26.7%
46.7%	46.7%
66.7%	26.7%

【飲食・宿泊業】



ある合計	ない合計
90.9%	9.1%
90.9%	0.0%
90.9%	9.1%
81.8%	18.2%
90.9%	9.1%
100.0%	0.0%
81.8%	18.2%
72.7%	27.3%
63.6%	36.4%
63.6%	36.4%

【医療・福祉】



ある合計	ない合計
100.0%	0.0%
86.7%	0.0%
100.0%	0.0%
86.7%	13.3%
80.0%	20.0%
80.0%	20.0%
73.3%	26.7%
93.3%	6.7%
86.7%	13.3%
60.0%	40.0%

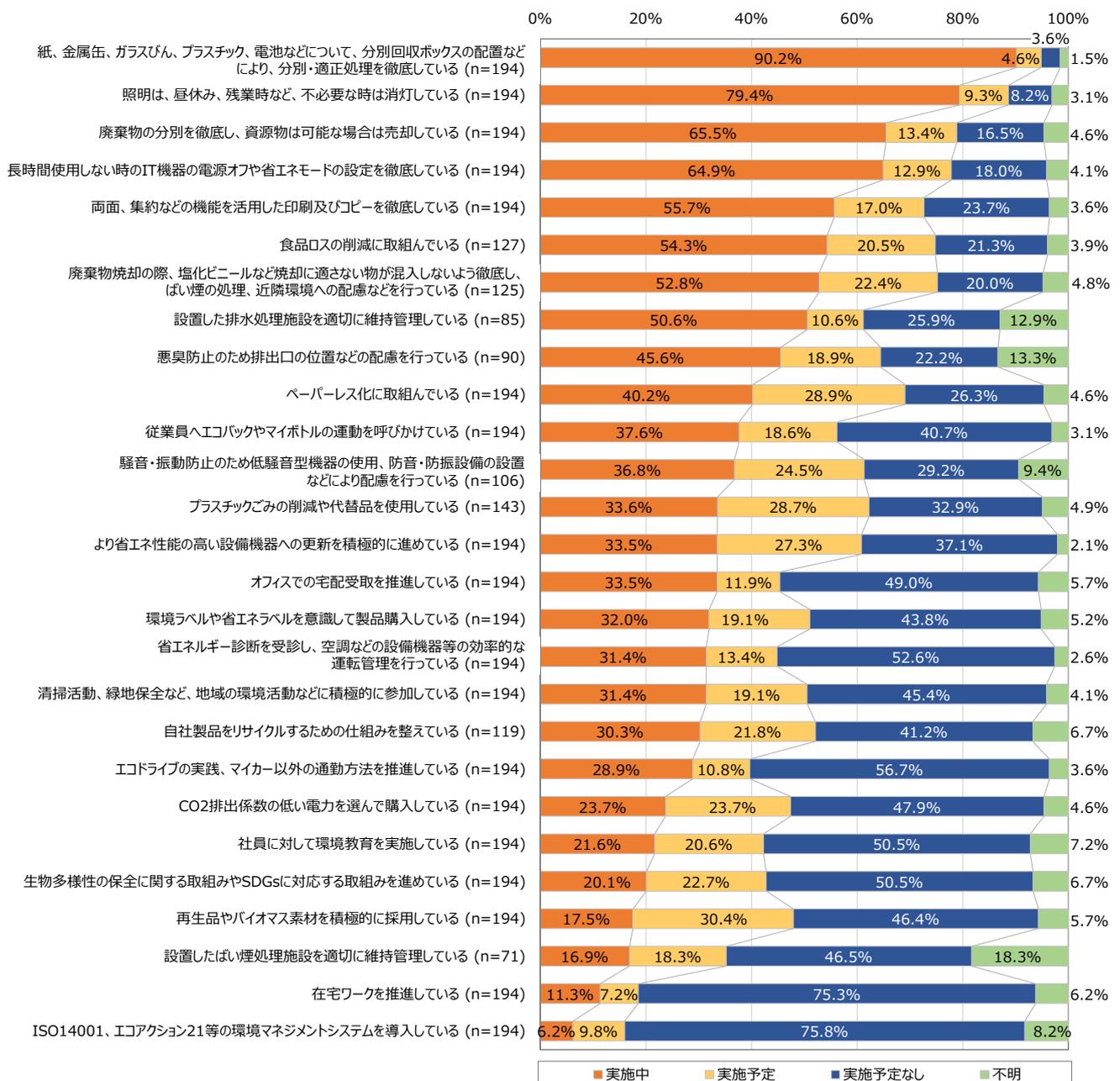
(2) 実施している環境活動

問7 貴事業所では、日常的な環境活動としてどのようなことを実施していますか。それぞれの項目について、1~4の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●環境活動の実施状況

日常的な環境活動について、『実施中』の活動は、「紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池などについて、分別回収ボックスの配置などにより、分別・適正処理を徹底している (90.2%)」が最も多く、次いで「照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯している (79.4%)」、「廃棄物の分別を徹底し、資源物は可能な場合は売却している (65.5%)」、「長時間使用しない時のIT機器の電源オフや省エネモードの設定を徹底している (64.9%)」が多くなっています。

『実施予定』の活動については、「再生品やバイオマス素材を積極的に採用している (30.4%)」、「ペーパーレス化に取り組んでいる (28.9%)」、「プラスチックごみの削減や代替品を使用している (28.7%)」、「より省エネ性能の高い設備機器への更新を積極的に進めている (27.3%)」が多く、3割前後の回答となりました。



※一部の項目に「該当なし」の選択肢があるため、「該当なし」を除外した回答数をn数（有効回答数）として記載しています。

● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について、『実施中』の回答割合の変化を整理しました。

すべての項目で実施率が上昇しています。特に「エコバックやマイボトルの運動の呼びかけ」、「ペーパーレス化」、「分別回収ボックスの適正配置などによるごみの分別を徹底」については、10ポイント以上実施率が上昇しました。

【実施中の割合※比較可能な項目のみ抜粋】

(%)

項目	令和6年度 調査	平成31年度 調査	変化量
紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池などについて、分別回収ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を徹底している	90.2	79.6	10.6
照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯している	79.4	76.1	3.3
廃棄物の分別を徹底し、可能な場合は売却している	65.5	61.9	3.6
長時間使用しない時には、IT 機器の電源オフを徹底している	64.9	62.8	2.1
両面、集約などの機能を活用した印刷及びコピーを徹底している	55.7	53.1	2.6
廃棄物焼却の際、塩化ビニールなど焼却に適さない物が混入しないよう徹底し、ばい煙の処理、近隣環境への配慮などを行っている	52.8	50.4	2.4
悪臭防止のため排出口の位置などの配慮を行っている	45.6	36.5	9.0
ペーパーレス化に取り組んでいる	40.2	27.4	12.8
従業員へエコバックやマイボトルの運動を呼びかけている	37.6	23.0	14.6
オフィスでの宅配受取を推進している	33.5	31.0	2.5
環境ラベルや省エネラベルを意識して製品購入している	32.0	26.5	5.5
CO2 排出係数の低い電力を選んで購入している	23.7	15.9	7.8
在宅ワークを推進している	11.3	10.6	0.7
ISO14001、エコアクション 21 等の環境マネジメントシステムを導入している	6.2	2.7	3.5

(3) 地球温暖化対策の実施状況

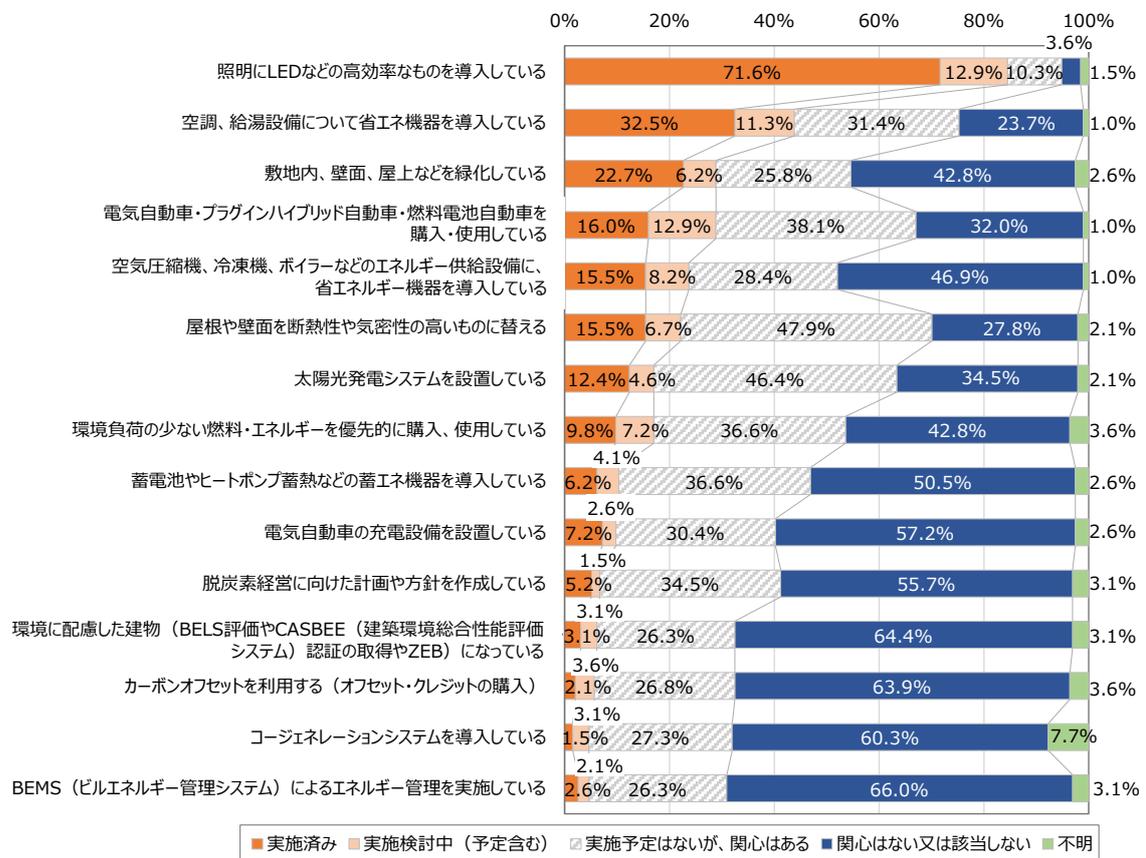
問8 地球温暖化対策につながる次の項目について、実施しているものはありますか。それぞれの項目について、1~4の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●地球温暖化対策の実施状況と関心度

地球温暖化対策について、『実施済み』は、「照明にLEDなどの高効率なものを導入している（71.6%）」が突出して多く、『実施検討中（予定含む）』と合わせると85%になっています。次いで「空調、給湯設備について省エネ機器を導入している（32.5%）」が多くなっており、『実施検討中（予定含む）』と合わせると4割以上となりました。建物の形態に関係がなく比較的取組みやすい項目の実施率が高くなっています。

このほか、『実施済み』の取組みとして「敷地内、壁面、屋上などを緑化している（22.7%）」の回答が多くなっています。

『実施予定はないが、関心はある』では、「断熱性や気密性の高い屋根や壁面（47.9%）」、「太陽光発電システム（46.4%）」、「電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車（38.1%）」の順に多くなっています。



●建物形態別の地球温暖化対策の実施状況（クロス集計）

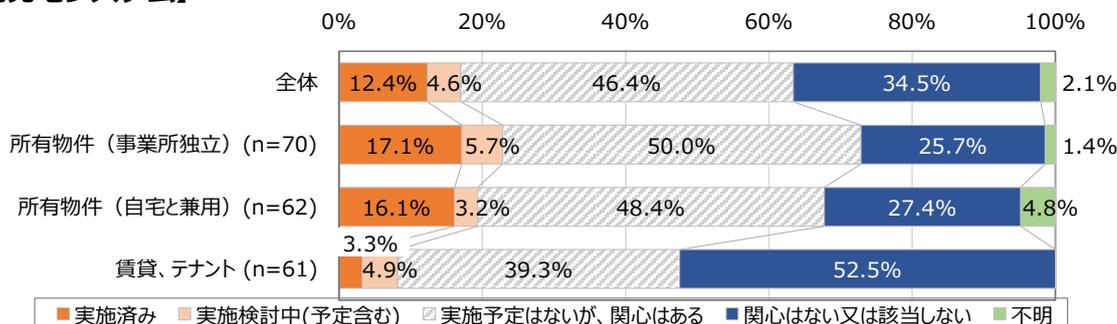
建物形態別に以下の9つの地球温暖化対策の実施状況をみたところ、『実施済み』と『実施検討中（予定を含む）』を合わせた回答率について、「所有物件（事業所独立）」では、すべての設備機器で全体の回答率を上回っています。

「太陽光発電システム」は、全体17%に対し約23%、「蓄エネ機器」は全体約10%に対し約16%、「充電設備」は全体約10%に対し約16%、「高断熱高気密の屋根や壁面」は全体約22%に対し約27%、「省エネ型空調給湯設備」は全体約44%に対し約53%、「省エネ型エネルギー供給設備」は全体約24%に対し約31%と5ポイント以上の差ができています。

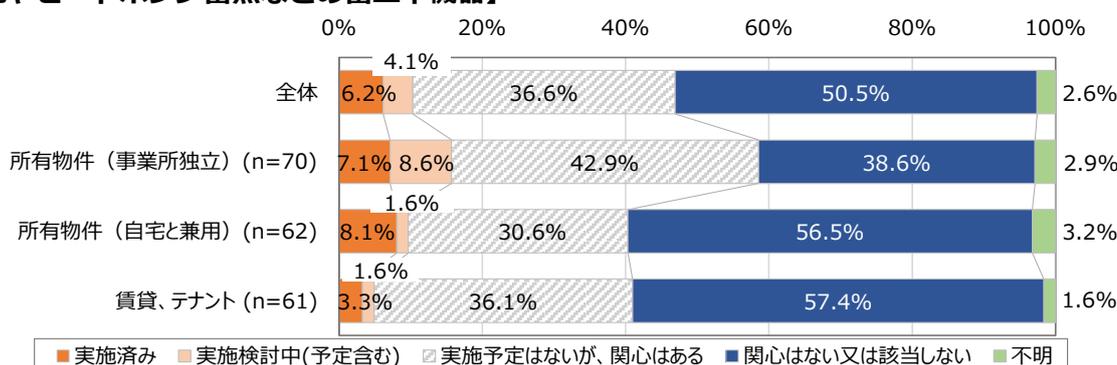
「所有物件（自宅と兼用）」においても、『実施済み』と『実施検討中（予定を含む）』を合わせた回答率が全体の回答率を上回っているものが多く、特に「高断熱高気密の屋根や壁面」では、『実施済み』が22.6%と「所有物件（事業所独立）」より高い導入率となりました。

「賃貸、テナント」では、「カーボンオフセット」が建物の形態で制限されない取組みであることから、全体と比べて実施率が高くなっています。また、割合は低いものの『実施済み』、『実施検討中（予定含む）』の回答がすべての項目でみられ、テナントオーナー等においても少なからず取組みが進んでいることがうかがえます。

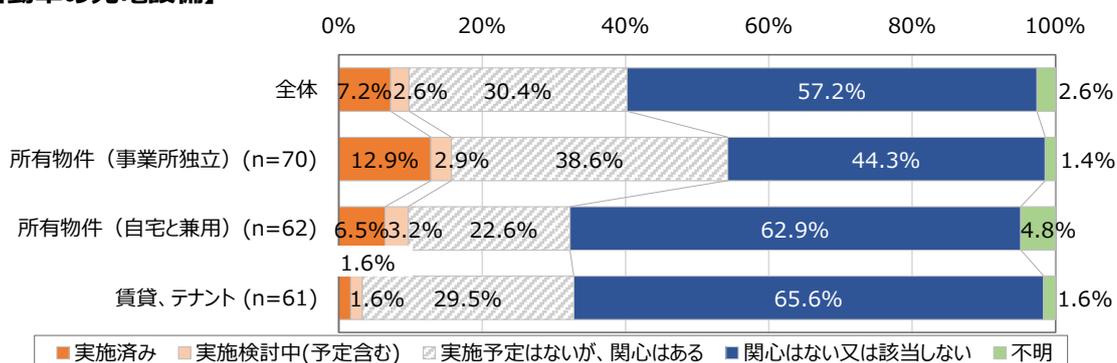
【太陽光発電システム】



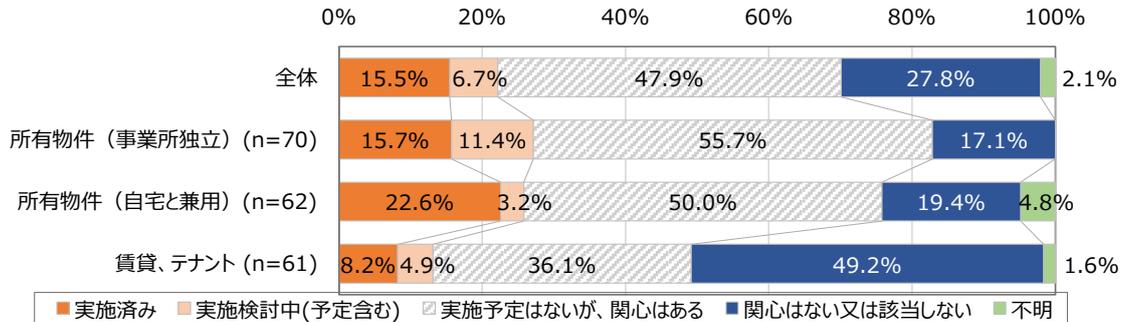
【蓄電池やヒートポンプ蓄熱などの蓄エネ機器】



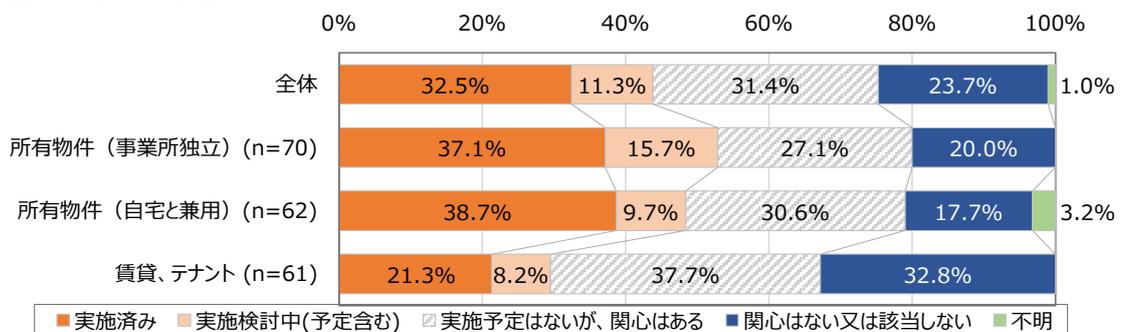
【電気自動車の充電設備】



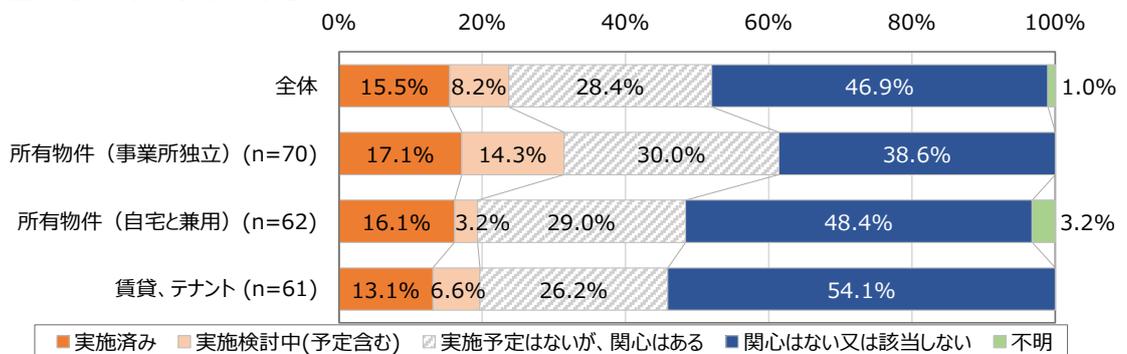
【断熱性や気密性の高い屋根や壁面】



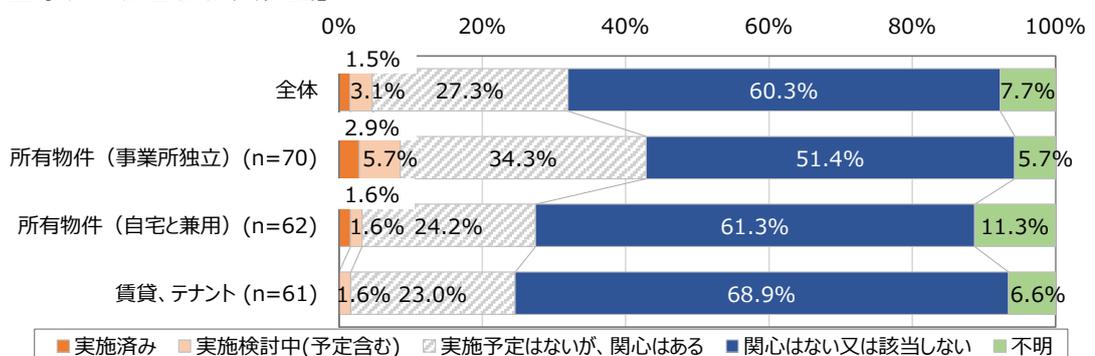
【省エネ型空調給湯設備】



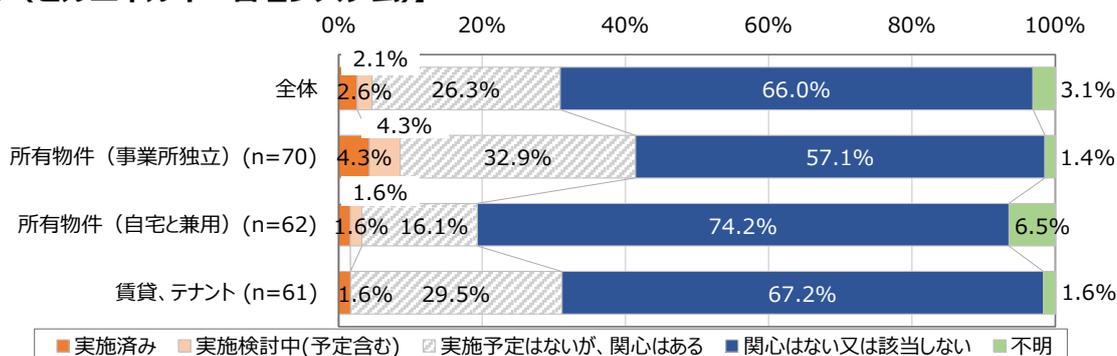
【省エネ型エネルギー供給設備】



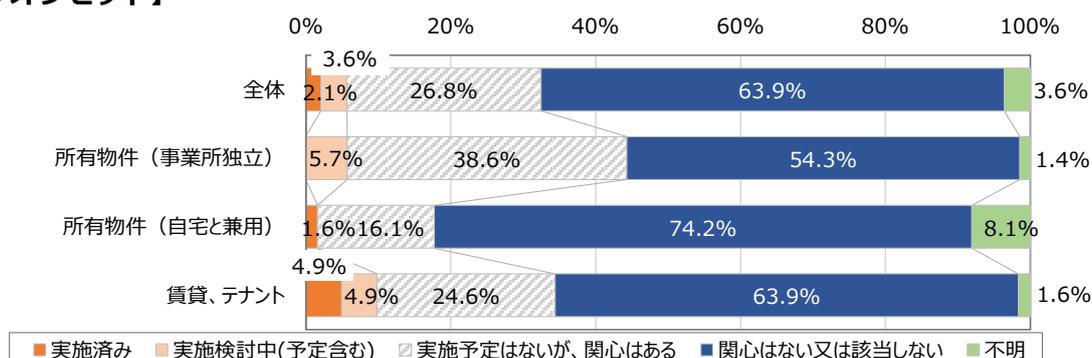
【コージェネレーションシステム】



【BEMS（ビルエネルギー管理システム）】



【カーボンオフセット】



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について、『実施済み』の回答割合の変化を整理しました。

「LEDなどの高効率照明」は16.7ポイント、「省エネ型空調、給湯設備」は6.0ポイント、「省エネ型エネルギー供給設備」は5.8ポイント、「敷地内、壁面、屋上などの緑化」は5.0ポイント上昇しています。

【実施済みの割合※比較可能な項目のみ抜粋】

(%)

項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
照明にLEDなどの高効率なものを導入している	71.6	54.9	16.7
空調、給湯設備について省エネ機器を導入している	32.5	26.5	6.0
敷地内、壁面、屋上などを緑化している	22.7	17.7	5.0
空気圧縮機、冷凍機、ボイラーなどのエネルギー供給設備に、省エネルギー機器を導入している	15.5	9.7	5.8
屋根や壁面を断熱性や気密性の高いものに替える	15.5	28.3	▲ 12.8
太陽光発電システムを設置している	12.4	13.3	▲ 0.9
環境負荷の少ない燃料・エネルギーを優先的に購入、使用している	9.8	9.7	0.1
蓄電池やヒートポンプ蓄熱などの蓄エネ機器を導入している	6.2	3.5	2.7
コージェネレーションシステムを導入している	1.5	2.7	▲ 1.2

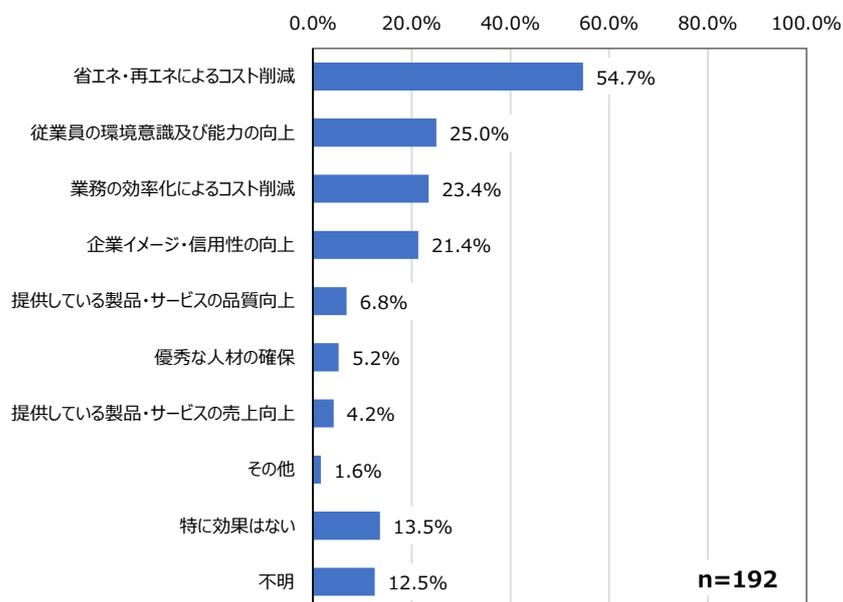
(4) 環境活動で得られた効果

問9 問7又は問8でひとつでも1に○をつけた方にお伺いします。環境活動に取り組んだことで得られた効果は何ですか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

環境活動で得られた効果については、「省エネ・再エネによるコスト削減（54.7%）」が最も多く、次いで、「従業員の環境意識及び能力の向上（25.0%）」、「業務の効率化によるコスト削減（23.4%）」、「企業イメージ・信用性の向上（21.4%）」が多くなっています。

一方、「特に効果はなかった（13.5%）」の回答も一定程度ありました。

また、その他の回答として、得意先から求められている対策を行い受注があるなどが挙げられていました。



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について回答割合の変化を整理しました。

「企業イメージ・信用性の向上」が8.6ポイントと大きく上昇しています。

【※比較可能な項目のみ抜粋】

(%)

項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
省エネ・再エネによるコスト削減※	54.7	62.4	▲ 7.7
従業員の環境意識及び能力の向上※	25.0	25.7	▲ 0.7
業務の効率化によるコスト削減	23.4	19.3	4.1
企業イメージ・信用性の向上	21.4	12.8	8.6
提供している製品・サービスの品質向上	6.8	6.4	0.4
提供している製品・サービスの売上向上	4.2	1.8	2.4

※の項目は、項目の表現の変更により比較が難しいことから、変化量は参考として扱います。

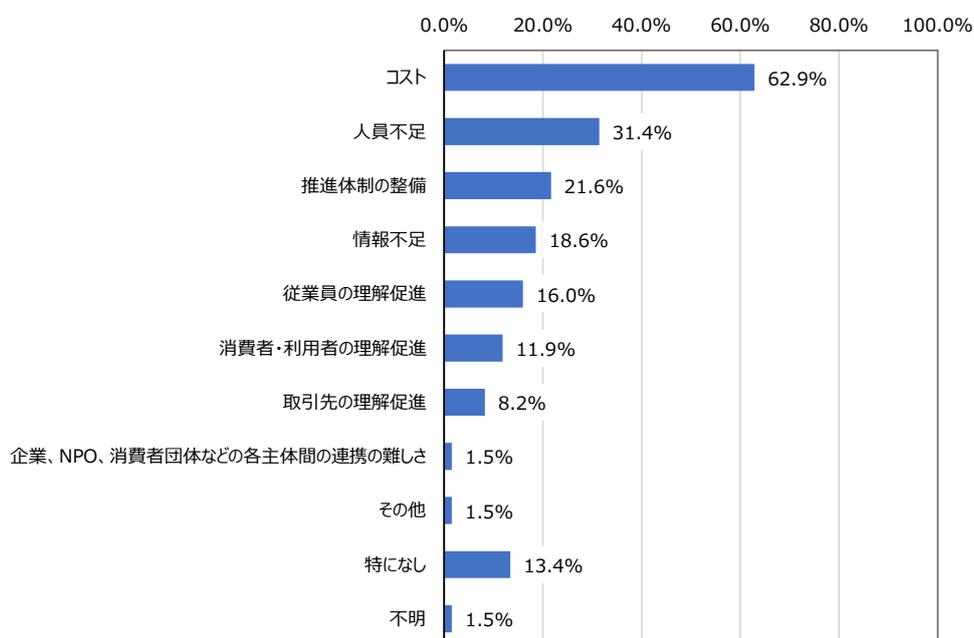
(5) 環境活動を実施するにあたっての課題

問10 すべての方にお伺いします。貴事業所において、環境活動を実施するにあたり、どのようなことが課題であると感じていますか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。
【複数回答】

環境活動を実施するにあたっての課題については、「コスト(62.9%)」が最も多く、次いで、「人員不足(31.4%)」、「推進体制の整備(21.6%)」が多くなっています。ヒトモノカネの経営資源に関係する項目が上位にあがっていました。

一方、「特になし(13.4%)」の回答も一定程度ありました。

また、その他の回答として、環境ビジネスになっているものに流されない事などが挙げられていました。



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について回答割合の変化を整理しました。

「コスト」が7.0ポイント、「情報不足」が6.2ポイント減少しており、課題と考えている事業者が減少していることがうかがえます。

一方、「消費者・利用者の理解促進」を課題と考える事業者が増えています。

【環境活動実施にあたっての課題※比較可能な項目のみ抜粋】 (%)

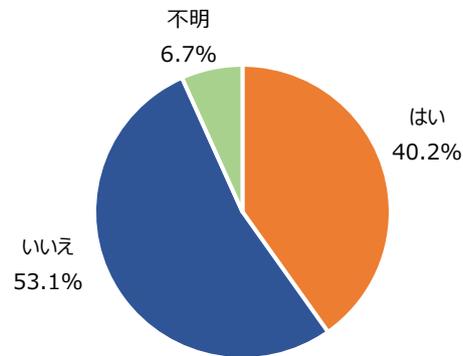
項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
コスト	62.9	69.9	▲ 7.0
推進体制の整備	21.6	23.0	▲ 1.4
情報不足	18.6	24.8	▲ 6.2
従業員の理解促進	16.0	14.2	1.8
消費者・利用者の理解促進	11.9	8.8	3.1
取引先の理解促進	8.2	8.8	▲ 0.6
企業、NPO、消費者団体などの各主体間の連携の難しさ	1.5	4.4	▲ 2.9
特になし	13.4	8.8	4.6

(6) 産・学・官・民連携の仕組みへの参加意向

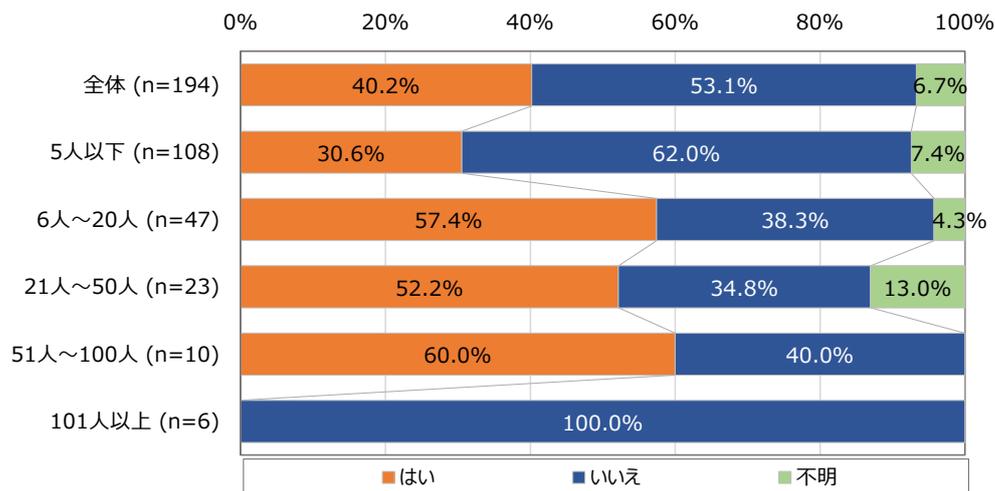
問11 すべての方にお伺いします。産・学・官・民連携の仕組みがあれば参加しますか。
あてはまる番号を1つ○で囲んでください。

産・学・官・民連携の仕組みへの参加意向については、「はい(40.2%)」、「いいえ(53.1%)」となり、「いいえ」で5割以上の回答率となりました。

従業員規模別の回答をみると、従業員数が6人～100人の事業所で「はい」の割合が5割以上となり、中規模の事業所で参加意向が高いことがうかがえます。



●従業員規模別の産・学・官・民連携の仕組みへの参加意向（クロス集計）



3) 気候変動対策について

(1) 重要と考える気候変動による事業活動リスク

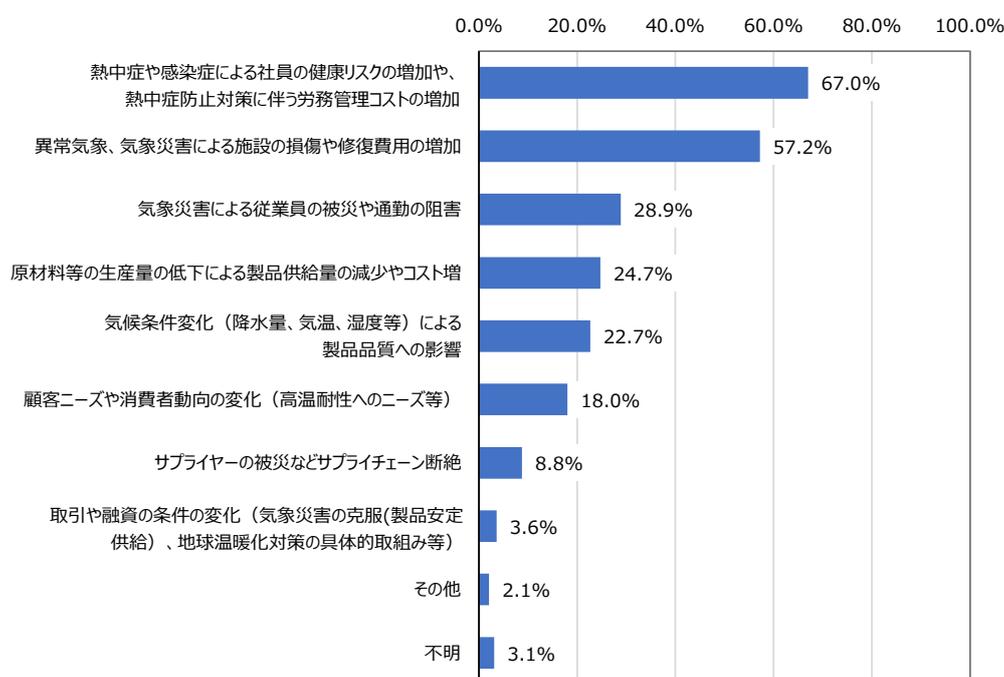
問 1 2 既に日本でも地球温暖化による気候変動が観測されており、将来にわたって下記のように事業活動自体に様々なリスクを及ぼすことが予測されています。気候変動による事業活動リスクについて重要と考えるものは、どれですか。あてはまる番号を3つまで○で囲んでください。【複数回答】

●気候変動による事業活動リスク

気候変動による事業活動リスクについては、「熱中症や感染症による社員の健康リスクの増加や、熱中症防止対策に伴う労務管理コストの増加（67.0%）」が最も多く、次いで「異常気象、気象災害による施設の損傷や修復費用の増加（57.2%）」が多くなっています。

熱中症等のリスク増加や気象災害による施設への影響等は、既に顕在化している気候変動影響であることから、回答率が高くなっていることがうかがえます。

また、その他の回答として、環境の名のついた税の増加などが挙げられていました。



●業種別の気候変動による事業活動リスク（クロス集計）

業種別の気候変動による事業活動リスクについては、「熱中症等のリスク増加」が12業種のうち7業種で、「気象災害による施設への影響等」は6業種で回答率が最も多くなっています。

「農林水産業」と「飲食・宿泊業」では「製品品質への影響」が最も多くなりました。

「電気・ガス・熱供給・水道業」では「顧客ニーズや消費者動向の変化」が、「金融・保険業」では「気象災害による従業員の被災や通勤の阻害」が最も多い項目のなかの一つとなっています。

(%)

項目	全体 (n=194)	農林 水産業 (n=2)	建設業 (n=41)	製造業 (n=14)	電気・ガス・ 熱供給・ 水道業 (n=6)	情報 通信業 (n=3)	運輸・ 郵便業 (n=7)
熱中症や感染症による社員の健康リスクの増加や、熱中症防止対策に伴う労務管理コストの増加	67.0	50.0	78.0	78.6	33.3	66.7	71.4
異常気象、気象災害による施設の損傷や修復費用の増加	57.2	50.0	58.5	35.7	50.0	66.7	28.6
気象災害による従業員の被災や通勤の阻害	28.9	0.0	34.1	42.9	0.0	0.0	14.3
原材料等の生産量の低下による製品供給量の減少やコスト増	24.7	50.0	31.7	28.6	16.7	33.3	14.3
気候条件変化（降水量、気温、湿度等）による製品品質への影響	22.7	100.0	24.4	28.6	50.0	0.0	42.9
顧客ニーズや消費者動向の変化（高温耐性へのニーズ等）	18.0	0.0	2.4	0.0	50.0	33.3	14.3
サプライヤーの被災などサプライチェーン断絶	8.8	0.0	4.9	28.6	16.7	0.0	14.3
取引や融資の条件の変化（気象災害の克服（製品安定供給）、地球温暖化対策の具体的取組み等）	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0

項目	全体 (n=194)	卸売・ 小売業 (n=31)	金融・ 保険業 (n=4)	不動産・ 物品賃貸 業 (n=15)	飲食・ 宿泊業 (n=11)	医療・福祉 (n=15)	教育・学習 支援業 (n=4)
熱中症や感染症による社員の健康リスクの増加や、熱中症防止対策に伴う労務管理コストの増加	67.0	54.8	75.0	60.0	45.5	80.0	100.0
異常気象、気象災害による施設の損傷や修復費用の増加	57.2	58.1	75.0	86.7	36.4	66.7	100.0
気象災害による従業員の被災や通勤の阻害	28.9	38.7	75.0	13.3	0.0	46.7	25.0
原材料等の生産量の低下による製品供給量の減少やコスト増	24.7	32.3	0.0	0.0	63.6	20.0	0.0
気候条件変化（降水量、気温、湿度等）による製品品質への影響	22.7	19.4	0.0	20.0	72.7	0.0	25.0
顧客ニーズや消費者動向の変化（高温耐性へのニーズ等）	18.0	25.8	25.0	26.7	27.3	20.0	50.0
サプライヤーの被災などサプライチェーン断絶	8.8	22.6	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
取引や融資の条件の変化（気象災害の克服（製品安定供給）、地球温暖化対策の具体的取組み等）	3.6	3.2	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0

※各業種において回答割合が最上位のものに網掛けをしています。

(2) 気候変動適応策の取組み状況

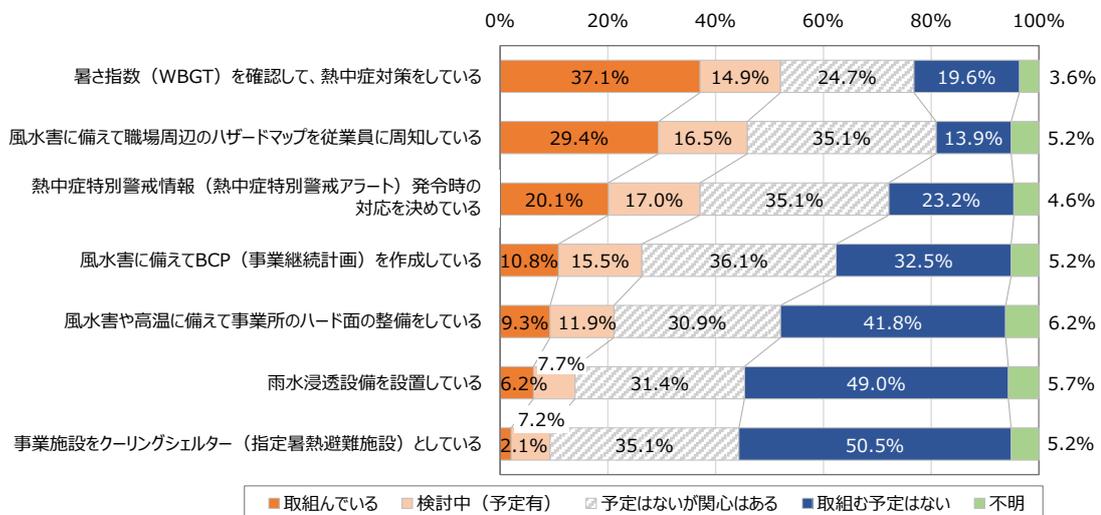
問 1 3 貴事業所で取組まれている気候変動による風水害や気温上昇に対する備えや影響を抑える取組みを教えてください。それぞれの項目について、1～4 の中からあてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。

●気候変動適応策の取組み状況と関心度

気候変動適応策について、『取組んでいる』は、「暑さ指数（WBGT）を確認して、熱中症対策をしている（37.1%）」が最も多く、『検討中（予定有）』と合わせると5割以上になっています。次いで「風水害に備えて職場周辺のハザードマップを従業員に周知している（29.4%）」が多くなっており、『検討中（予定有）』と合わせると46%となりました。

このほか、「熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）発令時の対応を決めている（20.1%）」の回答が多くなっています。

『予定はないが、関心はある』は、取組み率の高い「熱中症対策」を除いてすべての項目で3割以上となっており、「BCP（事業継続計画）の作成（36.1%）」、「ハザードマップの周知（35.1%）」、「熱中症特別警戒情報への対応（35.1%）」、「クーリングシェルター（35.1%）」で特に多くなっています。



●業種別の気候変動適応策の取組み状況（クロス集計）

業種別の気候変動適応策の取組み状況については、「熱中症対策」が12業種のうち6業種で、「ハザードマップの周知」は5業種で取組率が最も高くなっています。

「金融・保険業」では「事業所のハード面の整備」が、「医療・福祉」では「BCP（事業継続計画）の作成」が最も取組率が高くなりました。

「農林水産業」では「熱中症特別警戒情報への対応」と「事業所のハード面の整備」が、「情報通信業」では「BCP（事業継続計画）の作成」が、「運輸・郵便業」では「熱中症特別警戒情報への対応」が最も取組率が高い項目のなかの一つとなっています。

（%）

項目	全体 (n=194)	農林 水産業 (n=2)	建設業 (n=41)	製造業 (n=14)	電気・ガス・ 熱供給・ 水道業 (n=6)	情報 通信業 (n=3)	運輸・ 郵便業 (n=7)
暑さ指数（WBGT）を確認して、熱中症対策をしている	37.1	0.0	53.7	64.3	33.3	0.0	28.6
風水害に備えて職場周辺のハザードマップを従業員に周知している	29.4	50.0	26.8	50.0	33.3	33.3	14.3
熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）発令時の対応を決めている	20.1	50.0	22.0	35.7	16.7	0.0	28.6
風水害に備えてBCP（事業継続計画）を作成している	10.8	0.0	9.8	7.1	0.0	33.3	14.3
風水害や高温に備えて事業所のハード面の整備をしている	9.3	50.0	4.9	14.3	0.0	0.0	0.0
雨水浸透設備を設置している	6.2	0.0	0.0	21.4	16.7	0.0	0.0
事業施設をクーリングシェルター（指定暑熱避難施設）としている	2.1	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0

項目	全体 (n=194)	卸売・ 小売業 (n=31)	金融・ 保険業 (n=4)	不動産・ 物品賃貸 業 (n=15)	飲食・ 宿泊業 (n=11)	医療・福祉 (n=15)	教育・学習 支援業 (n=4)
暑さ指数（WBGT）を確認して、熱中症対策をしている	37.1	25.8	0.0	26.7	27.3	46.7	100.0
風水害に備えて職場周辺のハザードマップを従業員に周知している	29.4	32.3	75.0	40.0	18.2	46.7	0.0
熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）発令時の対応を決めている	20.1	16.1	0.0	13.3	9.1	40.0	75.0
風水害に備えてBCP（事業継続計画）を作成している	10.8	3.2	75.0	6.7	0.0	53.3	0.0
風水害や高温に備えて事業所のハード面の整備をしている	9.3	9.7	100.0	0.0	0.0	13.3	25.0
雨水浸透設備を設置している	6.2	6.5	50.0	6.7	0.0	0.0	25.0
事業施設をクーリングシェルター（指定暑熱避難施設）としている	2.1	3.2	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※各業種において回答割合が最上位のものに網掛けをしています。

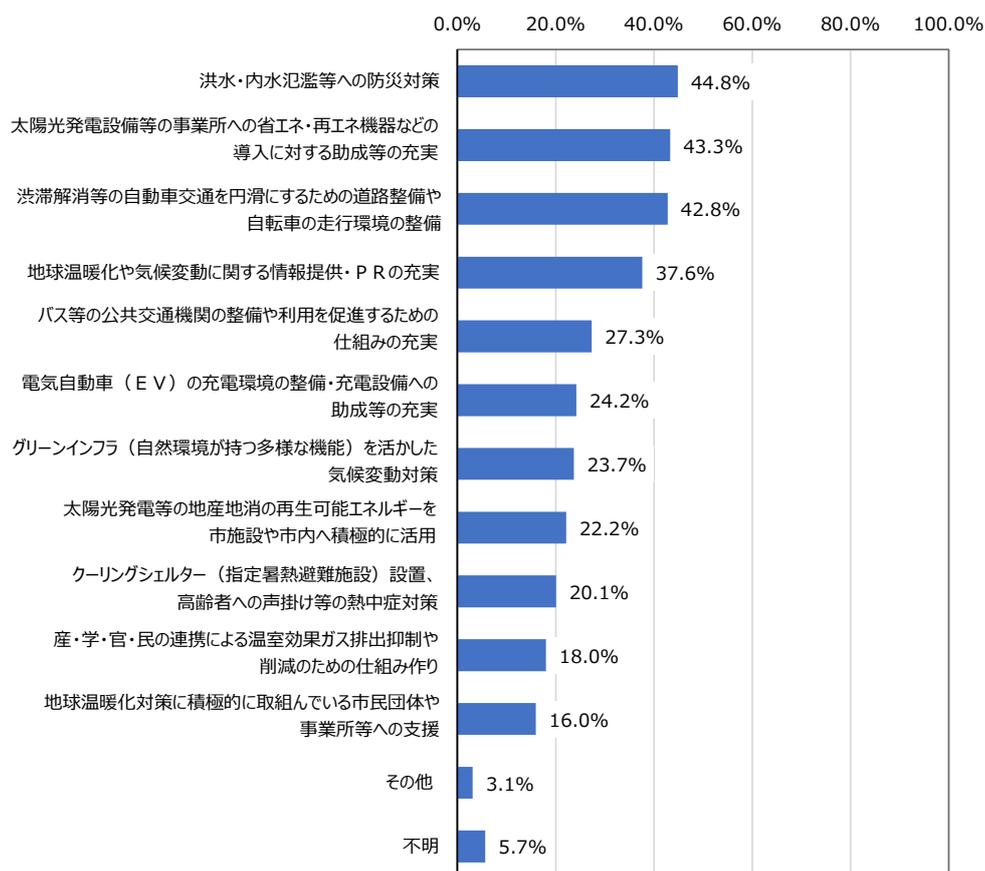
(3) 市が重点的に進めるべき気候変動対策

問 1 4 気候変動対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策はどれですか。あてはまる番号を5つまで○で囲んでください。【複数回答】

市が重点的に進めるべき気候変動対策については、「洪水・内水氾濫等への防災対策(44.8%)」が最も多く、次いで「太陽光発電設備等の事業所への省エネ・再エネ機器などの導入に対する助成等の充実(43.3%)」、「渋滞解消等の自動車交通を円滑にするための道路整備や自転車の走行環境の整備(42.8%)」が多くなっており4割以上の回答割合となりました。

このほか、「地球温暖化や気候変動に関する情報提供・PRの充実(37.6%)」が多くなっています。

また、その他の回答として、暑さに強い作物を作る為の助成金の拡充、正しい情報の発信、貴重な緑地の買い取りなどが挙げられていました。



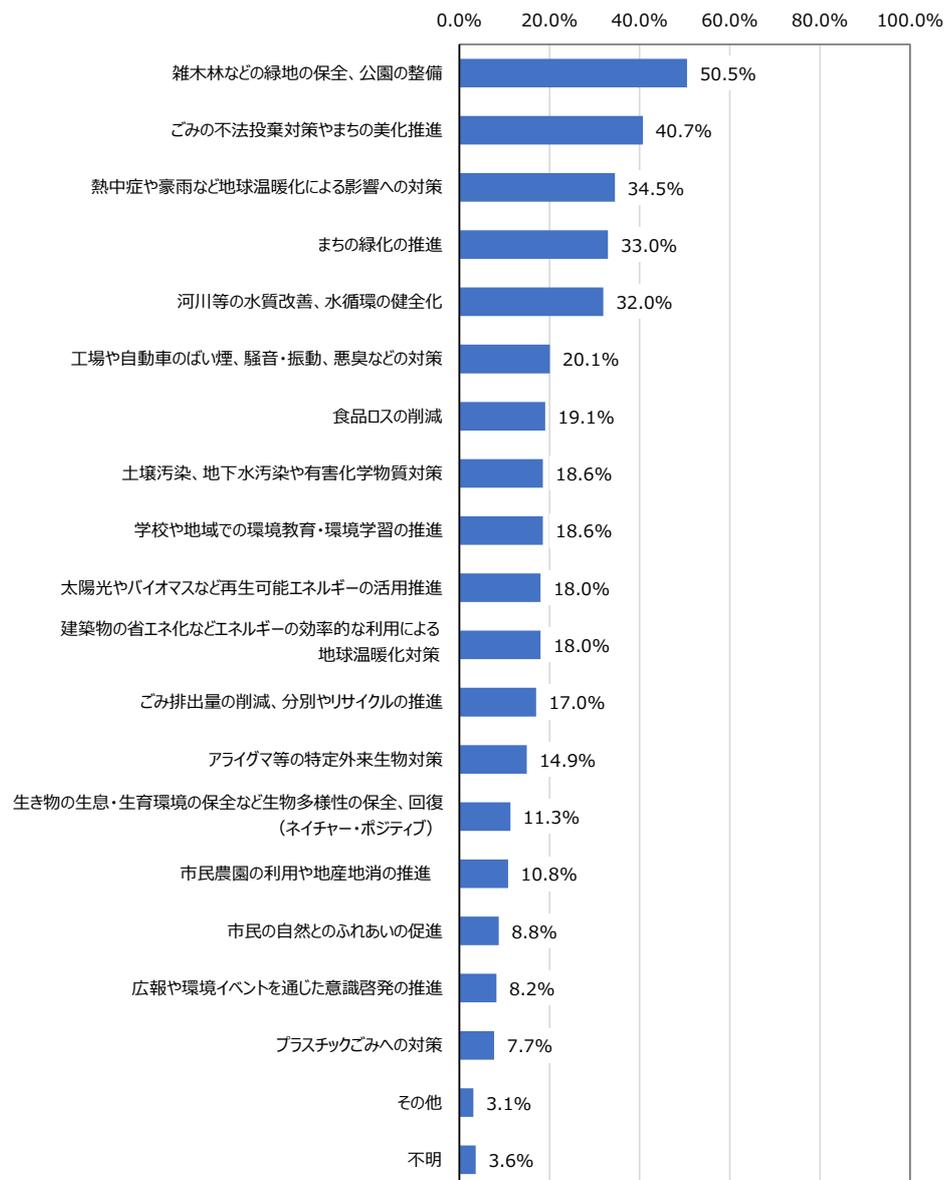
4) 市の環境への取組みについて

(1) 市が重点的に進めるべき環境対策

問15 市が取組む環境への対策について、重点的に進めるべきだと思うものはどれですか。あてはまる番号を5つまで○で囲んで下さい。【複数回答】

市が取組む環境への対策については、「雑木林などの緑地の保全、公園の整備（50.5%）」が最も多く、次いで「ごみの不法投棄対策やまちの美化推進（40.7%）」、「熱中症や豪雨など地球温暖化による影響への対策（34.5%）」、「まちの緑化の推進（33.0%）」、「河川等の水質改善、水循環の健全化（32.0%）」が多くなっています。

また、その他の回答として、空き家対策、農業の担い手の確保・助成、見沼用水・芝川流域の整備などが挙げられていました。



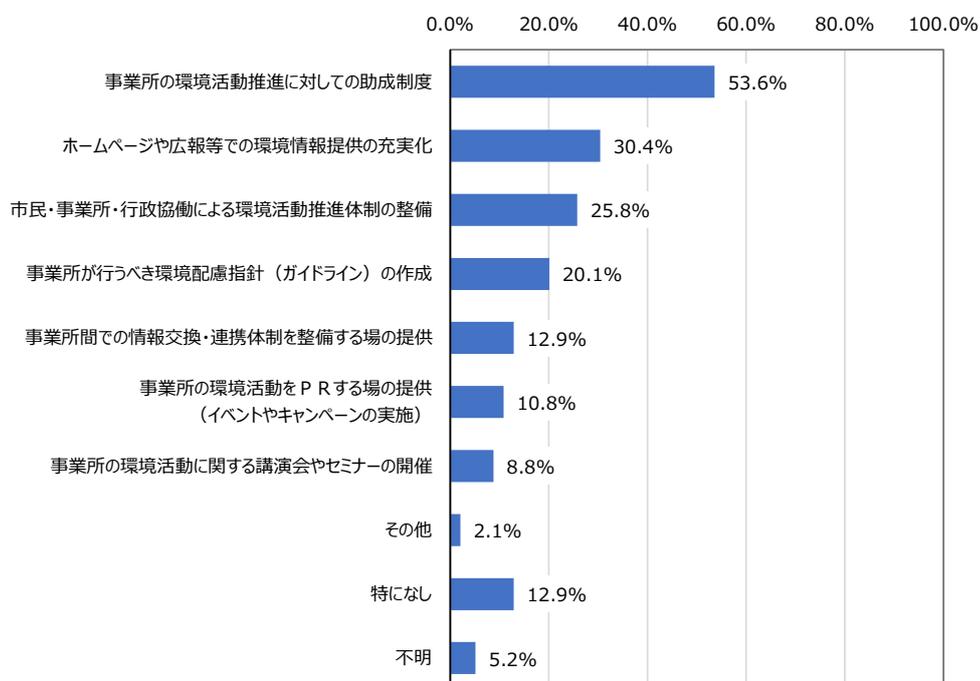
(2) 望ましい市のサポート

問 16 貴事業所が、環境活動を進めるために、行政が実施すると望ましいサポート等がありますか。あてはまる番号を3つまで○で囲んで下さい。【複数回答】

望ましい市のサポートについては、「事業所の環境活動推進に対する助成制度（53.6%）」が最も多く、次いで、「ホームページや広報等での環境情報提供の充実化（30.4%）」、「市民・事業所・行政協働による環境活動推進体制の整備（25.8%）」が多くなっています。

問 10 の環境活動を実施するにあたっての課題で回答率が高かった、「コスト」や「推進体制」、「情報不足」と対応していることがうかがえます。

また、その他の回答として、通信機器を使ったライブ配信セミナー、大企業のテナント誘致と環境整備指導などが挙げられていました。



● 前回調査との比較

前回調査と比較可能な項目について回答割合の変化を整理しました。

「事業所の環境活動推進に対する助成制度」が 4.9 ポイント、「事業所間での情報交換・連携体制を整備する場の提供」が 4.1 ポイント増えており、サポートが必要と考える事業者が増えていることがうかがえます。

【望ましい市のサポート※比較可能な項目のみ抜粋】

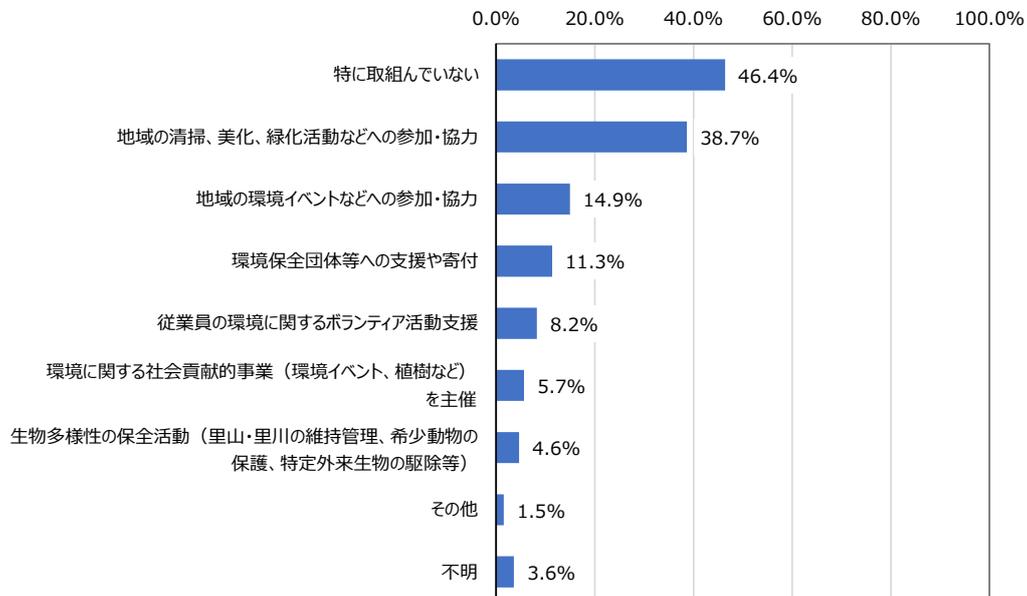
(%)

項目	令和6年度調査	平成31年度調査	変化量
事業所の環境活動推進に対する助成制度	53.6%	48.7	4.9
ホームページや広報等での環境情報提供の充実化	30.4%	29.2	1.2
市民・事業所・行政協働による環境活動推進体制の整備	25.8%	28.3	▲ 2.5
事業所が行うべき環境配慮指針（ガイドライン）の作成	20.1%	21.2	▲ 1.1
事業所間での情報交換・連携体制を整備する場の提供	12.9%	8.8	4.1
事業所の環境活動をPRする場の提供（イベントやキャンペーンの実施）	10.8%	12.4	▲ 1.6
事業所の環境活動に関する講演会やセミナーの開催	8.8%	10.6	▲ 1.8

(3) 取組んでいる地域環境活動

問17 貴事業所では、地域社会の一員として、地域の環境のためにどのような取組みをしていますか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

取組んでいる地域の環境活動については、「特に取組んでいない(46.4%)」が最も多く、次いで、「地域の清掃、美化、緑化活動などへの参加・協力(38.7%)」が多くなっています。また、その他の回答として、公共造園材の提供などが挙げられていました。

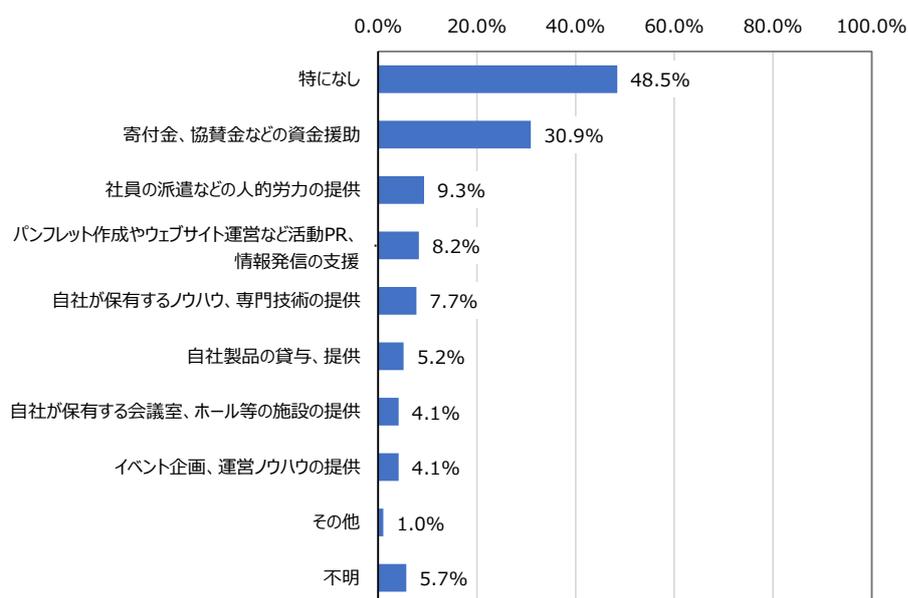


(4) 協力、支援できる取組み

問 1 8 貴事業所が、環境に関する地域貢献活動において、市や環境保護団体に協力、支援できる取組みはありますか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。【複数回答】

環境に関する地域活動で協力、支援できる取組みについては、「特になし（48.5%）」が最も多くなりましたが、「寄付金、協賛金などの資金援助（30.9%）」、「社員の派遣などの人的労力の提供（9.3%）」、「パンフレット作成やウェブサイト運営など活動PR、情報発信の支援（8.2%）」、「自社が保有するノウハウ、専門技術の提供（7.7%）」など協力・支援の回答もありました。

また、その他の回答として、ナショナル・トラストへの協力などが挙げられていました。



5) 自由意見

最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、17 事業所（8.8%）から回答がありました。複数の分野の意見を記入している場合は、それぞれ 1 件として数えているため、延べ件数は 21 件となりました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

分類	件数
総計	21
生活環境	(計) 3
公害防止（道路騒音・振動・大気汚染）	2
美化、マナー（ポイ捨て）	1
自然・生物多様性	(計) 3
緑化	2
農地保全・農業の維持	1
循環型社会	(計) 3
ごみの分別・リサイクル	2
マイクロプラスチック	1
気候変動対策	(計) 6
気候変動への適応	3
地球温暖化対策	3
普及啓発・環境活動	(計) 1
啓発・情報発信	1
環境全般	(計) 3
その他	(計) 2
公共行政	1
災害対策	1

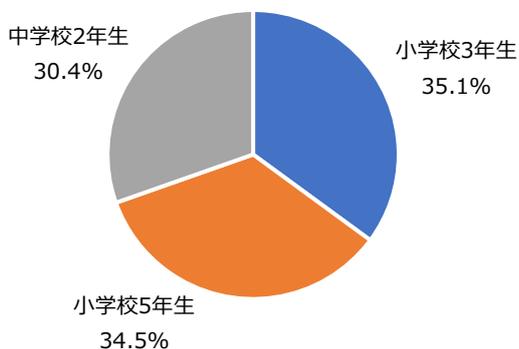
◆主な意見（要約）

- 国道 17 号の大気汚染騒音排気ガス等道路を改善することが一番。
- 都内在住の方が上尾は緑が少なくて日かげがなく暑くて、住みにくい所だと言っていた。中心市街地の緑化市街地調整区域に緑が残っているのはあたり前。中心市街地こそ、緑化が必要。
- 地域緑化推進については、行政そのものが寄付金等を募り、実績を確実にフィードバックする仕組みがあれば協力したい。
- 長期的に取り組むことが必要。緑地や農地の保全など、現在の環境を維持する担い手にお金をつけるべき。農業であれば、少々高くても地域の食材を積極的に給食に使うなどが必要。産業（農業）の維持、育成、雇用増、環境保全といった一体化した取組みが可能になる。
- 近年の気候変動により夏場でのスポーツ環境施設を将来的に作りたいと思っている。災害時に避難所として活用でき、太陽光や蓄電などを備え環境に優しい施設を作りたい。行政に支援・援助・助言など頂きたい。
- 洪水の原因となっている芝川、見沼用水の見直しが必要。県道の排水が、人口の増加で水量が増加している。歩道、車道に冠水が増えており、設計の見直しが必要。
- 地球温暖化に伴う環境破壊は事業者だけでなく、個人として生活していくなかで各々の意識や活動が必要。個人で自然環境を良くしたいと考えている人はたくさんおり、その方たちが行っている活動や知識を共有できる場所・イベント等があれば環境問題への個人の意識が広がっていくのではと思った。

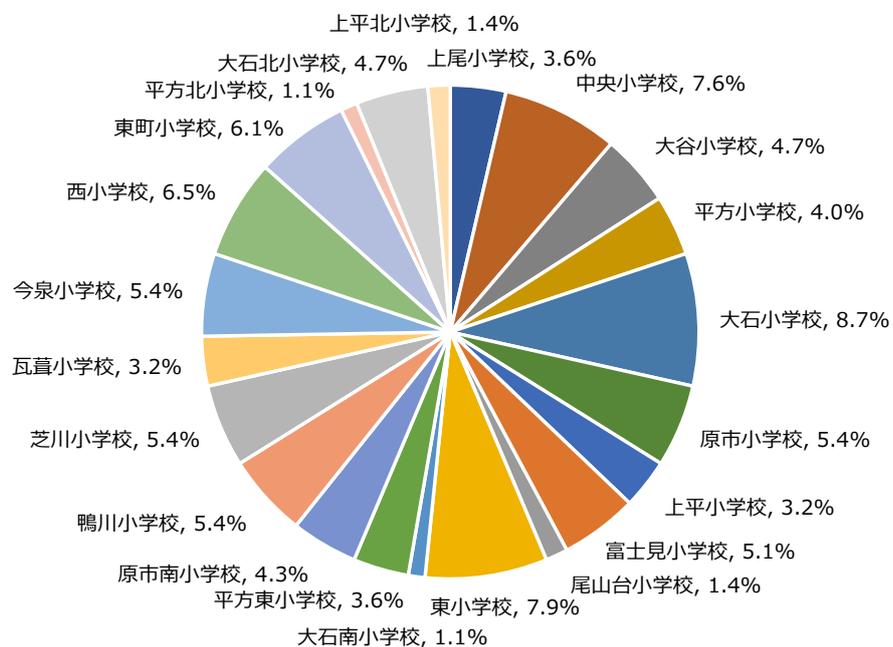
2-4. 小中学生アンケート調査結果

1) 回答者属性

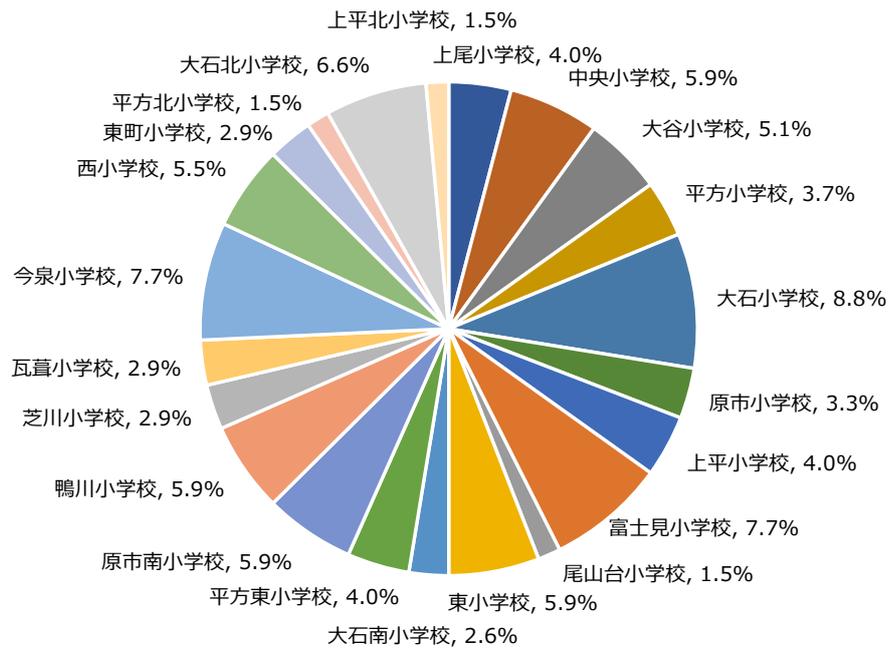
(1) 学年



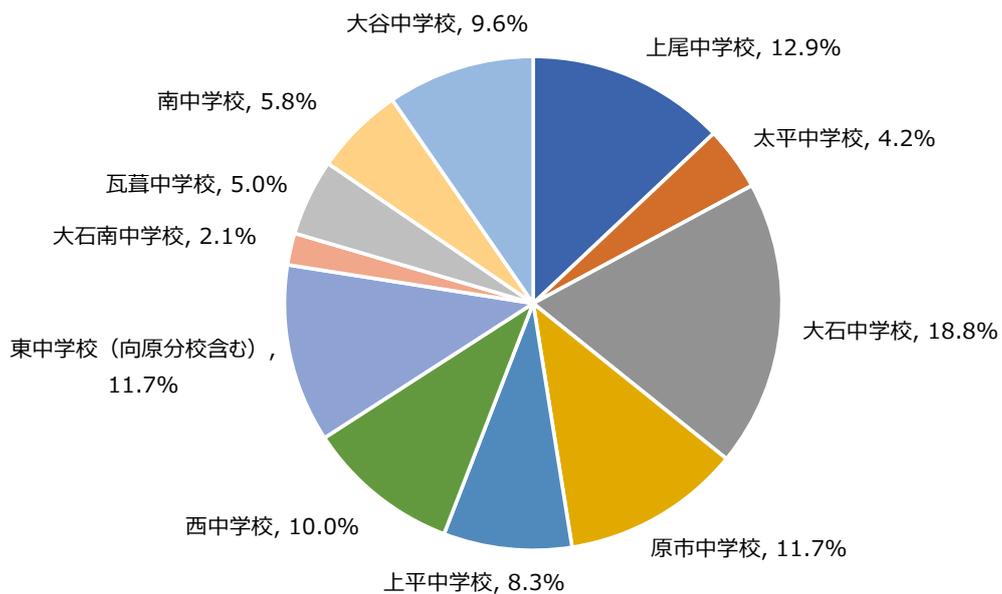
(2) 通学している学校 (小学校3年生)



(3) 通学している学校（小学校5年生）



(4) 通学している学校（中学校2年生）



2) 自分の住んでいる場所や地球の環境を守るためにやっていること

(1) 取組んでいる環境行動

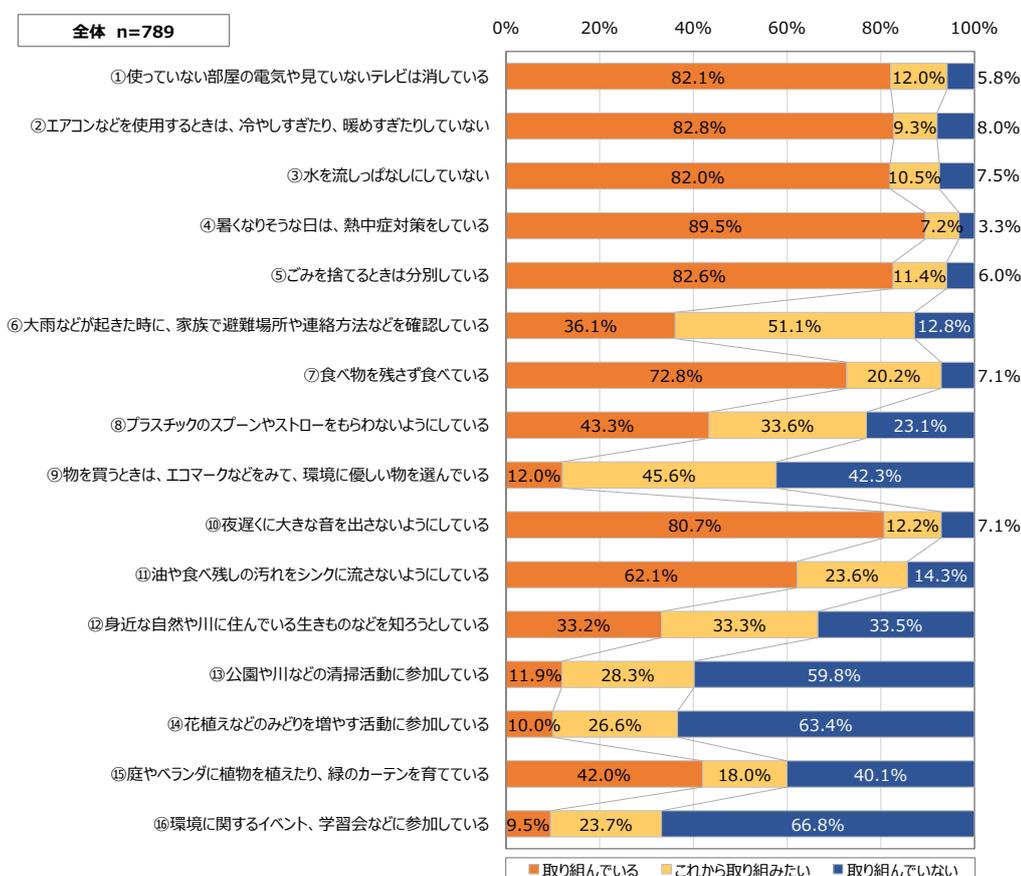
問 2 自分の住んでいる場所や地球の環境を守るために、普段からあなたが取り組んでいることを教えてください。

●取組んでいる環境行動（全体）

普段取組んでいる環境行動について、『取り組んでいる』は、「④暑くなりそうな日は、熱中症対策をしている（89.5%）」が最も多く、次いで「②エアコンなどを使用するときは、冷やしすぎたり、暖めすぎたりしていない（82.8%）」、「⑤ごみを捨てるときは分別している（82.6%）」、「①使っていない部屋の電気や見ていないテレビは消している（82.1%）」、「③水を流しっぱなしにしていない（82.0%）」が多くなっています。

『これから取り組みたい』は、「⑥大雨などが起きた時に、家族で避難場所や連絡方法などを確認している（51.1%）」と「⑨物を買うときは、エコマークなどをみて、環境に優しい物を選んでいる（45.6%）」が多く、5割前後の回答となりました。

一方、『取り組んでいない』は、「⑩環境に関するイベント、学習会などに参加している（66.8%）」、「⑭花植えなどのみどりを増やす活動に参加している（63.4%）」、「⑬公園や川などの清掃活動に参加している（59.8%）」が約6割以上と多くなっており、地域と一緒に行動する環境活動については取組むのは難しいと考えていることがうかがえます。

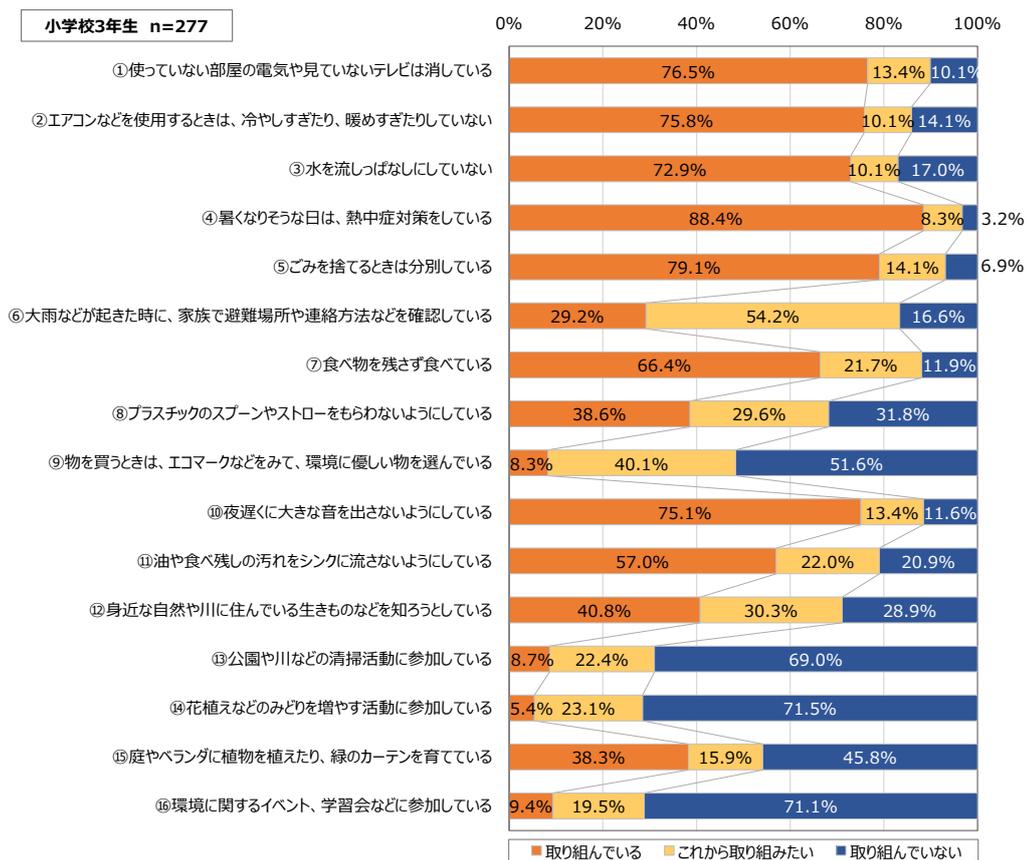


●取組んでいる環境行動（小学校3年生）

小学校3年生については、『取組んでいる』は、「④暑くなりそうな日は、熱中症対策をしている（88.4%）」が全体と同様に最も多く、次いで「⑤ごみを捨てるときは分別している（79.1%）」、「①使っていない部屋の電気や見ていないテレビは消している（76.5%）」、「②エアコンなどを使用するときは、冷やしすぎたり、暖めすぎたりしていない（75.8%）」、「⑩夜遅くに大きな音を出さないようにしている（75.1%）」が多くなっています。

『これから取り組みたい』は、「⑥大雨などが起きた時に、家族で避難場所や連絡方法などを確認している（54.2%）」と「⑨物を買うときは、エコマークなどをみて、環境に優しい物を選んで（40.1%）」が多く、全体と同様の順位となりました。

一方、『取組んでいない』は、「⑭花植えなどのみどりを増やす活動に参加している（71.5%）」、「⑯環境に関するイベント、学習会などに参加している（71.1%）」、「⑬公園や川などの清掃活動に参加している（69.0%）」が約7割以上と多くなっており、全体と同様に地域と一緒に行動する環境活動については取組むのは難しいと考えていることがうかがえます。

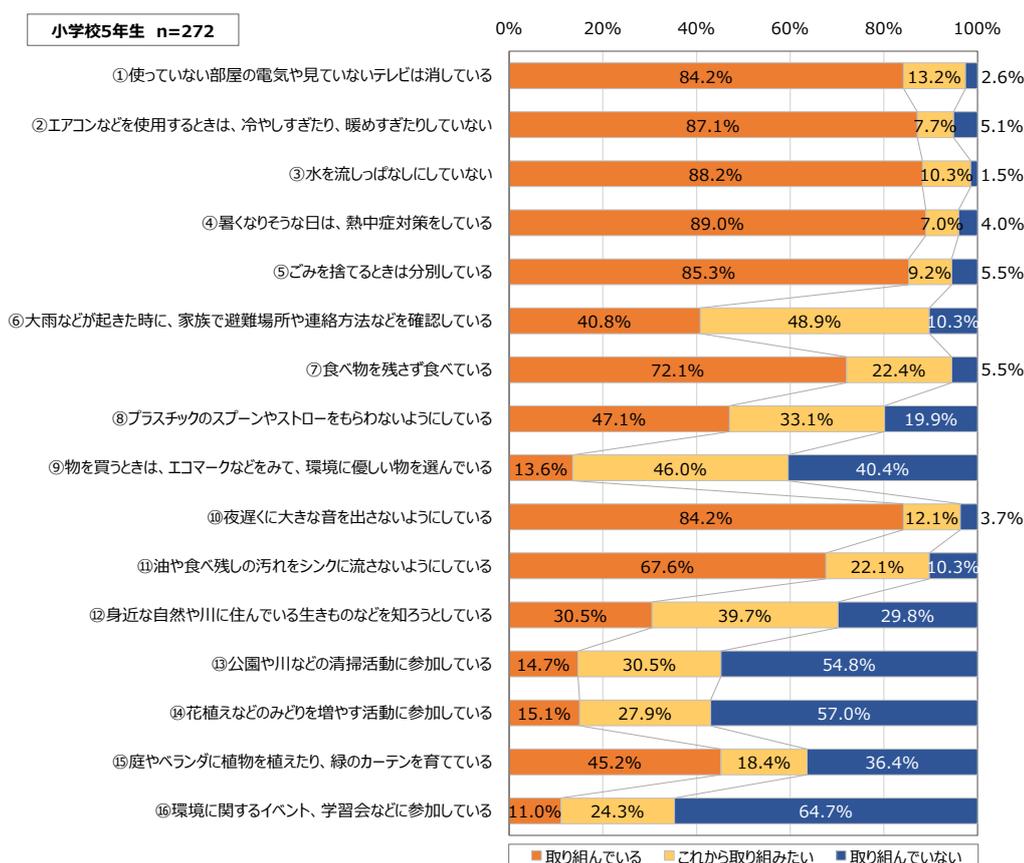


●取組んでいる環境行動（小学校5年生）

小学校5年生については、『取組んでいる』は、「④暑くなりそうな日は、熱中症対策をしている（89.0%）」が全体と同様に最も多く、次いで「③水を流しっぱなしにしていない（88.2%）」、「②エアコンなどを使用するときは、冷やしすぎたり、暖めすぎたりしていない（87.1%）」、「⑤ごみを捨てるときは分別している（85.3%）」が85%以上と多くなっています。

『これから取り組みたい』は、「⑥大雨などが起きた時に、家族で避難場所や連絡方法などを確認している（48.9%）」と「⑨物を買うときは、エコマークなどをみて、環境に優しい物を選んで（46.0%）」が多く、全体と同様の順位となりました。

一方、『取組んでいない』は、「⑩環境に関するイベント、学習会などに参加している（64.7%）」、「⑭花植えなどのみどりを増やす活動に参加している（57.0%）」、「⑬公園や川などの清掃活動に参加している（54.8%）」が5割以上と多くなっており、全体と同様に地域と一緒に行動する環境活動については取組むのは難しいと考えていることがうかがえます。

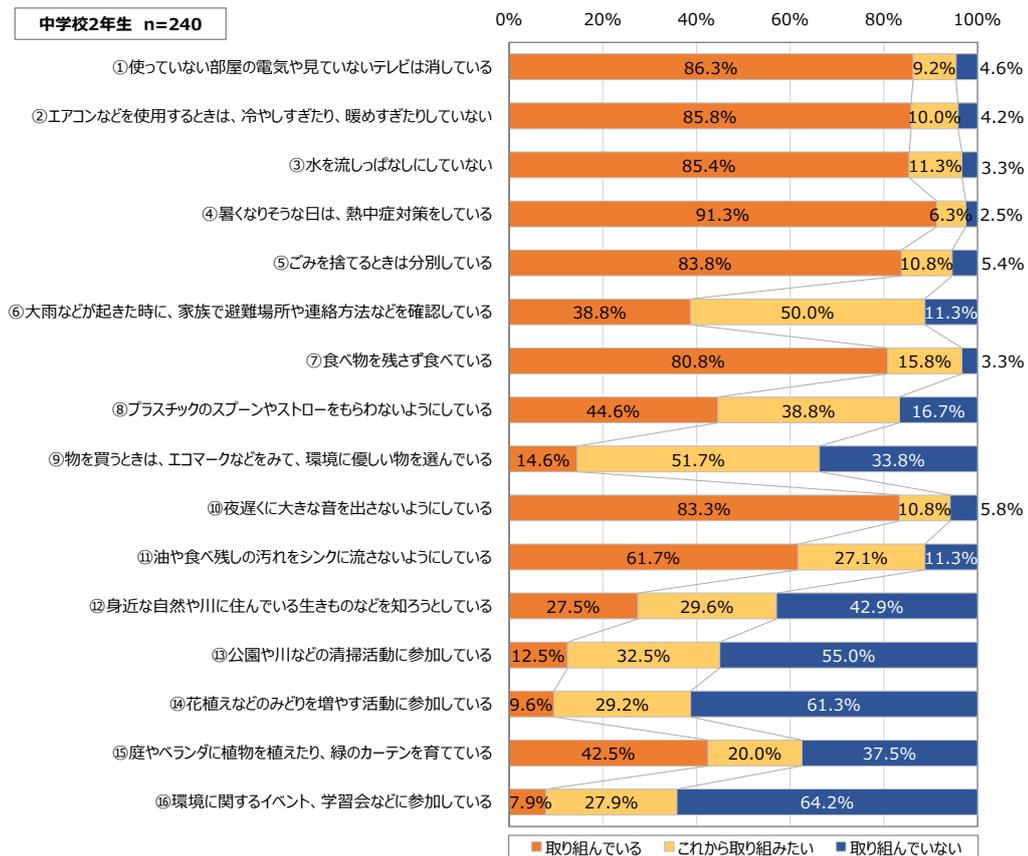


●取組んでいる環境行動（中学校2年生）

中学校2年生については、『取組んでいる』は、「④暑くなりそうな日は、熱中症対策をしている（91.3%）」が全体と同様に最も多く、次いで「①使っていない部屋の電気や見ていないテレビは消している（86.3%）」、「②エアコンなどを使用するときは、冷やしすぎたり、暖めすぎたりしていない（85.8%）」、「③水を流しっぱなしにしていない（85.4%）」が85%以上と多くなっています。

『これから取り組みたい』は、「⑨物を買うときは、エコマークなどをみて、環境に優しい物を選んで（51.7%）」、「⑥大雨などが起きた時に、家族で避難場所や連絡方法などを確認している（50.0%）」が多く、全体と異なり環境に優しい製品の購入が最も多くなりました。

一方、『取組んでいない』は、「⑩環境に関するイベント、学習会などに参加している（64.2%）」、「⑭花植えなどのみどりを増やす活動に参加している（61.3%）」、「⑬公園や川などの清掃活動に参加している（55.0%）」が多くなっており、全体と同様に地域と一緒に行動する環境活動については取組むのは難しいと考えていることがうかがえます。



●取組んでいる環境行動（学年別）

学年別に『取組んでいる』割合を比較すると、日常的な取組みについては、小学校5年生、中学校2年生の実施率が全体よりも高い傾向がみられました。

「⑫身近な自然や川に住んでいる生きものなどを知ろうとしている」については、小学校3年生の実施率が高く、身近な自然と触れ合う機会が多いことがうかがえます。

⑬～⑯の地域と一緒に行動する環境活動については、小学校5年生の実施率が高い傾向がみられました。

項目	(%)			
	全体 (n=789)	小学校 3年生 (n=277)	小学校 5年生 (n=272)	中学校 2年生 (n=240)
①使っていない部屋の電気や見ていないテレビは消している	82.1	76.5	84.2	86.3
②エアコンなどを使用するときは、冷やしすぎたり、暖めすぎたりしていない	82.8	75.8	87.1	85.8
③水を流しっぱなしにしていない	82.0	72.9	88.2	85.4
④暑くなりそうな日は、熱中症対策をしている	89.5	88.4	89.0	91.3
⑤ごみを捨てるときは分別している	82.6	79.1	85.3	83.8
⑥大雨などが起きた時に、家族で避難場所や連絡方法などを確認している	36.1	29.2	40.8	38.8
⑦食べ物を残さず食べている	72.8	66.4	72.1	80.8
⑧プラスチックのスプーンやストローをもらわないようにしている	43.3	38.6	47.1	44.6
⑨物を買うときは、エコマークなどをみて、環境に優しい物を選んでいる	12.0	8.3	13.6	14.6
⑩夜遅くに大きな音を出さないようにしている	80.7	75.1	84.2	83.3
⑪油や食べ残しの汚れをシンクに流さないようにしている	62.1	57.0	67.6	61.7
⑫身近な自然や川に住んでいる生きものなどを知ろうとしている	33.2	40.8	30.5	27.5
⑬公園や川などの清掃活動に参加している	11.9	8.7	14.7	12.5
⑭花植えなどのみどりを増やす活動に参加している	10.0	5.4	15.1	9.6
⑮庭やベランダに植物を植えたり、緑のカーテンを育てている	42.0	38.3	45.2	42.5
⑯環境に関するイベント、学習会などに参加している	9.5	9.4	11.0	7.9

※「全体値」よりも回答割合が高いものに網掛けをしています。

(2) 普段から取り組んでいる環境にやさしい行動

問3 普段から取り組んでいる環境にやさしい行動があれば、教えてください。

普段から取り組んでいる環境にやさしい行動を聞いたところ、213人(27.0%)、延べ234件の回答がありました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

ごみ・リサイクル・美化に関する行動について、回答が多くみられました。

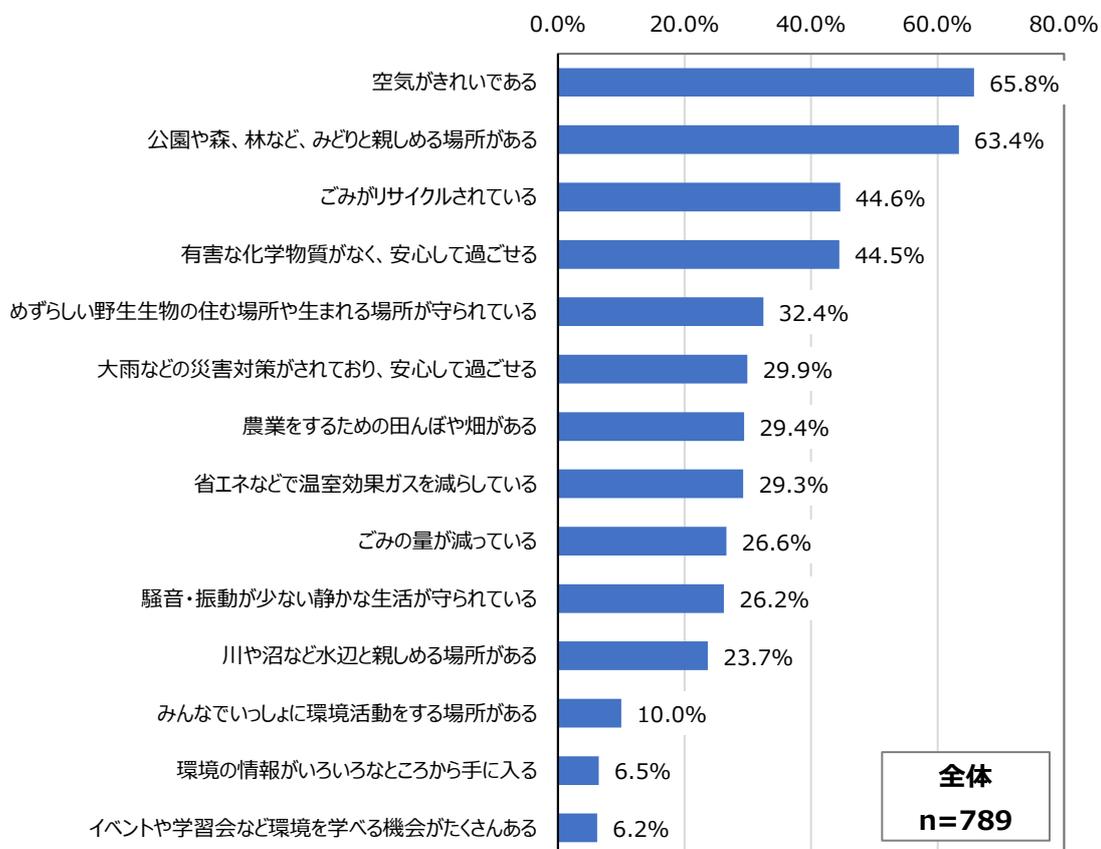
分類	件数
総計	234
ごみ・リサイクル・美化	(計) 157
リサイクル(牛乳パック、トレイ、ペットボトル、紙など)	31
エコバック・マイバッグ・レジ袋をもらわない	24
ごみの分別	23
食品ロスを減らす、食べ物を残さない、食べきれぬ量にする	15
ごみの持ち帰り、落ちているごみを拾ってすてる	15
ポイ捨てをしない、川にごみを捨てない	14
ものを大切に使う、無駄に買わない、ごみを増やさない	11
水筒、マイボトルの持参	9
いらぬ洋服を譲る、リサイクルショップに出す	4
裏紙など紙の再利用	2
ごみは指定の場所に捨てる、カラスに荒らされないように気をつける	2
その他(各1件)	7
手前どり、コンポストやフードロスを使った消しゴムづくり、コップで飲む(プラスチックを使わない)、リサイクル商品を利用する、コンビニでお箸をもらわない、ティッシュペーパーを使わない、ごみを小さくして捨てる	
省エネ・温暖化対策	(計) 48
電気をこまめに消す、節電	15
節水、湯船のお湯を使う、水を出しっぱなしにしない	11
車を使わずなるべく自転車や徒歩で移動する	11
エアコンの温度を気をつける、無駄につけない	4
太陽光発電	2
寒いときに毛布を使う、たくさん洋服を着る	2
その他(各1件)	3
コンセントを抜く、電気自動車、エネルギーを使いすぎない	
自然・生き物	(計) 14
植物を育てる、草むしり	5
生き物を大切に扱う、花を踏まない、木を切らない、生き物をむやみに殺さない	4
その他(各1件)	5
捕まえた生き物はその日に自然に帰す、生き物を育てている、親子で自然学習、自然妨害を注意する、界面活性剤を使わない	
環境行動・環境活動	(計) 12
地域のゴミ拾い活動、公園のそうじ、地域清掃、緑化ボランティアに参加	9
その他(各1件) 環境ポスター、SDGs	2
その他	(計) 3

3) 環境を守るために大切だと思うこと

問4 環境を守るために、あなたが特に大切だと思うことを5つまで選んでください。【複数回答】

●環境を守るために大切だと思うこと（全体）

環境を守るために大切だと思うことについては、「空気がきれいである（65.8%）」が最も多く、次いで「公園や森、林など、みどりと親しめる場所がある（63.4%）」が6割以上の回答となっています。このほか、「ごみがリサイクルされている（44.6%）」、「有害な化学物質がなく、安心して過ごせる（44.5%）」が4割以上の回答となりました。

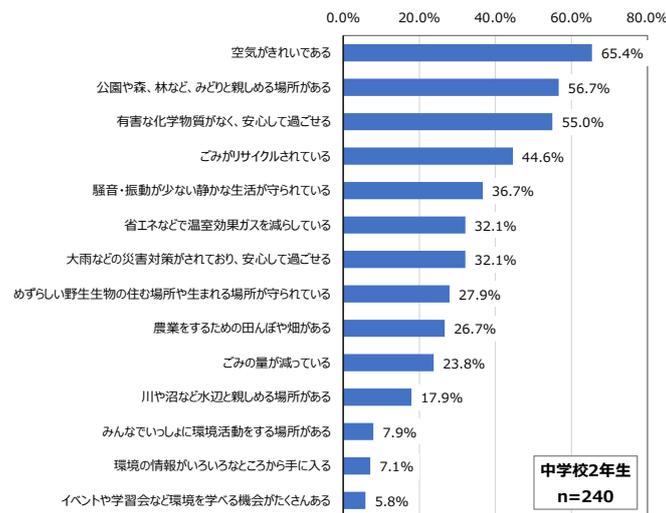
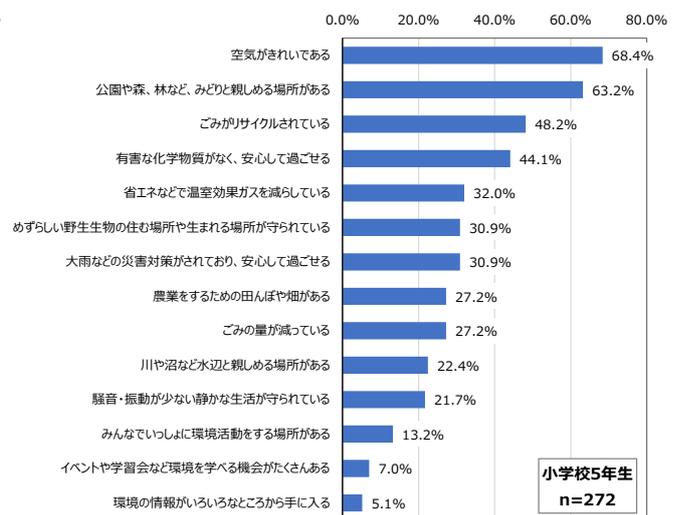
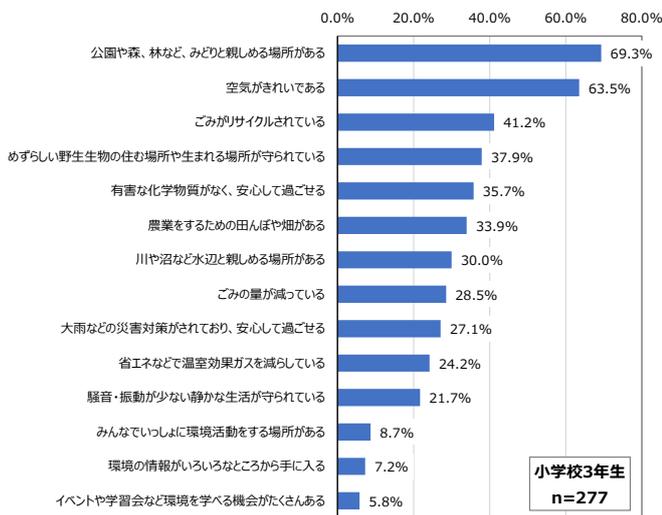


●環境を守るために大切だと思うこと（学年別）

学年別でみると、小学校3年生では、「公園や森、林など、みどりと親しめる場所がある（69.3%）」が最も多くなっています。他の学年と比較すると、「めずらしい野生生物の住む場所や生まれる場所が守られている（37.9%）」が4位と上位に入っています。

小学校5年生では、「空気がきれいである（68.4%）」が最も多くなっています。他の学年と比較すると、「省エネなどで温室効果ガスを減らしている（32.0%）」が5位と上位に入っています。

中学校2年生では、「空気がきれいである（65.4%）」が最も多くなっています。他の学年と比較すると、「有害な化学物質がなく、安心して過ごせる（55.0%）」が3位、「騒音・振動が少ない静かな生活が守られている（36.7%）」が5位と上位に入っています。



4) 将来の上尾市の環境について

問5 将来、上尾市の環境がどのようになっているとよいですか。また、そのためにあなたができることはありますか。

将来の上尾市の環境と自分ができることについて聞いたところ、277人(35.1%)、延べ372件の回答がありました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

分類	件数
総計	372
自然豊か、みどり・公園が多い、いきものがすめる	120
ごみがなくきれい・ごみの量が減ってリサイクルされている	117
温室効果ガスが減っている	28
安全で安心できる	27
空気がきれい	19
住みやすい	13
川や水辺がきれい	12
環境に興味をもつ、環境行動をする	9
地域活動、環境活動に参加する	8
静かな環境	4
仲良く、楽しく、コミュニケーションがとれる	3
その他	12

◆主な回答【将来の上尾市の環境】(抜粋)

- みどりが多く空気のよい環境
- みんなが住みやすい環境
- 公園が充実していて、安心できる街
- 川がキレイで、緑がたくさんある上尾市
- 緑を増やして暑さ対策
- ゴミがなく、自然が多く 安心して動物や人間が暮らせるといい
- リサイクルが進んでいる
- みんなが仲良く出来る上尾にしたい
- 災害が少なく、安心して暮らせるようになると良い
- 温室効果ガスが減っているとよい
- 田畑が守られる
- 騒音が少なく空気がきれいだといい
- 有害物質もなく、緑が残っているとよい
- 川が綺麗でたくさんの生き物が住める
- みんなが快適に過ごせる環境
- 大雨等の災害対策がしっかりされている

など

◆主な回答【できること】(抜粋)

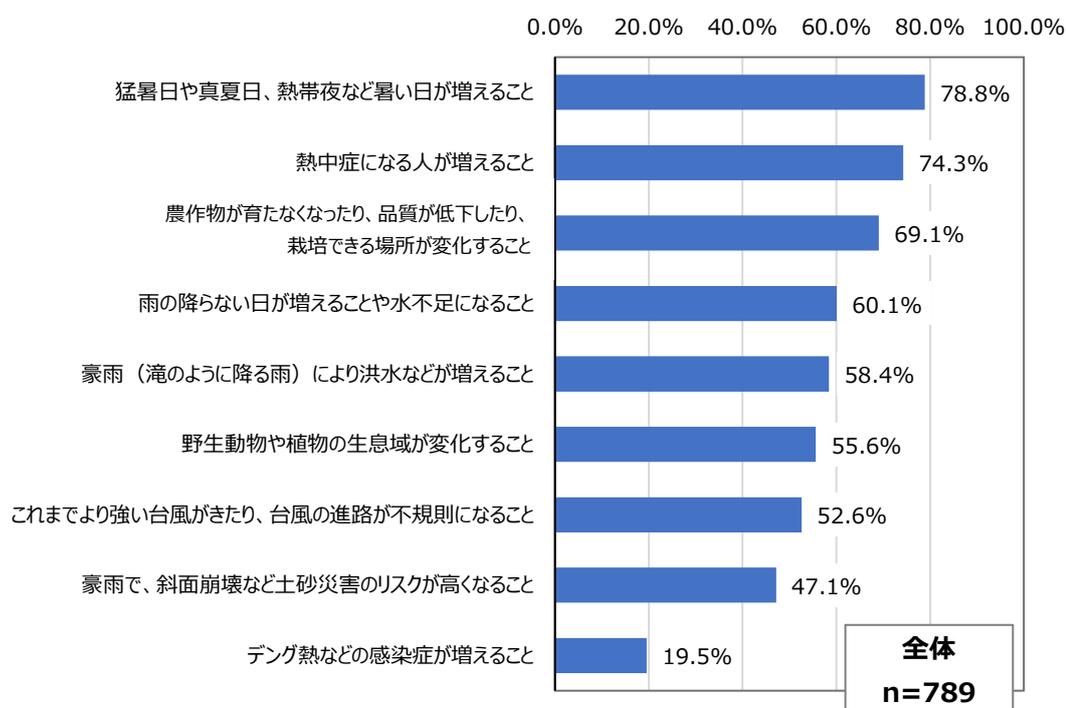
- 森を保護する
 - 庭にたくさん植物をうえる
 - 木をたくさん植える
 - 自然を楽しみ感謝する
 - 緑を増やす手伝いをする
 - ポイ捨てをしない
 - ゴミ拾いに参加したい
 - ゴミを出さない。必要なもの以外買わない。ものを大切に使う
 - 食べ残しを減らす、フードロスをなくす
 - ゴミの分別をきちんとする
 - リサイクル活動に力を入れる
 - リユースのものを買う
 - なるべく車を使わない
 - 水、電気を大切につかう
 - 環境について学校で教えてもらいたい
 - 環境に優しい取り組みを学んで自分が出来ることをやっていきたい
 - 自分にできる環境に優しい行動をたくさんする
 - 学校の環境委員になる
 - ボランティア、地域の活動に参加する
 - 社会に役にたつ人になりたい
- など

5) 地球温暖化について

問 6 地球の気温は、この 100 年で 1℃以上あがっています。あなたが知っている地球温暖化の問題をすべて選んでください。【複数回答】

●知っている地球温暖化の問題（全体）

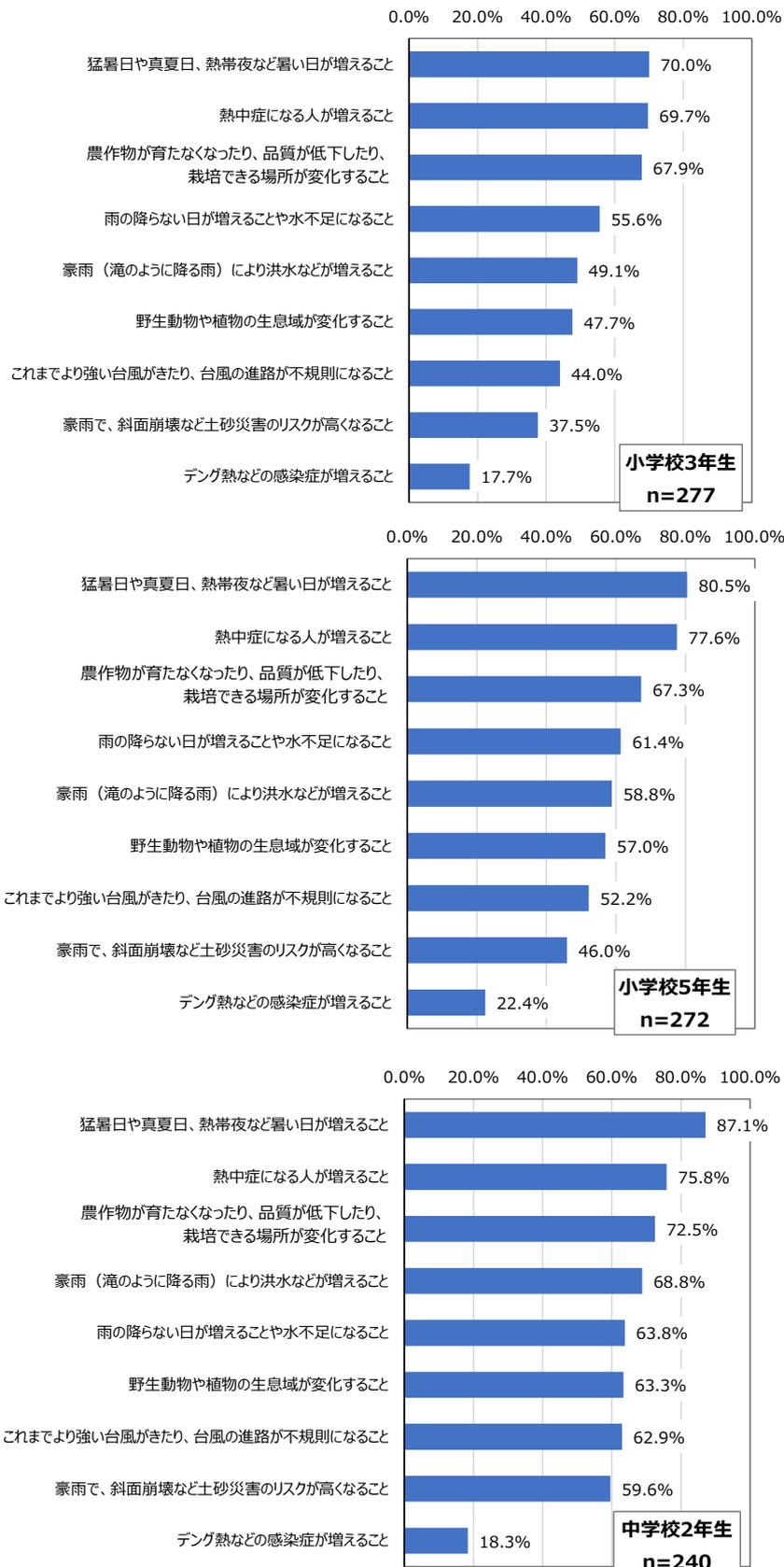
知っている地球温暖化の問題については、「猛暑日や真夏日、熱帯夜など暑い日が増えること（78.8%）」が最も多く、次いで「熱中症になる人が増えること（74.3%）」、「農作物が育たなくなったり、品質が低下したり、栽培できる場所が変化すること（69.1%）」が多く、約 7 割以上の回答となっています。一方、「デング熱などの感染症が増えること（19.5%）」の認知度は低く、他の項目との差が大きく開いています。



●知っている地球温暖化の問題（学年別）

学年別で見ると、小学校3年生と5年生では、すべての項目が同じ順位となっています。「農作物が育たなくなったり、品質が低下したり、栽培できる場所が変化すること」以外のすべての項目で、小学校5年生の方が認知度が高くなっています。

中学校2年生では、「デング熱などの感染症が増えること（18.3%）」以外のすべての項目で約6割以上の回答率であり、小学生と比べると全体的に認知度が高くなっています。



2-5. 意識調査のまとめ

意識調査の結果について、国の第6次環境基本計画における個別分野の重点施策の区分に基づく分野ごとにまとめと課題を整理しました。

●気候変動対策

- ・関心のある「環境問題」において「地球温暖化」が市民は86.9%で最上位、事業者は90.7%で2位と関心が高くなっています。
- ・日常的に取り組める省エネ行動の実施率は、市民・事業者・小中学生すべてで高く、普段の行動として定着していることがうかがえます。
- ・省エネ再エネ設備については、LEDなどの高効率照明は市民65.8%、事業者71.6%と導入率が高くなっています。その他の設備は買換えの機会や建物の形態などの影響もあり、3割程度より低い導入率となっているものの関心は高い状況です。導入しない理由として高い割合であげられている費用への支援に関する情報提供のほか、不安を解消するための情報や効果の明示などがあげられ、こうした課題に対応していくことで取り組みが拡大していくことが期待できます。また、集合住宅やテナント企業など、個人や企業が建物の所有者でない場合に対応するため、マンションやビルオーナーへの働き掛けも必要と考えられます。
- ・市の特性から、公共交通機関の整備や利用促進、自動車走行環境の整備に対する期待が高くなっています。電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車などの次世代自動車の普及とともに、移動手段の利便性向上と脱炭素化が求められています。
- ・気候変動のリスクとして、市民・事業者・小中学生すべてで気温の上昇や熱中症のリスクがあげられています。「暑さから身を守る場所や対策」の市民の満足度も低い状況です。気温の上昇は既に顕在化している気候変動リスクとなっており、民間施設も含めた指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の拡大や暑さに対応した生活習慣や業務環境の見直しなどが必要とされています。

●循環型社会の形成

- ・関心のある「環境問題」において「ごみの分別・リサイクル」が市民は85.6%で2位、事業者は93.3%で最上位と関心が高くなっています。
- ・ごみ・資源の分別の取り組みの実施率は、市民・事業者・小中学生すべてで高く、普段の行動として定着しており、市民の満足度も比較的高くなっています。
- ・事業者では、再生品の採用やプラスチックの代替品の使用などについて実施予定の割合が比較的高く、今後のリサイクルの取り組みの拡大が期待できます。一方、実施予定がない事業者も一定程度あり、コストや技術、情報等について県の支援制度も含めて情報共有や啓発等を行い、循環経済の構築に向けた環境整備を支援していくことが考えられます。
- ・プラスチック資源循環促進法の施行に伴いプラスチックリサイクルや製品化を促す制度が整備されたことから、一般廃棄物のプラスチックごみの再資源化などによりごみの減量へとつなげていくことが期待されます。

●自然共生社会（自然・みどり、生物多様性）

- ・市民の身近な環境課題として、自然の少なさや森林や里山生き物の減少などが上位に入っており、市が重点的に進めるべき環境対策では、市民・事業者では「雑木林などの緑地の保全、公園の整備」が最上位、小中学生でも環境を守るために大切なこととして「公園や森、林など、みどりと親しめる場所がある」が2位となっていることから、自然や緑地の減少は大きな課題として捉えられ、対策が求められています。
- ・小中学生が思う将来の上尾市の環境では、自然が豊か、みどりや公園が多い、いきものがすめるなど自然に関連する内容が最も多くあがっていました。市民が思う将来に向けて残したい身近な自然環境として、上尾丸山公園などの公園や原市沼（蓮池）などのほか、身近な自然を感じられる場所が数多くあげられましたが、一方で伐採や宅地開発でなくなってしまった場所もみられ、自然環境に対する市民の満足度は高くない状況です。新たな生物多様性条約により、自然環境については保全から2030年までに回復させていくことが期待されていることから、貴重な自然を残していくための対策を強化していくことが求められています。
- ・生物多様性の保全に関する取り組みやSDGsに対応する取り組みを実施もしくは予定している事業者は5割未満となっています。自然環境の回復のためには、事業者等の民有地のみどりなども保全していく必要があることから、国の民有地の緑地等の保全などを促進する新たな制度などに関する情報発信や行政としてできる支援策を検討していく必要が考えられます。

●安全・安心・快適な生活環境

- ・クリーン上尾運動の認知度は約5割と他と比較して高く、地域清掃や美化・緑化に参加・協力している事業者も4割近くと美化活動は活発ではあるものの、「ごみの散乱やポイ捨てなどが無い周辺のきれいさ」の市民の満足度が前回調査より悪化しており、市民の身近な環境課題では「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が最上位となっています。市が重点的に進めるべき環境対策では、「ごみの不法投棄対策やまちの美化推進」が市民3位、事業者では2位となっており、小中学生が思う将来の上尾市の環境では、ごみがなくきれい・ごみの量が減ってリサイクルされているなどごみや美化に関連する内容が2番目に多くあがっていました。引き続き、市民・事業者・行政協働による美化活動を推進するとともに、より多くの方が美化に関心を持ちポイ捨て等を行わないよう、更なる啓発策が必要と考えられます。
- ・生活公害については、水のきれいさに対する市民の満足度が低くなっていますが、前回調査と比較すると改善傾向がみられます。油や調理くずなどを下水に流さないなど生活排水を汚さない行動の市民の実践率は8割以上と高く、排水処理施設の適切な維持管理をしている事業者も5割以上となっており、引き続き水質汚濁の原因となる生活排水対策や事業者への指導を行い、水質の向上に努めていく必要があります。
- ・このほか、市民の身近な環境課題や自由記述において、放し飼いや糞害などペットを飼っている人に対する注意喚起の必要性があげられていました。また、空き家や耕作放棄地の雑草や樹木の管理、道路や河川等の雑草などについても課題としてあげられており、安心・安全な生活環境の確保のためにも対策が求められています。

●環境教育・パートナーシップ

- ・環境情報の入手や環境学習・環境活動の機会などの分野に対する市民の満足度は、すべての分野のなかでも最も低くなっています。
- ・環境学習や地域の環境活動は、市民の実施率は高くはないものの、4割近くが今後取り組みたい意向を持っています。市の環境のイベントや取組み等についてすべて知らない市民は4割近くとなっており、特に50歳代未満において知らない割合が多くなっています。環境情報の有効な発信手法をみると、年代により情報の入手手段が異なることから、世代に応じた情報発信方法の検討が必要となっています。より多くの人に情報を届けるために、駅や商業施設、地域のメディアなど情報発信においても協働で実施していくことが有効と考えられます。
- ・市民が環境行動に取組まない理由として、「時間や手間がかかる」が5割以上と最も多くなっています。共働きの増加など生活様式の変化に配慮し、時間的制約のないオンライン方式や学校行事と連携した活動機会など、学習や活動の実施方法の多様化についても検討していくことが求められています。
- ・事業者については、環境活動で得られた効果として「企業イメージ・信用性の向上」をあげる事業者の割合が前回調査より向上しており、環境に配慮した事業活動が企業価値の向上につながっているという認識が少しずつ高まっていることがうかがえます。
- ・一方で環境活動を実施するにあたっての課題として、コストや人員などをあげる事業者の割合が多く、望ましい市のサポートでも助成制度や環境情報提供の充実化があげられています。昨今、国や県等においても気候変動や自然再生や生物多様性の保全、循環経済への移行など多くの支援策が設けられていることから、これらの情報提供を充実化させるとともに、まだ取組みに着手できていない事業者等に向けたセミナー等学習や啓発機会の提供を行っていくことが必要と考えられます。また、市と協力・支援できる取組として、資金援助のほか人的労力の提供、情報発信の支援などに対する回答もあり、協働による事業者全体の取組みの底上げを進めていくことも考えられます。